

北区上十条一丁目西地区
路地園芸トライアル
報告書

平成 18 年 5 月

全国路地のまち連絡協議会

も く じ

調査の目的・方法

1 トライアルの目的	1
2 対象地区	1
3 トライアルの方法	4

路地園芸トライアルの内容

第1回ワークショップ	5
講演「江戸の園芸を知る」	
配付資料1	3 2
配付資料2	3 9
第2回ワークショップ	4 1
「上十条一丁目西町会路地園芸探検と路地園芸ワークショップ」	
第2回ワークショップのまとめ	5 6
配付資料1	6 0
配付資料2	6 3
第3回ワークショップ	6 4
「路地園芸実践トライアルワークショップ」	

路地園芸トライアルのまとめ

1 トライアルの従前従後	8 5
2 路地園芸トライアルのまとめ	9 0
3 終わりに	9 1

資料編

第1回ワークショップ案内	9 3
配付資料3	9 4
配付資料4	1 0 0
第2回ワークショップ案内	1 0 5
第2回ワークショップ 路地園芸探検ルート図	1 0 6
第3回ワークショップ案内	1 0 7

I 調査の目的・方法

1 トライアルの目的

路地（街なかの昔からの狭い道）のある街の多くは、安心して暮せるコミュニティが育っている。商店街では、狭い道に並ぶ店が賑わいある界隈を生み出し、住宅地においては子供の安全な遊び場であり、住民たちの井戸端会議の場であり、暮らしの場の延長である。

その街で生活する人々の息づかいが聞こえてくるような路地は、日本の都市の原風景のひとつであり、その路地の鉢植えや見越しの松などは、路地の景観構成要素として大きな役割を果たしていると考えられる。また、都市の環境要素としても大きな役割を果たしていると考えられる。

江戸時代には、庶民の中に園芸文化が根付き、庶民の中から新品種を生み出すなど文化的にも高い水準にあったといわれている。

私たちは、この江戸園芸文化を踏まえて、路地の園芸を推進するとともにその技術を高めることによって、都市の原風景の一つである路地景観の向上をめざすとともに、路地発信の文化を育成していきたいと考えた。

本トライアルは、「東京都北区上十条一丁目西町会」及び「十條あすみの会」の協力のもと、北区環境課及び（財）北区まちづくり公社の後援を得て行った。主催は「東京都北区上十条一丁目西町会」と「十條あすみの会」及び「全国路地のまち連絡協議会」の共催とした。

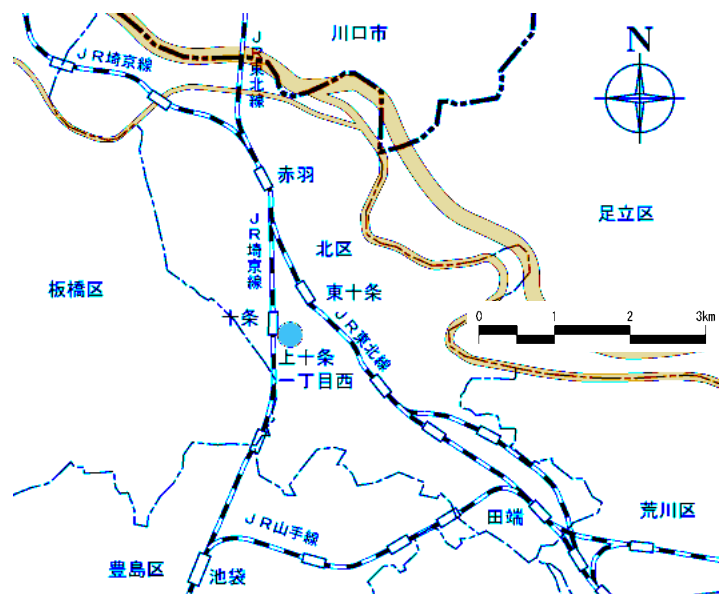


2 対象地区

本トライアルは、「東京都北区上十条一丁目西町会」会員及び「十條あすみの会」会員を中心として行った。対象地区は「東京都北区上十条一丁目西町会」全域とし、実践トライアルは対象地区内の路地とした。

1) 十条地区の位置

対象地区が含まれる東京都北区十条地区は、東京区部の北部に位置し、ＪＲ埼京線十条駅を中心とした地域である。十条地区は、ＪＲ埼京線十条駅から池袋に２駅７分、新宿に１１分、渋谷に１７分となっている。また、隣接するＪＲ京浜東北線東十条駅からは東京駅に２３分と都心部に非常に近接した地区である。



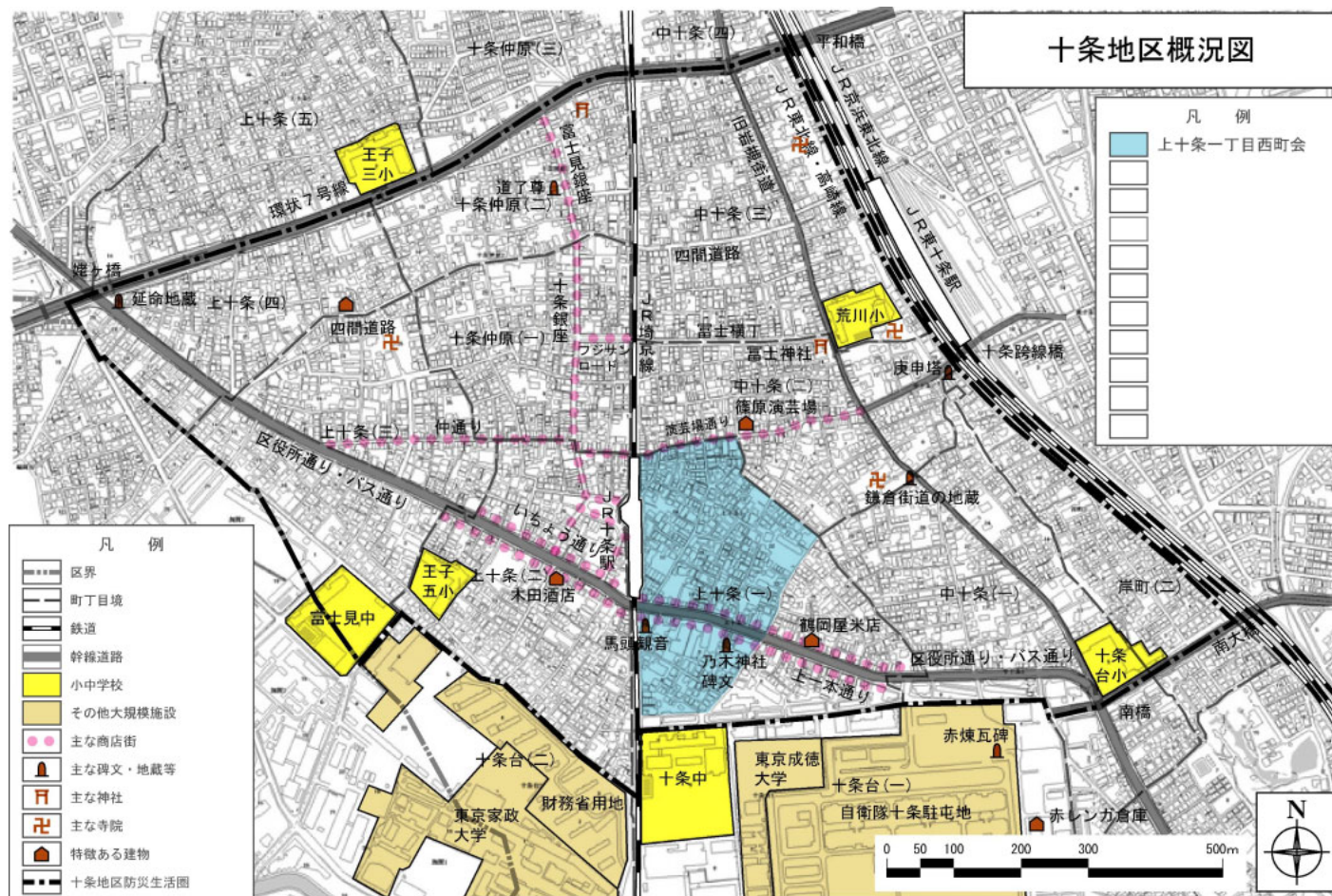
2) 十条地区の概況

十条地区は、東京の環七沿いに広がるいわゆる「木造密集市街地」の一つであり、4m未満の狭隘道路を主体とした脆弱な都市基盤の上に、木造住宅が密集している地区となっている。このため、十条地区では、十条地区95ha(下図参照)において都の防災都市づくり推進計画(旧防災生活圈促進事業)が進められているとともに、密集事業(住宅市街地総合整備事業：上十条三・四丁目地区、上十条一丁目・中十条一～三丁目地区)などの密集市街地を改善する事業が展開されている。

また、十条地区の南側及び東側JR東北線沿いは崖地となっており、十条地区そのものは台地上に位置している。特に、南側崖沿いの地区は、旧陸軍に利用された大規模用地であり、現在は学校や公園、財務省用地、自衛隊十条駐屯地等が立地しており、これら一帯が都指定の避難場所となっている。

十条地区には、その周辺も含めて大規模な商業施設の立地がなく、十条駅を中心としていわゆる近隣型の商店街が縦横に発達し、賑わいのある商店街となっている。

なお、地区の東側に隣接する東十条地区は、JR東北線と崖により分断され十条地区とは別の生活圈となっている。



3) 上十条一丁目西地区

今回のトライアルの対象地区である「上十条一丁目西町会」は、JR 埼京線十条駅の東側に隣接する町会である。また、まちづくりに対する意識と理解の高い町会である。

これまでに、防災マップの作成、広場等整備のワークショップ、防災広場やまちづくり用地の自主管理、商店街道路のプランター花植えなどを行っている。また、この町会を母体として、地域が安心して住めるようにと、防災・防犯ボランティア団体「十條あすみの会」を結成し、会員は周辺の町会に広が

っている。この地区では、上十条一丁目西町会と上十条一丁目本通り商店街及び十條あすみの会が密接に連携してまちづくりを進めているとともに、十條地域のまちづくりイベント「十條遊縁市」の運営の中心的な役割を果たしている。

上十条一丁目西町会およびトライアル対象路地等の範囲・位置関係は下図の通りである。



3 トライアルの方法

本トライアルは3回のワークショップで構成した。

1) 第1回ワークショップ

江戸における庶民の園芸文化について、賀来宏和氏（都市環境プロデューサー：(株) グリーンダイナミクス代表取締役）を講師に迎えて「江戸の園芸を知る」と題して講演を行った。

この目的は、一般市民の活動を高めることによって世界に誇れる文化になることを認識してもらうとともに、まちの視点で園芸などを考えてもらうきっかけづくりにおいた。また、質疑応答において、知っていたつもりの園芸手法等の再認識を促し、当ワークショップへの興味を増すことを図った。

2) 第2回ワークショップ

上十条一丁目西地区内を「路地園芸探検」と題して歩き、地区内の園芸の状況を視察した後、トライアル対象路地を視察し、実際の園芸方策について、参加者により議論した。

路地園芸探検においては、近所の園芸を知ることにより、単独で行っている園芸をネットワークする機会の提供を図った。これにより、住民相互の園芸に関する情報交換を促し、園芸技術の向上につなげていく。

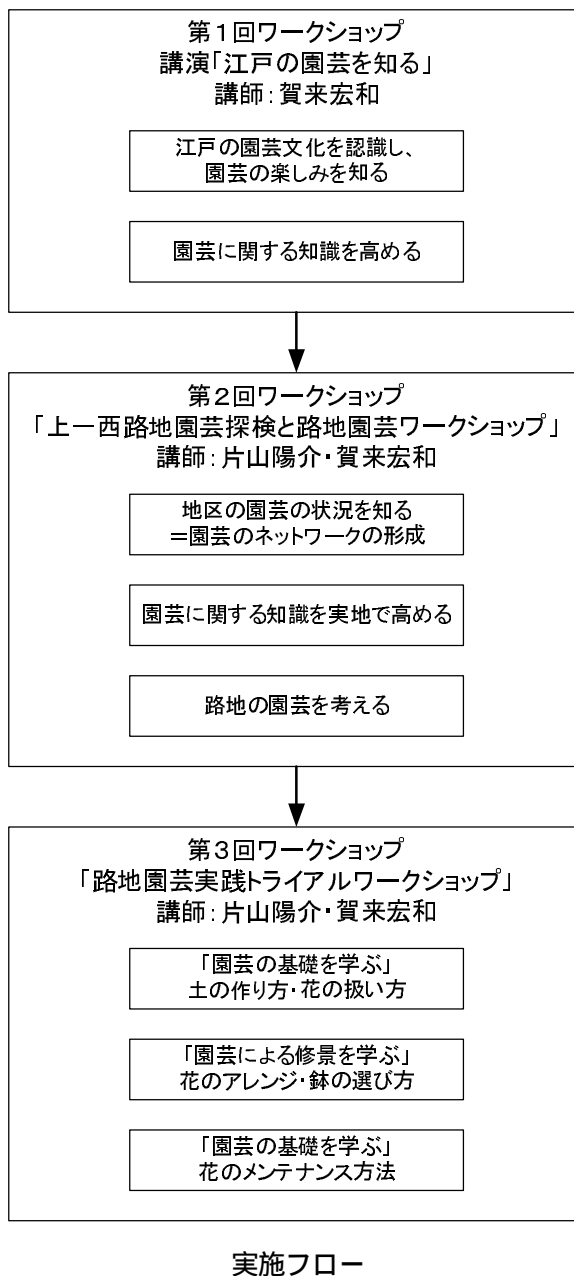
また、トライアル対象路地についての修景方策について、講師を交えながら住民同士で意見交換しながら試行錯誤を行った。

3) 第3回ワークショップ

第2回に検討した修景方法を実践した。

最初に、今回選んだ花の特徴や取扱について講師より学び、講師の植え方の見本を参考に、住民自身により実際に植え付けや鉢植えの修景等を行った。

最後に、住民の園芸作業について講師より問題点等の指摘を行い、今後のメンテナンス方法について意見交換を行った。



Ⅱ 路地園芸トライアルの内容

上十条一丁目路地園芸トライアル

第1回ワークショップ 江戸の園芸を知る

講師：賀来 宏和 氏

株式会社グリーンダイナミクス代表取締役

- 講 演 「世界一の江戸園芸」
- ・ 100年ぶりに訪れたガーデニングブーム
 - ・ 世界を凌駕した江戸園芸
 - ・ 江戸園芸の特徴
 - ・ 将軍から庶民への300年
 - ・ 外国人が驚嘆した江戸の町と人
- ビデオ上映 「大江戸花暦」(浜名湖花博)
- 質疑応答

平成18年2月21日(火)

13:30～15:45

上十条一丁目西町会会館

講演 「世界一の江戸園芸」

司会：木村

みなさん、こんにちは。今日は寒いなか、お忙しいなかご参加いただきましてありがとうございます。路地のまち連絡協議会の事務局長という雑役をやらせていただいています、木村と申します。よろしくお願いします。

日頃はあすみの会でも皆さんとは、花植えとか広場のお掃除とかで一緒させていただいていますが、今日は立場を変えまして、路地のまち連絡協議会の事務局ということで、皆さんにお集まりいただきました。

去年、路地のまち連絡協議会と、こちらにいらっしゃるあとでご紹介しますが賀来さんという園芸協会の方、それから都市計画家協会の美しいまちづくりプロジェクトの三者が運悪くどこかで飲んじゃったんですね。飲んじゃいまして、是非一緒にやろうなんていうことを勝手に決めた人が端っこの方にいるんですけれども、いきなりやるんだということで、事務局おまえががんばれということでやってきました。今回上西町会の皆さんのご協力を得て、路地園芸トライアルということで、路地の園芸をカッコよくしていこうというようなことをやってみようじゃないか、ということでご協力得ることができてありがとうございます。ということで、本日は沖田さんの方から後でごあいさついただくとして、

沖田

あいさつはらない。

司会

いいですか。では、今日講師に来ていただいているのは、グリーンダイナミクスの代表取締役をされている賀来さんです。

賀来さんは、もう一昨年になるんですかね、浜名湖花博のプロデュースをされた方です。花博は町会で見に行かれたそうですが、その総合プロデュースをされた方です。楽しい話が聞けるかと思しますのでよろしくお願いします。

今日の予定ですが、一応お手元にお配りしている内容で、お話を先にして、後ビデオを見ていただくということにさせていただきます。では、あと賀来さんをお願いしてよろしいですか。

■ 自己紹介

賀来

みなさん、こんにちは。今日は町会の会館を使ってお話しをしますので、少し脱線をしながらですね、わたしも立ったり座ったりしながらお話しをさせていただきたいと思っています。一応時間は１時半から４時ということですが、お互いにくたびれちゃいますので、まあ適当なところでみなさん耐えられないなと思ったら手を挙げていただいて、



ただビデオとかですね、いきなり話を止めるわけに行きませんので、できればもうダメだ
と思う30分前くらいに、もうそろそろやめる体制に入れとこういう風に言っていただければ幸いでございます。

お手元に、賀来ってありますけれども、女優に賀来千賀子あの方も大分の出身なんですよ、賀来っていうのは大分県にある名前です。わたしは九州の小倉生まれですけれども、もともと父方が大分でございます。賀来千賀子のおじいさんになる人が大分の安心院（あじむ）というところにおりまして、遠戚、まあ親戚だろうと思いますけれども、まあそんなことでございます。

先ほどご紹介いただきましたように、2004年の4月から10月までありました浜名湖花博の総合プロデュースということで、全体の計画を足かけ7年くらいお手伝いをしまして、なんとか540万人の方にご覧いただきました。去年は愛・地球博という万博がございましたけれども、こちらの万博の中のお花も私どもの会社でお手伝いさせていただきました。社員が4人ほど行っておりました。

そう申し上げると花とか緑は詳しくて後でいろいろと質問をしようかなということがあると非常に困るもんですから、というのは、わたしはさほど、言っているほどには園芸はよく存じ上げてはおりませんし、それからまじめな話をしますと、NHKの趣味の園芸という番組がありますけれども、あの中でも解説者の説明に間違いを見つけるくらい皆さんの知識の方が上回ってきている状況です。ということで今日は助手としてイケメンのお兄ちゃんを連れてきておりますので、片山といいます。彼は植物のことよくわかりますし、女性のファンが多い。何か植物についてわからないことがありましたら後でご質問いただければ、と思います。

それから2回目以降皆さんと一緒にちょっと飾ってみようというときには、彼が先生になってわたしが助手の方になりまして、苗を運ぶのは私の方でお手伝いすると、こういうことでございます。

肩書きにありますように、都市環境プロデューサーなんていうのは適当に付けている名前ですが、3つ目に英国王立園芸協会日本支部理事というのはですね、英国王立園芸協会というのは世界で一番大きい園芸の愛好者団体で、今イギリスがほとんどですけれども35万人会員がおります。実は昨日この会長さんがおみえになってまして、東京ドームでらん展がございますよね、あの審査委員をおやりになっている関係でご夫妻でおみえになっていました。

この英国王立園芸協会というのは王立でして、エリザベス女王陛下が名誉総裁です。従って会長といっても貴族でよくありますよね、何々伯爵とか侯爵というのがありますけれども、向こうでいうとサー(Sir)というのが付いているんですね。これ、江戸弁じゃありませんよ。サー、サー何とかというのが付いてまして、偉い方のようにあります。昨日も少しいろいろとお話しをしてきましたけれども、日本の支部も一生懸命がんばっているというお話しをしたところでございます。

日本は全国で3000人を越す会員がいて、色々な植物を楽しんでいます。また、皆さんも興味がございましたら英国王立園芸協会日本支部というのがございますのでお問い合わせをいただければと思っております。

じゃあ今日の本題についてお話しをしていきたいと思っております。立ったり座ったりしながら

ら、よろしいですか。

沖田

その椅子を使った方が、立ち座りが楽じゃないですか。

■ 100年ぶりに訪れたガーデニングブーム

ガーデニングブームを再起させた「国際花と緑の博覧会」

賀来

えー、ちょっと高いところから申し訳ありません。

世界一の江戸園芸ということでお話しをしますけれども、100年ぶりに訪れたガーデニングブームということですね。ガーデニングという言葉、皆さんわかりだと思えますけれども、だいたい世の中にこの言葉を流行らせたのは3人、俺が流行らせたという人がいます。

一人はかくいう私でありまして、1990年に大阪で国際花と緑の博覧会という大きい博覧会があったんですよ。この企画を昭和58年からお手伝いをしまして、こういう催しを通して今日言うところのガーデニングを流行らせたいなあとということで、仕事を担当しました。

それから2人目は『わたしの部屋B I S E S (ビズ)』っていうお庭の雑誌があるんですよ。ここに八木波奈子さんという編集長がいらっしゃるしまして、この方が「ガーデニングという言葉はわたしが流行らせた」とおっしゃっていますね。ガーデニングという言葉は1992年に流行語大賞になりました。ですからもう14年たっておりますけれども、その八木波奈子さんが、その流行の仕掛け人です。どういう風にしてどーんと流行ったかという、1992年に『わたしの部屋B I S E S』が、「チャールズ皇太子の庭」という特集を組みました。これが爆発的に売れまして、このおかげでガーデニングという言葉が流行語になったんですね。

またもう1人いるんです。これはアイリスオーヤマっていう会社知ってます？アイリスオーヤマってホームセンターに行くと押し入れの収納家具あるでしょ、収納家具とかね、ペットフードとか、ガーデニング用の色々なプラスチックの鉢、これも作っている会社で。もともとは仙台でたった3人で創業した会社なんですけど、大山さんという社長がいらっしゃるしまして、東京ですと広告看板が新橋の第一ホテルの付近にありますよね、あのすぐ脇のところにネオンサインがついています。第一ホテルの所有者じゃないですよ。ガーデニングのアイリスオーヤマっていうハートのマークみたいなネオンサインがついていますけれども。この大山社長も「俺が流行らせたんだ」ということであります。

国際園芸博覧会とは

こういうガーデニングなんですけど、まさに表題に書きましたように100年ぶりに日本に再来したということで、こう横文字で書きますから偉そうな気がしますけれども、決し



て豊かになって西暦1990年頃から始まった訳ではなくてずっと昔に大変なガーデニングブームがあったということでございます。このガーデニングブームの火付け役は何かということ、小笠原亮さんというNHKの「趣味の園芸」で時々講師されておられる方ですが、この方が『江戸の園芸 平成のガーデニング』という本の中にそのことを書いています。

アジアで初めての国際園芸博覧会「国際花と緑の博覧会」

小学館で出ていますのでご覧いただきたいですけれども、ここにこんなことが書いてあります。「日本のガーデニングブームの火付け役は、平成2年に大阪で開催された『国際花と緑の博覧会』だと思います。広大な場所を使って、平面的に、また、立体的にデザインされた植物が人間の社会にもたらす可能性をあれこれと提示して見せたあの花博は、日本の花文化を大きく転換させたと思います。」(資料1)ということで、ガーデニングブームは花の万博がどうも作ったということを言っているみたいです。

こういう園芸博なんですから、いずれも19世紀の中頃、1800年代の中頃に色々な博覧会とかフラワーショーが世界で生まれています。アジアで初めて行いました博覧会がこの「国際花と緑の博覧会」、そして皆さん町内会でご覧いただきました「浜名湖花博」というのは我が国で3回目の園芸博覧会になります。

わが国で3回目の国際園芸博覧会「浜名湖花博」、その3つのねらい

この浜名湖花博なんですけど、3回目ということでいくつかねらいを込めて作っています。1つは庭文化の創造ということなんですね。それから2番目が今日のお話の主題になります、わが国の伝統園芸文化の保存継承ということです。素晴らしい伝統があったんだけど、多くの方が忘れておられるんで、これを何とか残してつないでいきたいというねらいであります。そして3番目にガーデニングブームで花や緑を楽しまれる方が非常に増えました、こういう方々に植物についての知識とか興味を一層深めていただくというのがねらいがありました。今日はこの2つ目のねらいに沿った、「浜名湖花博」の園芸文化館というのがございましたけれども、ここで行われたこと等についてお話ししたいと思います。

2つ目のねらいに沿った「浜名湖花博」の「園芸文化館」

そもそも「浜名湖花博」でなぜ園芸文化館というものをつくったかといいますと、江戸の園芸の大きな発祥になりましたのは徳川家康が非常に植物好きだったということですね。ということで1600年以降江戸、そして駿府城を行ったり来たりしておりますので、静岡とのご縁が特にあったということですし、現在でも伝統園芸、オモトとかですね、こういった伝統園芸は、現在、静岡県そして愛知県が非常に盛んであります。ということで静岡とご縁があるということです。

それから後ほど出るかもしれませんが、シーボルトという長崎に来ておりましたオランダのお医者さんがいますね、1800年代の後半に来ましたけれども、彼が『江戸参府紀行』という本を書いています。長崎から将軍に会うためにずーっと東海道を上ってくるんですね。そのときの物語を江戸参府紀行という本に書いています。

この中に「自分が見た最も美しい庭園は原の宿にあった」と書いてあるんですね。原の

宿というのは現在の沼津にある原の宿でありまして、ここに書いていますように帯笑園(たいしょうえん)というのが原の宿にありました。これは武士ではなくて商人あるいは庄屋さんだったと思うんですけれども、植松さんというお宅でありまして。ここに大変な植物が集められていたということがあります。ここでビデオ上映と書いてありますが、これは後ほど皆さんに見ていただくとして、2 ページ、3 ページに移りたいと思うんですけれども。

江戸の園芸と言うとですね、素晴らしいということですね、色々な方がおっしゃるんですけれども。なぜ素晴らしいかというようなことについて、ちょっとまとめてみます。

■ 世界を凌駕した江戸園芸

観賞対象としての園芸

もともと人類はいつ頃から花とか緑を楽しむようになったかというのはよくわからないわけなんですけれども。我々の祖先、人類の祖先でネアンデルタール人とかですね、直接の祖先じゃないんですけれども、もっと人間と猿の中間みたいな人類がおりますけれども。現在の湾岸戦争がありましたイラクにですね、ネアンデルタール人を葬ったお墓みたいなものがあります。このお墓の発掘をしますと、どうもお花と一緒に遺体が埋められていたということがわかるんですね。それは花粉が残っているんですね。分析をしますと花粉が残っていて、ネアンデルタール人は数万年前に埋葬されるときにお花を手向けられていたと、いうようなことがわかったりします。

また、だからといって花が当時観賞の対象になっていたかどうかということはわからなくて、おそらく植物と人類とのつきあいというのは、食べ物から始まって次に動物のえさとかですね、それから衣料なんかをやるうちにだんだん野生からとるのではなくて栽培するようになりますね。そのうちに呪術ですとかね、今日でいうところの医療とか、お医者さんですか、保健とか、そういう意味合いで植物が使われるようになって、そのうちだんだん見るような対象になったんじゃないかと言われています。

東洋と西洋の二大潮流

こういう風に見るようになったのは、誰が初めに見たか何ていうのはわかりませんけれども、大きく地球規模で見ると東洋と西洋と全然違う発達があるんですね。ヨーロッパ、西洋の方ではですね地中海といいますか、エジプトとかね、ちょうど今植物があまりなくなって砂漠になっていますけれども、あの場所は昔は実は植物があったんですね。レバノン杉なんてありますけれども、今レバノンに行ったらレバノン杉なんてほとんどないです。でも昔はうっそうとしていた森だったんですね。森を切り開いて文明化しましたので、かえって緑がないわけなんですけれども、そういうところから次第に植物、花や緑を楽しむという文化が育って行って、だんだんギリシャとか、ローマとか今日のヨーロッパ、イギリスに代表されるような西洋の園芸の楽しみ方が育っていきます。

じゃ東洋はどうだったかというと、別に西洋かぶれでガーデニングっていう横文字だからいつか西洋から勉強したんだろうということではなくて、これは全く違う流れで東洋にも観賞園芸が始まったと言われています。もちろんこれは大陸にその起源を持っているので、一番盛んだったのは宋の時代といわれています。中国は漢とか明とかいっぱい国の名

前がありますけれども、園芸がもっとも発達するのはこの時代らしいですね、960年から1279年の宋の時代に一番花や緑が盛んであったと言われています。ちょうど日本では平安末期から鎌倉時代の頃でして、この宋の中で良く流行った植物は牡丹なんだそうですね。牡丹が大変盛んになります。

わが国の園芸史（江戸園芸までの歴史）

我々の国を見てみますと日本独自で生まれた文化もありますけれども、大陸から色々なものが入ってきます。植物を觀賞する文化っていうのもおそらく大陸から入ってくるうちに日本独自のものと一緒になってものが生まれてくるのではないかとされています。例えば日本だと桜を觀賞しますね。染井なんかは江戸で非常に盛んになります。ところが中国っていうのは桜は園芸化していないんです。中国も日本も野生種、桜はあります。日本にも大島桜とかですね、たくさん野生種がある。中国にもヒマラヤ桜とかたくさんあるんですね。しかし中国では園芸化されていません。

園芸化というのはどんなことかという、色々な品種が作られていくということですね。日本では独自の觀賞対象や觀賞方法ができあがる以前は、中国の植物に当てはめて身近な植物を觀賞したんじゃないかというようなこともいわれていきます。ちなみに中国で園芸化されたのは梅です。梅は觀賞用の植物として中国で発達しますが、日本には奈良時代にですね、初めは見る植物というよりは医薬品とか実梅（みうめ）ですね、実梅としておそらく入ってきたといわれています。次第に梅の花を觀賞するということが入ってきますので、人々は身の回りで梅を觀賞したいわけですが当然日本には梅はありません。従って花としてよく似ているような桜がですね、だんだん梅の代わりに觀賞の対象になったんじゃないかなといわれています。

これはずっとその後も続くことで、江戸時代にも「大和本草（やまとほんぞう）」なんていう農業書がありますけれども、この「大和本草」っていう本草書の、いわゆる植物図鑑ですね、見本は李時珍（りじちん）という中国の人が書いた「本草綱目（ほんぞうこうもく）」という中国の植物図鑑ですね。この中国の植物図鑑に書いてある植物を、日本の植物にあてはめようあてはめようとして作ったのが、貝原益軒が作った「大和本草」という植物図鑑になるわけです。

中国、中国というと日本人としてさびしいところもありますけれども、大陸から色々な文化が来て日本人がそれに当てはめて独自の文化を創ってきたと、こういうことであります。そのことは別にわたしが言っている訳じゃなくて、2ページから3ページに書いています中尾佐助先生というたいへん著名な先生が、「花と木の文化史」という本に書かれています。そうこうするうちに鎌倉時代からだんだん日本でも觀賞の園芸が盛んになってくるんですねけれども、初めは我々一般の庶民ということじゃなくて本当に一部の貴族がそういうものを觀賞しているわけですね。

だんだんそれが年月を経るに従って武士を含めた上流階級が教養として園芸を嗜むようにな



ります。江戸時代の直前に流行っていたものは椿です。豊臣秀吉は椿をずいぶん集めたと言われていまして、これは当時の貴族の嗜好を真似たものと言われております。当時の貴族はずいぶん椿を愛していたということでもあります。

三代将軍が生んだ江戸園芸

ここいらあたりから急に変わってくるのは、江戸幕府ができることですね。江戸幕府ができて徳川の三代の将軍がたまたま三人とも植物大好き人間だったので、江戸の園芸が大変発達をしてくるようになります。将軍という当時の頂点に立った人がまず自らやりはじめたということと、色々なことがありましたけれども徳川の300年間で、世界の歴史の中で見ると比較的平和で安定した時代が長く続きます。そのおかげで日本独自の園芸というのが発達をしていきます。

■江戸園芸の特徴

この江戸の園芸というのが世界の園芸文化の中でどういうことかということ、先ほど中国の宋で非常に発達をしたといいますけれども、中国の宋の時代、そして今日のイギリスを中心とするヨーロッパ、そして日本の江戸時代というのは三大園芸文化といってよろしいくらい素晴らしい園芸文化が開いたといわれています。これも中尾佐助先生の書物に書かれていますように、「江戸期の日本の花卉園芸文化は全世界の花卉園芸文化の中で、もっとも特色のある輝かしい一時期である。」ということで、これは当時、後ほど出てきますけれども、幕末に訪れた青い目の人たちがですね、当時の日本を見て本当にびっくりしちゃうんですね。もう大変なことだということで、驚いたという記録が残っています。

変わり葉へのこだわり

それでは江戸園芸ってどのような特徴があったかということが重要ですね。これはまた皆さんの興味にもつながると思うんですけれども、ひとつは「変わり葉へのこだわり」です。

最近観葉植物ってありますね、横文字でいうとオーナメンタルグラスなんて言いますが、何のことはない日本だとススキっていう雑草なんですけれども、これがヨーロッパにいくと改良されてオーナメンタルグラスということで装飾用の草花になったりしますね。どうも日本はどんどん雑草になっちゃうものだから、みんな嫌われるんですけれども。エノコログサなんかも雑草ですけれどもこれも考え方によってはとてもきれいなフラワーアレンジの材料になったりします。

この葉っぱに美しさを発見したのは、西洋人ではなくて日本人が初めてなんですね。日本人が初めて。幕末に訪れたヨーロッパの人たちが「葉っぱに何でこれだけ興味を持っているんだ」ということを驚いています。例えばゼラニウム。ゼラニウムってよくプランターなどに植えて楽しめますね。ペラルゴニウムというのが正式な学名です。ゼラニウムというのはもうちょっと葉っぱが柔らかい別の属のものがああります。あのゼラニウムも、ヨーロッパの人は花を觀賞するために色々な改良をしていきます。ところが日本に初めてゼラニウムが入ってきたのは江戸時代末期だといわれているのですけれども、入ってきた植物の葉っぱの違いを一生懸命觀賞しているんですね。で、葉っぱの美しいものばかり

集めてしまう。

当時ゼラニウムはモンテジクアオイ(紋天竺葵)という名前で呼ばれておりました。要するに色々な斑が入ったり、紋が入ったり、モンテジクアオイということで楽しまれておりました。

たおやかな美しさへのこだわり

それから2番目の特徴は「たおやかな美しさへのこだわり」ということです。ヨーロッパに行きますと、花でも一重から八重とか大きい花を、とこういう風になります。葉っぱもこう立派な葉っぱ、と。

ところがどうも日本人は自然の中からまれに生まれてくる特殊な形を「芸」というんですね、芸といいまして珍重して弱々しく育てにくい個体を大切にするというたおやかさ、を尊重するような美意識というのを持っていたといわれています。

後ほどビデオで出るかもしれませんが、変化朝顔というのがあります。変化朝顔はビデオで見ると結構立派ですけども、植物個体自身は全然立派じゃないんですね。わたしの母親は85才になるのですけれども、彼女の家に変化朝顔の種を播いていたら病気にかかっているといって引っこ抜いちゃったんですけれども、葉っぱなんか縮れていますし、決して立派じゃないんですね。その立派でないものを非常に珍しいということで大切にしているところがあります。

よく園芸の世界でいうとですね、今ちょうど東京ドームでらん展をやっていますけれども、園芸は時として自然を破壊することがあります。山に行って大切なものを採ってきたりしますから、ということで生物の多様性を破壊するとか言われているんですけれども、日本人は種の中にある多様性を大切にしたいという歴史を持っているんですね。同じ種類なんだけれどもその中のちょっとした弱々しいものもきっちり発見してそれを大切にしてお残していく、ある意味では最先端の生物多様性の保全です。

わずかな個体の変異の中から自然選抜、人間の技との組み合わせ

三番目の特徴はですね、基本的には交配ということで受粉させておしべとめしべで新しいものをつくるということではなくて、自然の中から選んでくるということも特徴なんですね。自然の中から山の中でほんのわずかな違いを見つけては、それを大切に品種として取り扱うという特徴もあるようです。次のページにいきますと、自然の中からわずかな違いを選ぶ、そしてたおやかな美しさということでいきますと、この品種を残しておくことって難しいんですね、4ページが一番上ですけども、実は人間の業との組み合わせなんです。

こんなことをやっている園芸というのは、日本の園芸しかないんですね。人間のわざとの組み合わせというのはどういうことかということ、栽培方法に特別な技術とか工夫をしませんと、その品種が失われてしまうんですね。先ほど芸という話をしましたがけれども、芸をしなくなるといわれています。従ってその性質を残していくためには、人間がうまい栽培方法を見せてやらないといけないということがあります。

ここまでいくとやや特殊な世界になりますけれども、斑入りの植物がありますね、白い斑が入っている、あれもずっと入っている訳じゃなくてですね、伝統園芸の世界に「のち

はぜ、のちくらみ」という言葉があります。こんなこと全然覚える必要ないんですよ。「のちはぜ」というのはですね、「後冴え」とも言いますが、栽培している後から斑が入っちゃうんですよ。途中で突然変異は起こらないですから、そういう性質なんでしょうね。栽培して少し大きくなっていくうちに斑が入るんですよ。

「のちくらみ」っていうのは反対に栽培していくと斑が入っていたのがだんだんなくなる、そんなことも品種として認めてやる訳ですね。だから個別の色々な植物を育てるために、色々な工夫をしているんですね。南天の種類にキンシナンテン(琴糸南天)というのがあります。これは非常に細い葉っぱですね、キンシナンテンなんかはやや「からめ」につくらないと芸をしないといわれています。

「からめ」につくるということは、あまり水をやらないということですね。ところが水をやらないとすぐ枯れてしまいますので非常に難しいですね。というのを江戸っ子たちは非常に膨大な時間と労力をかけて技術を創造したとこういうことですね。

植物観賞のための装飾や作法の存在

それからだんだんまたすごくなるんですけども、植物観賞のための装飾とかですね、作法があったということで、これはすべてにあったわけではないですが、現在でもオモトなんかは観賞のためのオモト専用の鉢がありますけれども、色々な植物に専門の鉢があったといわれています。もうほとんどなくなってしまっていますので、朝顔なら朝顔、それからサクラソウもですね、特別な鉢があったと、こういうふうにいわれています。

それから入れた器だけじゃなくてそれに対してその植物をどうやって見るかということで、3つくらい大きな要素があるんですね。ひとつは植物自体に求められる形っていうのが、どうもあるんですね。いくらきれいで整っていても、ある一定のルールを満たしていないとこれはダメと、いうことを決める訳ですね。

例えば肩が上がっていなければダメだとか、詳しいことはよくわかりません。2番目は、決められた鉢に入れて後ろに金屏風を置いて見ろとか、しつらえの仕方ですね。それから3番目にはですね、今度は人間の側ですね。正座して見ろとか、懐紙をくわえて刀と同様に息をかけちゃダメとか、こういう観賞方法も出てくるわけですね。こんなとてつもない文化をつくる訳です。今、茶道とか華道というと、「道」がついていますが、まさかこういうのは(片手でお茶を飲む仕草)茶道っていいません。でも園芸もですね、実は華道、茶道以上の厳しいしきたりというのが本来あったので、それは今現在ほとんど忘れられてしまっています。もちろんすべてがすべてではありません。

日本は茶道をやっているからといって、普通にお茶を飲むのは茶道とはいいいませんけれども、園芸もそうでした、非常に裾野が広く広がった園芸がすべてそのような格式ばった園芸で、じゃあ江戸っ子はみんな正座して植物を見ていたのかと、そういうことではありません。ただしそういうものすごいお師匠さんのレベルの高等な園芸もあったと、こういうことでございます。

園芸書の出版などの知識と教養への結びつき

それからですね、また西洋と比較してすごいのは園芸書などの出版ですね、浮世絵にも出てきますけれども、その栽培のための園芸書、今もガイドブックとかたくさん出ていま

すけれども。

ちょっとここでPRで、パンフレットを持ってくるのを忘れましたけれども、今度NHK出版で「バラ百科」という本が出ます。今ちょうど書店で販売の予約をしていますけれども、この「バラ百科」は上田善弘先生と河合伸志という二人の監修になっておりますが、この河合伸志というのがうちの社員でございます、バラの育種をやっておりますけれども、またご覧いただければと思います。ちょっと脱線。

この園芸書が多いわけです。今NHK出版の話をしましたけれども、今でこそ印刷技術が発達しておりますから原稿さえ書いて写真を撮れば済みますが、それでも大変なんですよ。この河合君がこの「バラ百科」を書き上げる為にうちの会社がつぶれるくらいのエネルギーを投入する訳ですね。当時木版でそれだけの園芸書をつくるということは大変なことだった訳でありますけれども、色々な図譜、そして銘鑑なんていうのが出ますね、銘鑑というのはちょうど大相撲になぞらえて東の大関西の大関ということで、この品種が一番すごいというようなことをやっていくわけです。

遊び心を前提

それから、何がすごってこの植物につけられた古典文学等の名称ですよ。最近はこちら、この中には植物を生産されている方はおられないですね、北区だからないでしょうね。だったら言いますけれども、今はいい加減に植物の名前を付けちゃうから、奥ゆかしくないんですよ。「白熊君」なんて名前の植物があります。「白熊君」というのはサルビア・アルゲンティアナという植物ですね。スタキスという属で通称ラムズイヤーといってウサギの耳みたいに、触ると非常に気持ちいいんですけれども、それに似ていてちょっと違うやつですけれども、「白熊君」なんてあだ名を付けまして、要するに白熊の耳に似ているというようなことで名前を付けるんでしょうけれども、全然興味がございませんけれども。

昔の人たちはですね、大体二つの名前の付け方をしております。ひとつはその植物個体の特徴を表しているようなことを付けていますね、のちほどちょっとお見せしますけれども、「麒麟角」なんていって、麒麟という想像する動物の角に似ているということで、「麒麟角」という名前を付けました。それからもう一つは完全にいわゆる文学とかこういったものから付けてくるわけですね。これは決して大名とかが付けている訳ではなくて、普通の生産者の人、普通に楽しむ人たちがそういう品種名を付けているわけですね。

ということで、寺子屋が発達していたこともありますけれども、当時世界の中で識字率というのは日本が一番だったわけですから、江戸時代は。かなりですね、江戸っ子たちが色々なものを遊びながらやっていたということがわかります。その次も同じなんですが、遊び心を前提としていますね、先日向島百花園にお邪魔しまして、佐原鞠塙（きくう）さんの6代目ですか？

大熊（会場参加者）

8代目

賀来

8代目？だそうですけれども、お聞きしたら初代の佐原鞠塙さんというのは1804年に向島百花園をつくったんですね。それはなぜかということ、初代の佐原さんが御府内で、いわゆる江戸市中でオークションをやったらしいんですね、Yahoo!オークションみたいな。それは幕府にとって御法度なので、しょうがないから川向こうに行ったと、こんな話がありましたけれども。川向こうに行って何をやるかということ、梅屋敷をつくるわけですね、それが百花園ですし、浅草にも「花やしき」って名前の遊園地が残っていますけれども、あれは江戸時代の名残ですね。そういう遊び心を前提にどんどんどんどん広がっていくわけです。

身分を超越した広がり

それから最後に実に園芸ということで当時は階級社会ですから、士農工商とかですね、そういうものがありますけれども、園芸を通じた身分を超越した広がりというのがあります。例えば町人で「繁亭金太」という方がいますけれども、この方は斑入り植物、斑の入った植物が大変好きで集めるわけなんです。植木屋さんなんです。集めていたら、水野という旗本がいて、お殿様が。この人がパトロンになってお金を出して「草木錦葉集」という図譜、園芸書をつくるかですね、好き者同士は境がないと。こういう広がりをしていたというのが、江戸の園芸の特徴であります。

また、下に中尾佐助さんの色々なことが書いてありますけれども、葉っぱとか、たおやかな芸とか、人間との組み合わせとか、遊び心とか、そういうものが江戸の園芸の大きな特徴なわけでございます。

■ 将軍から庶民への300年

徳川家康から始まった江戸園芸

ではこういう江戸の園芸がどういう形で300年間に渡って発達してきたか、またそれがその頃西洋はどうだったかをお手元の資料でご説明したいのですが、まずは徳川家康から始まった葵三代というのがありますね、この資料をご覧くださいなのですが、ここにも書いていないことがいっぱいありまして、これは静岡県で展示会をやったときに作った冊子からコピーしたんです。これも静岡の人も知らなかったの、わたしがこういう風ということを知ってあげてつくったものなのだそうですけれども。

ここにちらっと書いてありますけれども色々なおもしろい話がありまして、徳川家康は自分が植物が大好きだったものですから、植物を集めたり維持をするわけなんですけれども、それは天下の将軍ですから自らやることもありますけれども当然家来たちにやらせるわけですね。家来にやらせるわけですので、一番そういうことがわかっている人間は誰だということで、ここに書いてありますように、駿河の国、丸子（まりこ）の小野寺というところのお坊さんが召し出されます。彼が江戸城、駿府城の庭の整備をしていく、という形になります。

ここで丸子の宿というのは、今の静岡市から安倍川を西に渡ったところです。とろろいものおいしいところですね。この丸子の宿の小野寺というところの人間を引き抜くわけですね。芥川正知って書いてありますけれども、初めから芥川って名前が付いていた訳じゃなくて、召し出された後に芥川という名前を徳川家康からもらいます。で、芥川正知もし

くは芥川小野寺といいますね。これがずーっと続いていって、幕末の時にこの芥川がどこにいたかという、わかります？小石川植物園。小石川植物園というのは幕府の御薬園、薬用植物園なんですけれども、あそこに奉行が二人いたんですね。その奉行のうちの片方が芥川家です。ということで幕末まで続くわけですね。徳川家康が妙に植物好きじゃなくて召し出されなかったら名もなくその辺で終わっていたのですけれども。

続く二代の将軍も花好き、大名が献上する珍しい地方の植物

徳川秀忠、第2代将軍になってきますと、もう大坂の冬の陣、夏の陣も終わって徳川の天下がかっちりしてきますので、そうなりますとですね、だんだんですね、諸国の大名に命じて色々な植物もってこい、とこういう指示をするわけですね。これは徳川家康の時にもありまして、徳川家康の時には島津の殿様がハイビスカスを持っていったといわれています。東京の公園や庭園でソテツあります？

会場参加者

小石川植物園にはあるわね。

賀来

ありますね。ソテツなんかもたぶん江戸時代に南の方から献上されたものだと思いますね。

例えば岡山の後楽園に行きますと、あれは池田のお殿様、池田輝政のお庭ですけれども、あそこにもソテツの林があります。あれもおそらく江戸時代に南から持ってきたものだと思いますが、次第にそういうことが盛んになりまして徳川秀忠はですね、江戸城下に御花畠というエリアを作りまして、そこに椿の珍花を集めます。

それから三代の徳川家光という人がこれがまた盆栽好きで、自分の寝る箱枕の中に小品盆栽を入れて寝ていたというくらい大好きなんですね。徳川家光の遺愛の松というのが現在皇居の中と東京都立園芸高校にあるとこういわれています。それくらい好きでありました。



それから三代の徳川家光という人がこれがまた盆栽好きで、自分の寝る箱枕の中に小品盆栽を入れて寝ていたというくらい大好きなんですね。徳川家光の遺愛の松というのが現在皇居の中と東京都立園芸高校にあるとこういわれています。それくらい好きでありました。

大名の庭園づくり（1600年代中ごろから）

こういうふうな三代の将軍が植物好きということになりますと、ごまをすりに大名とかが植物を自ら持っていったりするようになってくるわけですね。今度はそういうことと同時に幕府もだんだん制度がしっかりしてきますから、参勤交代という制度が始まることになります。参勤交代は1635年以降ですね、2年のうちの半分ですから1年、交代で江戸に住めとこういうことになります。となると、江戸にお屋敷を造るという必要が出てきて、それから悪いことに1658年に明暦の大火があります。で、江戸が燃えちゃう訳ですね。

それ以後あまりにも家が密集していると危ないということで火除け地なんかが作られるようになります。いわば都市計画ですね。空き地を作ったり大名の屋敷もなるべく広くとって火事が類焼しないようにしようと。そうなってくると当然庭が出てきますので、単純

に將軍に植物を差し上げるだけではなくて、自らも植えて楽しむ、あるいは場合によっては植えているお庭に、よそのお殿様とか將軍に来てもらうというようなことも次第に出てきたのではないのでしょうか。

生業としての種樹家（造園家、植木屋）の始まり（1600年代後半）

そうこうするうちにですね、そこになりわいとしての種樹家（しゅじゅか）、造園家さん、植木屋さんですが、大体1600年代の後半から植木屋が生まれてきます。もちろん京都はもっと古くて室町時代くらいから植木屋さんがあったとこういわれていますけれども、江戸の植木屋は1600年代の中頃からです。どういう形で江戸の植木屋が出てくるかというと、たぶん初めは大名庭園に手入れに入っていた人間だと思うんですね。ですからひょっとすると植木屋さんの出自はかなり怪しい忍者のようなものかもしれません。

つまり服部半蔵は御庭番といわれますよね。ですから忍者の系統になるかもしれませんね、造園の人は。伊藤伊兵衛といって豊島区の郷土資料館に資料がございますけれども、何代かにわたって活躍した植木屋さんが生まれます。この伊藤伊兵衛というのは藤堂高虎のお家に入出入りしていたといわれるんですね。藤堂高虎邸というのは、今の六義園です。柳沢吉保の前が藤堂高虎で、その前は加賀藩の屋敷と聞いています。

当時の藤堂高虎邸に伊藤伊兵衛というのがお手伝いで入ります。お手伝いに入ると、次第に余ったものなんかを持って帰るわけですね。あるいはもう持って帰っていいぞ、みたいな感じで。それを自分のうちで今度は増殖するわけですね。増やす。どうやって増やしたかは知りませんが。種なのか挿し木なのかわかりませんけれども。この伊藤伊兵衛の屋号が何というかというと、霧島屋というんです。霧島ツツジなんですね。

ですから、そうやって長く考えてみると、徳川家康あたりがはじめにやりはじめて、珍しいものを持ってこいということで、島津のお殿様などが植物を持っていきますよね。とおそらく熊本の細川さんとかその辺の南の方の大名が霧島ツツジを献上したんだと思います。献上したら大名にお裾分けとかがなされる。手入れをしていくうちに余るものが出る、余っていて自分のところで引き取っていく、引き取って増殖をしていく、で、はじめは大名、旗本に売っていたんですけれども、さらに余ってきますから、これがだんだん一般の人に広がっていくんですね。

その広がるきっかけが1700年代の花見です。徳川吉宗が花見のために飛鳥山とかをつくりますね、これが大体1700年頃なんですよ。皆さんは花見のことはよく知っているんですよね。でも花見が江戸の園芸事情と絡んでいるというのはあまりよくご存知ないですね。はじめは大名の庭の植木から始まるんです。植木がだんだん一般庶民に広がり、花見が盛んになる、じゃあ帰りがけに一本買って帰るか、と。というような形でさらに売り物が増え、だんだんそのような機会が増えてくるわけですね。ですから1700年代くらいからは庭でなくとも楽しめる草花が嗜好されてくるというようになってきます。

庭園用の樹木から草花への嗜好（1700年代）

ちょっとこの辺でこっちの資料を見ていただきたいんですけども、もう一回振り返るとですね、一番はじめは寛永の椿です。1615年から30年くらいに大流行ですね。おそらくこの頃1600年というのを今振り返ってみると、これは決して庶民には広がってないです

ね。お偉いさんたちの道楽としての椿であろうと思います。こっちの横長（資料2）を見るとですね、非常に面白いんですね。英国（西洋）と書いてありますけれども、この17世紀というところをご覧いただいたらいいんですけれども、1630年代にオランダでチューリップバブルが起こるんですよ。チューリップバブル。日本は株のバブルですけれども、オランダでチューリップのバブルが起こるんですね。チューリップ1球がですね、途方もない値段がつくようなチューリップバブルが起こります。

それからもう1回この縦長を見ていただくと、元禄の頃はツツジです。1600年代後半ですね。これはさきほど申し上げました伊藤伊兵衛なんかが活躍した頃ですね。ツツジがブームになっています。

それからですね1700年代になりますと先ほど申し上げましたように、花見を通じてだんだん庶民も園芸を楽しめるようになりますね。そこで庶民で楽しむとなると、皆さんふと気がつかれると思うんですけれども、鉢植えがいいんですよ、鉢植えは。庭がない人は大きい樹木を楽しめない訳ですよ。大体1700年代から今度は鉢植えの草ものが出てくるんですね。ということで正徳の菊、こっちの横長でいくとですね、1710年代にまず京都で菊がブームになります。それから1710年代の後半には江戸でもブームということで、こういった菊が盛んになります。

こだわりの園芸（1700年代後半から）

まだこの頃は樹木と草ものが一緒に流行ります、交互に流行ります。次のこっち側のページを見ると、享保年間1716年から1736年くらいですけれども、今度は楓がブームになりますね。それから今度は一番下に寛政の橘とありますが、1787年なんですけれども、これ橘というのは間違いですね、正確にはカラタチバナです。

カラタチバナというんですね、この左側に図が出ていますけれども、今でも園芸店でお正月の前後になりますとカラタチバナって売っていますけれども、あれはなんの変哲もない普通の品種ですね。このカラタチバナが一大ブームになりまして、一番貴重なものはですね、ひとつで2300両の値段がつきます。1本で今日の1億円の値段がつく、で、それを買う人がいるっていうんだから。それぐらいキチガイのようなブームになっていくわけです。

またこっち側を見ていただくと、この横の表を見ていただくと、どんな風に世の中が変わっているかということ、18世紀のところ見ていきましょうか。18世紀というのは1700年代なんですけど、今申し上げましたように、菊に始まりまして、楓がブームになったり、それからだんだんこだわりでサクラソウ、とかですね、マツバランなんていうのが盛んになります。

マツバラン、これですね。こっちの一番後ろに出ているこれです。これはシダの植物のひとつの仲間なんですけど、日本人はこんなもの集めて楽しんでるんですよ。先ほど名前で麒麟角と申し上げましたけれども、これです。今日は実物を持ってきました。麒麟角はこれですね。これ麒麟角。わたしそんなにマニアックじゃないです。ちょっと仕事柄やらないといかんと思って勉強したんですけれども。これがマツバランですね。

会場参加者

花は咲くんですか？

賀来

花は咲きません。シダの仲間です。これなんかは本当は懷紙をくわえて觀賞しないといけないんですね、人の脂をものすごく嫌います。これも種類が 50 種類くらい、で別にこれとこれを組み合わせて交配して新しい品種をつくれる訳じゃなくて、自然の中での違いを選んできてこうやると。こんなものが流行るわけですね。ちょうどこれ見ていただくと、何かそんな感じかなと思うでしょう。この個体はあんまり「作(さく)」が良くないですね。うちはアパートなもんだから日差しが斜めなので本当はやっぱり上から差した方がいいですね。このマツバランなんか種類によって日が強い方が良いものと、暗い方が方が良いものがありますね。

さきほど「のちはぜ」とか「のちくらみ」という話をしましたがけれども、紺性が強いというのですが、紺性が強いというのは緑っぽいのが強いんですね。緑っぽいものが強いのに光を当てすぎると今度はその芸をしなくなるとかですね、あるいはキンギョクとかキンツクモという種類は、逆に太陽の光を当てませんと黄色にならないんですね。

そんなのを種類に分けていちいち江戸っ子たちはやるわけですね。ただし本当に良いものまでどこまでこだわっていたかというのはよくわかりません。ま、そんなことでマツバランが流行りまして、1790 年代には第一次の百両金で書きますが、金のなる木、カラタチバナですね。

それからそれを右側に見てもらおうとですね、そのころイギリス、イギリスというとNHKの番組でも植物王国なんていっていっぱい出ていて、これは大したものだと思うんですが、実はイギリスなんていうのは本当に植物の少ないところですから、元々は植物層が非常に貧弱なところですね。単純なものです。日本みたいに藪にならない。それを世界からあれだけたくさんの植物を集めてきたんですね。ちょうどこのころに一生懸命集めている訳でありまして、「1700 年代後半イギリスで栽培業者が出現」「1700 年代後半にイギリスのキュー植物園等が組織的な植物収集を開始」と書いてあります。

先ほど言いましたように、日本は種樹家の三代目伊藤伊兵衛が活躍したのが 1690 年代、しかるに向こうは 1700 年代後半ということですから日本は産業という意味でも非常に進んでいたんですね。

庶民園芸と超高度な園芸(1800 年代)

次に 19 世紀 1800 年代になりますと、先ほどお話ししました佐原鞠塙さんが向島に百花園を開園しております。新梅屋敷ですね。このころヨーロッパがどうだったかということ、先ほど王立園芸協会の話をしたけれども、1804 年にようやく 7 人の会員で英国王立園芸協会の前身に当たりますロンドン園芸協会ができたということで、まだまだ日本が進んでいるということですね。

1800 年代になりますと、まず変化朝顔が流行ります。朝顔というのも当然流行るのですが、その中の変化朝顔が流行ります。その変化朝顔の面白い種をもらいにわざわざ成田屋さんっていったかな、名前は忘れましたが、鬼子母神辺りに住んでいた人が浪速まで取りに行って交換しているっていうんですからね。種を。向こうでも珍しいのを咲かせた奴がいるというので。じゃあもらいにいくべえって、行っているっていうんですからす

ごいことです。

それから第二次の百両金、カラタチバナ、それから紫金牛というのはヤブコウジ。ヤブコウジも非常に盛んになりますね。それから福寿草。福寿草なんていうのは非常に縁起が良いですから、大体埼玉の山奥に生えております色々な福寿草を探してきます。1810年代には染井で菊人形の見せ物ということで、日本発フラワーショーがスタートするわけですね。イギリスを見ますと1833年にフラワーショーの前身の展覧会がスタートしたということですから、日本のがまだフラワーショーを先にやっているんですね。

それから1830年代はサクラソウ、ハナショウブ、マツバランがまたブームになってきて、幕末を迎えるわけです。ここにハナショウブが出てきましたので、ちょっとハナショウブのことを申し上げますと、先ほど観賞の作法というような話を申し上げましたけれども、観賞の作法があることによって、そのハナショウブ自体の発達が変わってくるんですね。ハナショウブにはもちろんいろいろな種類がありますけれども、ひとつは江戸系のハナショウブっていうのがあります。それから肥後系ですね、肥後。それからもうひとつは伊勢系です。

江戸のハナショウブっていうのは基本的には地に植えて観賞しますので、そうすると花はちょっと上から見てきれいなものが良いものということで選ばれるようになります。肥後系のハナショウブっていうのはですね、畳のところで床の間に鉢に植え、裏側に金屏風を立てて正座をして観賞しますので、やや目線からちょっと下がったくらいのもので良いものということで、選抜されるんです。そのときには葉っぱはですね、花の高さを越えてはいけなとかね、非常に細かいルールがあるんですね。

それから伊勢のハナショウブっていうのは、完全に下垂する芸です。垂れ下がります。イセナデシコっていうのが後ほど出てきますけれども、こう、下がりますね。ただ、伊勢ナデシコは一回途絶えていますので、現在復興していますけれども江戸時代のものそのものではありません。つまり観賞の仕方とかルールによって植物の形、ひいては選抜の方向性が違ってくるといいうことですね。

それからハナショウブっていうところで出ましたのでついでに申し上げますと、肥後のハナショウブっていうのは満月会という会がありましてそこから外に出さないということをやっているのですけれども、元々は松平菖翁って言って松平定朝という旗本がやっていたものなんですね。細川のお殿様がですね、松平定朝という江戸にいた旗本に、そのハナショウブを分けてくれという話をするんですよ。そうすると分けるのは嫌だ、と言ったのでどうしたかという、吉田某という家来を松平定朝のところに研修に出すわけですよ。

2年くらい行って勉強してこい、と。で、勉強して、分けてもらって、肥後に持って帰るわけですね。で、それがいまだに肥後で続いているんですね。その分けてあげたときの条件として決してみだりに人に渡しちゃいかん、と言っているもんですから、満月会はいまだに外に出さないんですね。こんなこだわりがあります。

お手元の縦長のメモに戻っていただきますと、1700年代、先ほど花見と併せまして園芸が次第に一般化していくわけですが、その中で生まれてくるのがこだわりの園芸、ですね。繰り返しになりますけれども、サクラソウ、マツバラン、オモト、ハナショウブ、変化朝顔、カラタチバナ、ヤブコウジ、フクジュソウ、フウキラン、チョウセイラン、こういったものが盛んになります。

また、ここには書いていないんですけれども、タンポポですね。タンポポっていうと大体今話題になりますのは、カントウタンポポとかカンサイタンポポという自生種に対してセイヨウタンポポが入ってきて、交雑して良くないと言われるんですけれども、当時はタンポポを自然の中から品種として選んでいたんですね。赤いタンポポとか白いタンポポがあったといわれています。これはもうほとんど絶滅しましたけれども、タンポポも園芸化しておりました。そういうかなり品種、品目にこだわった園芸が発達をしていきます。

また、武士の中にもですね、先ほど松平定朝の話をしましたけれども、こだわりの人たちが出てくるわけです。松平定信(1758年～1829年)はご存じの通り寛政の改革に登場した中心人物です。寛政の改革に失敗するわけですね、最終的には。失敗した後、この欲恩園(よくおんえん)というのを、欲恩園は今も地名で残っているんですかね、下町の霊岸島っていうところですよ。霊岸島に欲恩園という植物園を作りまして、蓮、梅、桜、椿なんかを収集したと。おそらく大名植物園の中でもこれが一番でしょうね。チャンスがあったら一度これ復元をするとすごいことになりますけれども。

だから日本国の総理大臣はですね、改革に失敗したら引退して庭園をつくって植物をやる。というぐらいになると品格のある国になるわけですね。定信さんは失脚してですね、その後は植物それから単に自分で植物を集めるだけじゃなくてちゃんとその図譜を作るわけですね。「欲恩園真景」とかですね、お庭の様子、それから「欲恩春秋両園桜花譜」いわゆる桜の色々な品種を図譜にして残す、こんなこともおやりになります。

また、松平定朝というのは、ハナショウブの菖に翁(オキナ)と書きまして菖翁(しょうおう)といわれるくらいハナショウブ大好き人間なんですけれども、大変立派なお花をつくります。たぶん松平定朝のハナショウブなんかは自然選抜じゃなくて交配していると思います。交配してつくっているんですけれども、この中に現在でも秘花と呼ばれているものが生き残ってまして、「宇宙(おおぞら)」とかですね、「不背の玉(ふはいのたま)」とか、「獅子奮迅」とか、「月下の波」という秘花があります。今ハナショウブは、現代品種も含めて2～3000品種あるといわれていますが、その中でも秀逸のハナショウブを作るわけです。

また、水野忠暁は、斑入り植物、斑が入った植物ということで、集め、また、先ほど言いましたように繁亭金太という植木屋さんと組んで、「草木錦葉集」を出版していくということで、1700年代後半から1800年代の前半にかけてですね、もうきちがいみたいな人が出てくるわけですね。こういう風を集められた江戸の品種が現在まで全部残っているかという、残っていない方が多いです。定朝の「宇宙」とか「不背の玉」とかですね、むしろこれらは残っています。ただし多くの園芸品種はなくなりましたし、それから草木錦葉集とかですねこういった図譜に描いている植物も、もうなくなったものが多いです。

椿の葉っぱは普通こういう形をしていますよね。ツバキには金魚葉という葉っぱがあるんですよ。金魚の尾っぱみみたいにですね、これは普通に売っています。金魚葉の黄斑、黄色い斑が入った椿というのは今のところまだ出ていない。黄色い斑が入ることはあるんだけど、あれはウイルスでしょうね。ウイルス斑というのがありますからね。いわゆるばい菌が入って黄色くなっているのはちょっと違いますので、そうではない斑が入る。これは図譜には描かれていますが、今はないといわれます。

それから変化朝顔なんかはですね、変化朝顔というのは、これまた難しいのですけれど

も変わった朝顔が出ますよね。それに種がつくものとつかないものがあるんですよ。親木と出物がありましてこの親木からは一定の変化朝顔がある確率で出てくるわけですね。それを江戸っ子たちは知っていまして種を縦横に播いていくわけですね。そうすると何分の一の確率で変なのが出るとよく知っているわけですね。進化論ということでメンデルの法則というのがあります、エダマメじゃなくてエンドウ豆で一定の確率でどーたらこーたらというのがありますが、それよりも遙か前に江戸っ子たちの方がメンデルの法則を知っていまして、変化朝顔でこの親木からはこの一定の確率で出物が出てくると。で、それを繰り返していくわけです。

ところが変化朝顔の図譜の中に載っているやつでいまだに出ないのがあるんです。いまだに出ないのがある。だから 30 年 50 年 100 年くらい播き続けるとそのうち出るかもしれない、と。ただし出たとしてもそれはたぶん種は取れないから、どの組み合わせで出たかということと全部記録して行って、やらないといけないかもしれません。ま、こんなバカみたいなこだわりを見せていくんですね。

1800 年代はこだわりの超高度な園芸がある一方で、庶民に幅広く植物や園芸が普及をするという、江戸は一大パラダイスといえますが、庭園都市になっていまして、これが日本の特徴なんですね。後ほど外国人が驚嘆した江戸のまちっというのをお話し申し上げますけれども、当時イギリスで園芸が盛んになったからといって、やっていたのはやっぱり王侯貴族たちであって、一般の人たちがそんなに花を楽しむってことは考えられなかったんですね。で、日本の場合には、もう本当に世界の人びとがびっくりするようなきちがい園芸といえますか、超高度な園芸といえますか、それが発達しながらですね、かたや、もうまちの隅々まで季節に応じて、じゃあちょっと朝顔買ってくるか、とかですね、こっちには何が植わっているわというのが発達したというのが日本の園芸の特徴で、人類広しといえどもここまで達成したことはないんですね。

残念なことに第二次大戦以降特にですね、そういうことが失われてきましたけれども、我々にはそういう遺伝子が入っていますから、またこれ 300 年くらい時間をかければですね、やれないわけではありませんよ、ということをお願いしたいと思います。

このマツバランですね、色々工夫して育てるんですね。色々な作り方があると思うんですよ。私の場合には何を使っているかというと、桐生砂と富士砂、この黒いのは富士の溶岩ですね。これをいくつかにふるうんですよ。ふるって粒度を分けます。で、もちろん大きいものから積み上げて三層くらいに積んでいって一番上は小さいのが積んでありますね。それと一番上には化粧、化粧砂を敷くわけですね。これは良くないサンプルなのですが、そこまでみんなしていたということです。しかもそれをほうき目で、こうやってきれいにならすというんだからすごいですよ。これはたまたまこういう鉢ですけども、本来マツバランは楽鉢（らくばち）の方が良いですね。もうちょっと軽い割れそうな鉢がありますよね、京都なんかで作っている。その方が通気性が良いから楽だと思うんですけども。

皆さんこれをやってくださいというんじゃないですが、坂梨先生という NHK の「趣味の園芸」によく出演されておられる先生にもこのお話しをしていたら、「そうなんだよね、最近の園芸っていうのはふるいをやらないんだよね」と。ふるいっていうのは、土を振って粒度に分けるってことですね。昔はみんなそうやっていた。で、マツバランは先ほど言いましたように、人の脂を嫌うし、金属を嫌うから本来は竹の簀でやるんですよ、これ。

これなんか本当にまともな作のものは、懷紙をくわえて見る作法に該当するでしょうね。人の脂を嫌うから。ま、そんなことまでやるんですが、要は何を言いたいかというと、江戸の園芸の中には、今日我々が学ぶべき色々な要素が入っているという点です。

つまり、本来園芸をやるための基礎的な、土はこういう土が良いのか、とか、しかもその地方地方に独特の土がありますので、どういう組み合わせが良いのかということもよくよく研究していますね。オモトなんかは朝明砂（アサアケズナ）か、軽石の粒度調整をしたものに、桑の炭を間にはさんで植えますね。桑の炭ってものすごく軽くて中がスカンスカンなんですよ、桑の木は。だからオモトの根がまとわりつきやすいんですよね。そんなのも経験値で彼らはずーっと長い間に勉強してくるんですね。

それを全部の園芸に応用しようという訳じゃないけど、なるほど土が大切だね、とかです、なるほどそうこだわる訳じゃないけどちょっと器を替えると良いですよ、とか、これは最近のインテリアの園芸なんかににも出てきていますけれども、それから植物の名称も大切だね、とか、そういう学ぶことがたくさんありますし、それから、これから申し上げる、それらの園芸を楽しむ技術がずーっと延長線としてまちがきれいになっていくというところにつながるということが非常に重要なところなんですね。

■ 外国人が驚嘆した幕末の江戸の園芸

外国人が驚嘆した園芸の発達

ここで外国人が驚嘆した江戸の町と人というところに入りますけれども、1800年代の後半はこだわり園芸はあり、庶民園芸はありということで、日本を訪れた外国人たちがびっくりして帰っていくわけです。5ページにシーボルトの江戸参府紀行、先ほど帯笑園の話をしましたけれども、その文章がこの5ページの下であります。

それから6ページに、ラザフォード・オールコックの「大君の都」という幕末に来た外交官ですけれども、こんなこと書いていますね、「日本人は偉大なしろうと園芸家であって、……いかなる日でも、花売りが美しい商品をもって歩き回る姿を見ることができる。」ということで、単なる社交辞令としてこう言っているわけではなくて、たぶん観察すると花売りとかですね、皆さんが園芸をやっているということが非常に目についたと、ということではないかと思うんですね。

こっちの浮世絵の絵でいきますと、（資料4）1ページ目になりますけれども、植木屋さんがですね、こういう台に乗せて植物を売りに行っている浮世絵ですね。これ、ぼてふり（棒手振り）っていいです。棒手振りで担いでいったんだと思うんですね。おそらくそれなりの売り声があったんだと思うんですよ。売り声があって、ちょっと名前は忘れちゃったけれども、どなたか江戸の売り声を集めている方がいらっしゃるんで、そのCDなどで植木屋編がないかどうか、ちょっと調べてみようかと思えますけれども。こういったものに入れて売って歩いていた訳ですね。

それから次のページを見ますと、こういう色々な鉢に色々な植物が植わっていますね。今日は鉢もひとつ持ってきたんですが、朝寝坊をしてしまいまして申し訳ありません。もちろん浮世絵というのは、今日でいうところのお写真、ポスターですから、良いシーンを撮っている訳ですね。良いシーンを撮っているから、すべてがすべてこんなきれいな状態とか、全員こういう着物で歩いていた訳ではないですけれども、こんなシーンが世

の中にあっただろうと。

それから次のページですが、これは染井だとか団子坂だとか、そこら辺りでやったと思うんですけども、植木屋さんがですね、やったフラワーショーです。この左側がフラワーショーの目玉作品、百種接ぎ分け菊で、ひとつの菊の、おそらく台木はヨモギだと思うんですけども、それにですね、百種類以上の菊を接いで開花をさせるということです。

これは浜名湖でもやりましたし、これがなぜすごいかというと、当時は今みたいな温室はないわけですし、当然菊によって性質が違ふのと開花時期が違いますよね。それを合わせて同時にこうやる、と。でなおかつ同時にこれをやって木戸銭を取るわけですから、これは江戸っ子は大したもんだと思いますね。

それから次のページですが、商品を販売する棚の絵ですけども、良く見ていただくと、オモトみたいなのが並んでいますね。それからたぶんこれはマツバランだと思いますよ。それから足もとのところに芝生があるでしょ。今のホームセンターじゃないけれど、芝生を束にして売っていたんですね。まさか大名がこういうところに来て「これくれ」っていう訳じゃないから、当然買っていた人は庶民なんですよ。ムクゲもありますね。

それから次のページは、縁起物の福寿草ですね。福寿草は園芸品種としてどのくらいありますか、一般に売っているのは。3つか4つでしょうか。チチブベニ（秩父紅）とか、

会場参加者

オレンジのと、黄色のと。

賀来

2～3種類ですね。当時おそらく福寿草は50品種ぐらいありましてね、今隠れて栽培している人でも30あるのかなあ。これ良く見ていただくと、花の形が縮れているじゃないですか。しかもそれに合った鉢を作って観賞していたということですね。



園芸家ロバート・フォーチュンの見た江戸

こんな江戸であります、もう一度縦長に戻っていただいて、6ページに、園芸家ロバート・フォーチュンの見た江戸っていうのが書いてあります。ここに一番重要なことが書いてあるわけですね。

ロバート・フォーチュンというのは、先ほどのラザフォード・オールコックとかシーボルトと違ひましてまさに園芸の専門家です。専門家ということは、ある意味では本当に公平に見ていますから、例えばわたしがどこかヨーロッパの美術館に行って「わーきれい」と言っただけで、美術の専門家じゃないから単純にきれいと言って感動しているだけなんです。でも園芸家が見ているということは、比較対照をきっちりやって見えていますので、信頼できると思います。

このロバート・フォーチュンがなぜ日本に1860年代に来たかといいますと、英国王立園芸協会から日本のアオキの雄木を採ってくるようにいわれて日本に来ます。アオキはご存

じのように雄と雌が違うんですよ。従って当時イギリスにはアオキの雌しか行ってなかったんですね。だから赤い実をつけなかった。従って雄木を採ってこいといわれて日本に採りに来るんですね。で、ものの見事に採集に成功します。なぜ成功したかという、実はシーボルトも日本からずいぶん植物を持って帰っております。ただ日本から当時のヨーロッパに行くまでには赤道を2回通りますので、ほとんどの生きた植物は枯れてしまいます。従って種とかで行ったものは発芽しておりますけれども、生きた木そのものはなかなかうまくいかなかったんですね。

ところがこのロバート・フォーチュンの時にはですね、運ぶ温室みたいなもの、ウォードの箱、ウォーディアンケースというのがありまして、木で作った枠があってそれにガラスがはめ込んであるんですね。これに入れて無事生きたまま持って帰ることが出来た、つまり暑くても露がついて中であんまり蒸発しないというようなことで、帰ったんですね。

これはまたすごいことにですね、ロバート・フォーチュンは2回来ているんですねけれども、1回目はしょうがないから自分で持ってきたものですね、2回目に日本に来たとき、日本人がそのケースをつくって中に植物を入れて買わないかと言ったというんだから、日本の人は早いんですね。鉄砲と同じですよ。

それとついでに脱線して、今、箱の話をしてしまいましたが、当時ガラスが工業化されたことがそういうものができた背景なんですね。昨年「愛・地球博」がありました。愛・地球博というのは万国博覧会なんですねけれども、この1回目の万国博覧会というのは、1851年にロンドンで開かれているんですね。

ロンドンで開かれた1回目の万国博覧会の一番の目玉の展示はですね、実は植物なんです。それは今もキューガーデンという植物園に残っておりますクリスタルパレスっていいまして大温室があって、つまりイギリスの当時の技術でガラスを使ってこれだけ立派な建物が出来ると、というのは万国博覧会の驚きだったんですね、まずは。

それからその温室の中に当時のイギリスの力で七つの海から植物をふんだくって飾ってみせるというのはこれはまた目玉だったわけですよ。そんなことがあったり、それから明治の初期には、テラリウムって知ってます？こういうガラスのケースにシダなんか入れて飾る置物なんかあるじゃないですか。あれがイギリスで大流行するのが、1800年代後半、1900年代ですね。で、日本からシダなんかずいぶん持って行かれちゃいます。ま、そんなことが背景にあるわけですね。

本題に戻りますと、ロバート・フォーチュンが来て日本を見た様子がここに書いてあります。まず一番目は、斑入りの植物について書いてありますね。「ヨーロッパ人の趣味が、変わり色の観葉植物と呼ばれる・・・・・・日本では千年も前からこの趣味を育ててきたということだ・・・・・・その多くは非常に見事である。」とこんなことが書いてあったり。

それからすごいのはその次なんですね、2行目染井村ですね「随行の役人が染井村にやっと着いたと報せた。その村全体が多くの苗樹園（ガーデンセンター）で網羅され、それらを連絡する一直線の道が一マイル以上もつづいている。」1マイルということは1.6キロくらい、1.6キロガーデンセンターがずっと続いているっていうんですから、今さすがに埼玉でもないですよ、これ。そこに数千の植物が栽培されていると。

当時江戸の人口は、幕末で約100万人。100万人に対して1.6キロメートルのガーデンセンターが供給する植物ということは、今よりも遙かに植物をよく使っていたということ

ですよ。遙かにみんな植えて楽しんでたと、こういうことだと思います。

それから7ページ、この辺が美しい景観のことなんですけれども、非常に見事な生け垣がですね、道端に広がっていると、それはよくイギリスの貴族の庭園や公園で見かけるようなものだというくらいきれいに管理している。

それから向島で彼がいった景色なんですけれども「江戸の町が眼前に広がって、ひときわ美しい絵のようであった。その場所全体がまるで一大庭園であった」というような美しいところであったと。そして最後にですね、当時は階級社会ですのでこういう表現になっていますけれども、「日本人の国民性の・・・下層階級でもみな生来の花好きであるということだ。」

当時イギリスなんかで産業革命で工場で働いている人なんかは花なんかやらないわけですよ。ところが日本人はみんなやっていると。「気晴らしにしじゅう好きな植物を少し育てて・・・イギリスの同じ階級の人たちに比べると、ずっと優って見える。」ということでもあります。

当時ですね、こういうロバート・フォーチュンだとか、これは園芸の専門家として来た訳ですが、彼らは決して単一の目的で来ている訳じゃないんですね。ある意味では外交上のスパイの目的ももってきておりますから、いわゆる日本をせめて中国のように植民地化したほうが良いのか、彼らは教養と文化があるからつきあった方が良いのか、という情報が色々な形で持ち帰られる訳ですね。

おそらくたぶんこういう記録もですね、これがどういう本かというのですね、「江戸と北京」という名前なんです。ロバート・フォーチュンは江戸に来た後、北京に回っています。北京の描写はこんなもんじゃないですよ。とても良くない。すなわちその辺にもですね、イギリスが日本をどういう風に取り扱っていくかということも入っていたのではないかと推察されるわけがあります。

そろそろ皆さんもお疲れになってきたと思いますので、ここで最後にビデオをご覧いただきたいと思います。これは浜名湖花博の園芸文化シアターというのがありまして、そこで上映していたものであります。シナリオを私の方で制作し監修をしてつくったものでございます。

ビデオ 「大江戸花暦」(浜名湖花博)

先ほどからご説明した江戸の園芸というのはですね、かなりの部分、特に植物は絶滅した部分があります。ただ一部には残っておりますし、このビデオでありましたように世界に誇るべき文化遺産として残していったらいいなと思います。また、先ほどから申し上げておりますように、またビデオにもありましたように個別に植物を楽しんでいるだけではなくて、それが大きなまちとか住んでいるところが非常にきれいになって、外国人がびっくりするということです。最近総理も高速道路を移転して日本橋をもう一回復活しようかななんて話もありますけれども、ぜひ花と緑で往事の江戸みたいなものを復原できたらいいなということです。

ちょうど一番最後は高層ビルのああいう感じですけども、本当は六本木ヒルズに入っ
て成功を治めた方なんか、ちょっとこけてる方もいらっしゃいますけれども、ああいう
方はちゃんとお庭を作っていて植物をやって、そういう人が一生懸命やれば、また
どんどんどんどん増えていくということなんですね。六本木ヒルズの場所というのは、元々
長州藩の下屋敷なんですね。ですからおそらくこの時代は大変立派なお庭だったでしょう
し、あそこの再開発組合の理事長さんはですね、江戸時代から続いた金魚屋さんなんです
よ。だから僕はできたらホリエモンじゃなくて金魚屋さんを中に入れた方がよっぽどね、
おしゃれなまちになったかなというふうに思っております。ちょっと2時間になりました
けれども、「江戸の園芸」ということでお話しをさせていただきました。どうもありが
とうございました。



質疑応答

何かご質問がある方は、気軽にどうぞ。

Q： 質問ではないのですが、盆栽の国風展が今年も終わりましたが、大きな鉢の添え物を見たりすると、自然の風景の中に自分が入っていくような感じがして、本当にああいうものは良いですね。日本人に生まれて良かったなと思います。

A： 盆栽の世界でいうと、添えにしている草は、言い方を間違えると誤解をするといけませんけれども、割と草もの、葉ものはちょっとばかにしちゃうんですよ。葉物園芸とか言って。これを見ていただくとわかるようにですね、実は元々是一緒だったんですよ。もともとは鉢植えで始まったことで、今もう一回また盆栽も一緒にやるといいですね。

Q： 生け花と同じようなことで、添え物の小さな鉢が置いてあるのではないかと思いますのですが。

Q： 添え物の草だけでも毎年きちんきちんと作って、今年作ったものではないんです。十年も前から作っているんです。

Q： ああいうものでももう年数が経っているんですね。



A： 石菖（せきしょう）なども江戸に発達した植物で、田沼意次が病にふせった時にですね、田沼意次は賄賂の政治でしたから、彼が病気で倒れたときに、石菖盆（四角い水盤みたいなものに石菖を植えたもの）が畳いっぱい献上されたというような、そんな草ものの歴史もあるんですね。

Q： わたしは花博にも行ってきたんですけども、花博では藤をメインにしていた時期があったと思いますが、スライドにも藤が出てきました。藤というのは、江戸園芸の中でどういう位置付けだったのでしょうか。

A： あまり藤自身は園芸化されてはいないと思います。いわゆる園芸植物みたいに多品種作られている訳ではないですね。

Q： 最近まちなかにも古い藤の木が結構あって、街並みを考えるときにおもしろい植物かなと思っているのですが、ただ花が咲いていないものも結構あるので、藤の花を咲かせるためにはどういう管理がいるのかな、と。

A： 藤の花は、枝の先端ではなく基部に花がつくので、枝を長く伸ばしていてもあまり花はつきません。毎年冬休眠したら根元から4～5節残して剪定をすると、花付きが良くなります。

A： 今園芸化されなかったということで誤解をされるといけないんですけども、藤は多品種あったわけではないのですが、当時日本にあってシーボルトが持って帰ったも

ので、今は日本にないものもあります。センジャク（千尺）という白い房がとても長い品種ですとか。それから今は交配して作っていますから、1年で花が咲くものとか、中国のフジをかけたよい香りがするものもあります。

Q： 去年、一昨年に変わり朝顔を何種類か植えたのですが、結局若葉は出てもそれから育たなくて花がつきませんでした。変わり朝顔は最近盛んなのでしょうか。

A： 盛んですね。盛んというほどどうかわかりませんが、佐倉にある国立歴史民俗博物館の「暮らしの植物苑」で、変化朝顔を取り扱い始めたのです。今年も種を分けて頂いたりするのではないのでしょうか。

Q： 育て方が難しいのでしょうか。

A： 難しいです。さきほど申し上げたようにやっぱり弱々しいです。わたしも種をもらって播きましたけれども咲いたのは1つで、まじめにやれば良いのですが意外と難しいです。非常に小さくて弱いです。

Q： 咲いても、本当に弱くて、一日二日でもってだめになってしまうとか成功しない。

A： 映像で見ると堂々としているような感じがしますが、そんなことないです。ちっちゃいですよ。非常に弱いです。ですから途中でうまくいかないことが多いですね。なかなかお答えにならなくて申し訳ありません。

Q： 結局はいっぱい花を咲かせたいなら一般的な朝顔を栽培した方が、普通の素人には良いのでしょうか。

A： そうですね。変化朝顔は大きくなってもこの程度で、通常の朝顔みたいには絶対に伸びていきません。下手をするとこれくらいの朝顔がありますからね。これくらいでチリチリチリっと、こんな。それ以上伸びないものもあります。変化朝顔はまじめにやりはじめると非常に危険ですね。危険な植物です。集めたって毎年やらなくちゃいけませんから。

Q： どうせやるんだったら朝顔はたった一輪だけ咲かすとか、そういう楽しみ方もありますよね。

A： 大輪の朝顔で、団十郎という名前が付いている茶色の、歌舞伎役者の衣装と合わせた名前をつけたり、そういう粋なところがたくさんあります。

Q： 菊は白が強いのでしょうか。隣に紫色とかエンジとかの鉢を置くとみんな白くなっちゃうんですね。

A： 白が強いということは特にはないと思うんですけども、当然ランナーというか走出枝が出て下から芽が増えてきますから、当然浸食していくのはあるでしょう。赤だと思って育てたものが実は隣の白がはびこって白になっているということもあるでしょうね。

A： 品種の強い弱いはありますからね。

司会： それではだいぶ長時間になりましたが、今日はこの辺でお開きにしたいと思います。全体で3回から4回を考えておりまして、今日がその第1回目です。第2回目は上ーの中を歩いて、お二方に色々サジェスションを受けながら路地の園芸を発見して歩きたいと考えています。それと、ある路地に焦点を当てて、その園芸について皆さんでワークショップをやりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

北区まちづくり公社： 3月11日(土)のまちづくりフォーラム「未来のまちづくりを担う子どもたちのために」、区民によるまちづくり活動報告会(北とぴあ)のPR

会長：今日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。これから2回3回と回を重ねることになりますが、北区の花川区長も言っている花いっぱいということ等で、区役所関係、まちづくり公社関係等のご協力をいただきましてうちの町会が日本一になる路地をめざしてがんばろうということでございますので、協力をぜひよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

参加者

上十条一丁目町会	10名(路地協会員1名)
十條あすみの会	2名(路地協会員2名)
路地協会員	2名(上記を除く)
(財)北区まちづくり公社	2名
北区役所	1名(北区まちづくり部十條まちづくり担当課)
講師	2名((株)グリーンダイナミクス 賀来氏、片山氏)
路地協事務局	1名(木村)

配付資料 1 路地園芸プロジェクト講演要旨「世界一の江戸園芸」(添付)
2 日影の園芸文化略史(添付)
3 葵三代の園芸ほか
4 浮世絵等
ワークショップ案内リーフレット

平成18年2月21日

賀来宏和

路地園芸プロジェクト講演要旨

「世界一の江戸園芸」

○100年ぶりに訪れたガーデニングブーム

- ・ガーデニングブームを再起させた「国際花と緑の博覧会」

「日本のガーデニングブームの火付け役は、平成2年に大阪で開催された『国際花と緑の博覧会』だと思います。広大な場所を使って、平面的に、また、立体的にデザインされた植物が人間の社会にもたらす可能性をあれこれと提示して見せたあの花博は、日本の花文化を大きく転換させたと思います。」

【小笠原 亮著 「江戸の園芸 平成のガーデニング」(小学館)】

- ・国際園芸博覧会とは
 - * 19世紀中ごろ(1800年代中ごろ)に始まった世界の園芸博覧会やフラワーショーの原点
- ・アジアで初めての国際園芸博覧会「国際花と緑の博覧会」
- ・わが国で3回目の国際園芸博覧会「浜名湖花博」
- ・「浜名湖花博」の3つのねらい
 - * 庭文化の創造
 - * わが国の伝統園芸文化の保存継承
 - * 植物に関する知識や興味の一層の普及
- ・2つ目のねらいに沿った「浜名湖花博」の「園芸文化館」
 - * 静岡と伝統園芸(徳川家康に始まった江戸の園芸)
 - * 伝統園芸の盛んな静岡県
 - * シーボルトも訪れた帯笑園

○ビデオ上映「大江戸花暦」

- * 「浜名湖花博」の「園芸文化館」より

○世界を凌駕した江戸園芸

・観賞対象としての園芸

- * 花を手向けたネアンデルタール人（数万年前）
- * 食糧や飼料、衣料などの対象として植物が栽培化から、呪術的な意味合い、やがて観賞対象

・東洋と西洋の二大潮流

- * 西洋では、西アジアのメソポタミア等、エジプト、ギリシャ、ローマへ、中世に西ヨーロッパに渡り、今日の欧米の園芸文化へ
- * 東洋では大陸にその起源を有し、宋（960～1279）（日本史上では平安末期から鎌倉時代）の時代に最盛期
- * わが国においては、大陸から観賞園芸も渡来、独自の園芸文化が醸成され、江戸期には世界の水準を凌駕
- * 東西の園芸植物は移動しているが、独自の発展を遂げたのが東西の園芸文化
- * 時として投機に至るまでの熱狂を呈する隆盛を見せるのも園芸の特徴

世界の花卉園芸の文化で、いちばん古いのは西アジアのメソポタミア、アッシリア、バビロンで、文明の発生とともに始まった。これにエジプトが参加し、その後にローマに伝播し、さらに中世には西ヨーロッパに至り、16世紀以降西ヨーロッパ、つづいてアメリカで大展開したのが、西洋花卉園芸文化の系譜である。メソポタミア、エジプト、ローマなど地中海地域で展開した花卉園芸文化は、いわば西洋花卉園芸文化の第一次センター（プライマリー・センター）とよびうるだろう。

これから発展して、西ヨーロッパでは、中世以降、サボテンの横芽のようにその上の花卉文化が発芽し、それが今では巨大に生長してきた。（図略）

その勢力はアメリカをふくむようになり、さらに全世界に影響をおよぼしてきた。この西ヨーロッパのセンターは第二次センター（セコンダリー・センター）といえる。（中略）

西洋の花卉園芸文化に対するもう一つの花卉園芸文化は、東洋花卉園芸文化である。それははじめ中国におこった。中国が第一次センターといえる。（中略）

このセンターから、日本という、花卉園芸文化第二次センターが生まれ、第一次センターをしのぐ大発展をとげることになるのは、図に示すごとくである。

中国では周代から花卉の栽培、観賞がはじまったようで、隋、唐の頃には、中国の花卉園芸は一つのピークにのぼってきた。第二回目のピークは宋代、特に南宋の時代と私は見ている。

中国の伝統的花卉園芸の特色は灌木性、または高木性の樹木の花をたくさん園芸化した

ことである。

【中尾佐助著「花と木の文化史」より引用・構成】

- ・わが国の園芸史（江戸園芸までの歴史）
 - * 大陸との交流の中で観賞園芸も伝播
 - * 次第に独自の価値観による観賞園芸が発達し、わが国固有の野生種からわが国で独自に園芸化がなされる植物も出現（サクラは日本で園芸化）
 - * 貴族や武士が嗜んだ教養としての園芸（江戸期直前はツバキ）
- ・三大将軍が生んだ江戸園芸
 - * 徳川三代の将軍による園芸嗜好が300年にわたる膨大な時間と労力を背景としてわが国特有の園芸文化を開花
 - * 泰平の世がもたらした美意識や価値観あるいは教養への関心などが、職人の技とともに生み出した日本固有のものであり、世界的にも類例なし
- ・その後の江戸園芸
 - * 明治以降、近代園芸が始まる一方、新しく移入された植物をも含め江戸時代に培われた価値観によって観賞される園芸も一層の発展
 - * 第二次大戦以降、江戸園芸は、一部の好事家を除き、一般的な興味の対象として忘却されたが、文化遺産としての保存継承の重要性

江戸時代の園芸文化はアジアの花卉園芸文化の第二次センターとして、日本の特色を発揮して、大発展をした。それは中国という第一次センターを凌駕し、また西ヨーロッパに優るとも劣らずというより、一時期、たとえば江戸中期の元禄時代などには、西ヨーロッパより先進していたと評価できるものである。江戸期の日本の花卉園芸文化は全世界の花卉園芸文化の中で、もっとも特色のある輝かしい一時期である。

【中尾佐助著「花と木の文化史」より引用・構成】

○江戸園芸の特徴

- ・「変わり葉」へのこだわり
 - * 「花」ではなく「葉」に変化の妙と美しさの観賞価値
- ・「たおやかな美しさ」へのこだわり
 - * 自然の中からまれに出現する特殊な形質を「芸」と称して珍重し、弱々しく育てにくい個体を尊ぶ「たおやかさ」を尊重する美意識
- ・わずかな個体の変異の中から自然選抜
 - * 交配ではなく基本的には自然におけるわずかな個体の変異の中から珍しいものを選抜

- ・人間の技との組み合わせ
 - * 品種の特徴を維持していくためには、栽培方法に特別な技術や工夫が必要
 - * 植物個体の持つ性質と人間の持つ技が組み合わさって初めて品種として認知され、維持されるという独特の評価体系
- ・植物観賞のための装飾や作法の存在
 - * 植物に求められる観賞の対象
 - * 装飾の様式を定めて観賞を行う作法
 - * 観賞する側の作法
- ・園芸書の出版などの知識と教養への結びつき
 - * 植物の流行にあわせた数多くの園芸書の出版や植物につけられた古典文学や歴史に因む品種名など知識と教養への結びつき
- ・遊び心を前提
 - * 庶民文化が花開いた時代の中で、品種の優劣を競う銘鑑の作成や花合わせ
 - * 庶民を相手に花の装飾を見世物とする興行や花屋敷の開園
- ・身分を超越した広がり

江戸期の日本の園芸文化の特色を数え上げると次のような諸点が指摘できる。

園芸文化が世界に先がけて、庶民の末端まで普及した。

中国の花卉園芸がシャクヤク、キクなどを除いて、庭木の花木類が中心であったのに、日本では草本性のサクラソウ、ハナショウブなどを園芸化し、それを改良して多数の変った品種をつくりあげた。

古典園芸植物とよばれるいくつかの小型の栽培植物を尊重して、奇妙な品種をつくりだしてきた。

変化咲きアサガオとよばれる、毎年その種子を創造的な手法でつくりだす園芸、つまりパフォーマンスの極致の園芸が生まれた。

造園用の特色のある樹木、灌木の品種がつくられ、ツツジ類や針葉樹のヒバ類と総称されるものが成立した。

盆栽が中国的な盆景から蛸造り型をへて、自然美型盆栽へとすすんだ。

斑入り葉のある斑入り植物の価値を認識し、きわめて多種類のそのような品種を世界に先がけてつくりあげた。

花見や菊人形のような大衆の参加する花卉文化が発展した

花卉の同好団体が多く誕生した。

植木屋、庭師といった花卉園芸の専門業者が出現した。また園芸書の出版がはじまった。

【中尾佐助著「花と木の文化史」より引用・構成】

○将軍から庶民への300年

- ・徳川家康から始まった江戸園芸
- ・続く二代の将軍も花好き
- ・大名が献上する珍しい地方の植物
- ・大名の庭園づくり（1600年代中ごろから）
 - * 参勤交代による大名の定住化
 - * 明暦の大火による空閑地作り
- ・生業としての種樹家（造園家、植木屋）の始まり（1600年代後半）
 - * 藤堂高虎邸に出入りした伊藤伊兵衛
 - * 霧島屋の屋号
- ・庭園用の樹木から草花への嗜好（1700年代）
 - * 花見とあわせた園芸の庶民化
- ・こだわりの園芸（1700年代後半から）
 - * サクラソウ、マツバラン、オモト、ハナショウブ、変化朝顔、カラタチバナ、ヤブコウジ、福寿草、フウキラン等
 - * 松平定信（1758～1829）の欲恩園（ハス、ウメ、サクラ、ツバキなど）
 - * 松平定朝（1773～1856）のハナショウブ（宇宙、不背玉、獅子奮迅、月下之波などの秘花）
 - * 水野忠暁（1767～1834）の斑入り植物（「草木錦葉集」の出版）
- ・庶民園芸と超高度な園芸（1800年代）
 - * 次々と訪れるブーム
 - * 花屋敷の誕生と庶民園芸

○外国人が驚嘆した江戸の町と人

- ・外国人が驚嘆した園芸の発達
 - * シーボルト、オールコック

非常に有名な植物園があると聞いたので、ドクトル・ビュルガーと先発し、数時間後に原についた。日本風につくられたこの庭園は、私がこれまでにこの国で見たもののうちでいちばん美しく、観賞植物も非常に豊富である。

【シーボルト著「江戸参府紀行」より引用・構成】

日本人は偉大なしろうと園芸家であって、地球上のこの地域におけるもっとも立派な植物の見本の一部が江戸の近辺に存在している。一般に、花を相当に栽培している日本の園芸家たちは、売る目的で栽培しているのだ。かれらは、四季をつうじてもっとも珍重される種類のものを供給するように栽培している。だから、いかなる日でも、花売りが美しい商品をもって歩き回る姿を見ることができる。

【ラザフォード・オールコック著「大君の都」より引用・構成】

・園芸家ロバート・フォーチュンの見た江戸

* 英国王立園芸協会からアオキの雄木を収集すべく派遣

染井や団子坂の苗木園のいちじるしい特色は、多彩な葉を持つ観葉植物が豊富にあることだ。ヨーロッパ人の趣味が、変わり色の観葉植物とよばれる、自然の珍しい斑入りの葉を持つ植物を賞賛し、興味を持つようになったのは、つい数年来のことである。これに反して、私の知る限りでは、日本では千年も前から、この趣味を育ててきたということだ。その結果、日本の観葉植物は、たいてい変った形態にして栽培するので、その多くは非常にみごとである。(中略) 斑入りのラン! 斑入りのシュロ! 斑入りのツバキ! そしてチャの木でさえも、まさしくこの「楽しき一族」を表徴している。「アジアで最上の針葉樹の一つ」を確信するマキも、葉に金色のたてじまの入った変種が栽培されていた。

【ロバート・フォーチュン著・三宅馨訳「江戸と北京」より引用・構成】

交互に樹々や庭、格好よく刈り込んだ生垣がつづいている、公園のような景色にきたとき、随行の役人が染井村にやっと着いた、と報せた。その村全体が多くの苗木樹園で網羅され、それらを連絡する一直線の道が、一マイル以上もつづいている。私は世界のどこへ行っても、こんなに大規模に、売り物の植物を栽培しているのを見たことがない。植木屋はそれぞれ、三、四エーカーの地域を占め、鉢植えや露地植えのいずれも、数千の植物がよく管理されている。

【ロバート・フォーチュン著・三宅馨訳「江戸と北京」より引用・構成】

大きな並木道や、松、特にスギの並木にしばしば出会ったが、道ばたに大変心地よい日陰をつくっている。ときどき種々の種類の常緑のカシや、時にはスギや他の常緑樹でつくられた見事な生垣に注目した、生垣は丁寧に刈り込まれて、手入れがゆきとどき、時にはかなりの高さに整枝されて、イギリスの貴族の庭園や公園でよく見かける、ヒイラギやイチイの高い生垣を思い出させる。

【ロバート・フォーチュン著・三宅馨訳「江戸と北京」より引用・構成】

川岸に沿って行くと程なく、近くに家の見当たらず田舎に到達した。背後を眺めると、川の向こうに寺院や物見櫓や木の茂った丘の起伏など、江戸の町が眼前に広がって、ひととき美しい絵のようであった。その場所全体がまるで一大庭園であった。

【ロバート・フォーチュン著・三宅馨訳「江戸と北京」より引用・構成】

日本人の国民性のいちじるしい特色は、下層階級でもみな生来の花好きであるということだ。気晴らしにしじゅう好きな植物を少し育てて、無上の楽しみにしている。もしも花を愛する国民性が、人間の文化生活の高さを証明するものであるとすれば、日本の低い層の人びとは、イギリスの同じ階級の人たちに比べると、ずっと優って見える。

【ロバート・フォーチュン著・三宅馨訳「江戸と北京」より引用・構成】

日 英 の 園 芸 文 化 略 史

年 代	日 本	英 国 (西 洋)
16 世紀まで	- 大陸から伝わった植物の観賞は、時代とともにわが国独自の様式を生み出していくが、依然として、大陸文化の影響下 (16 世紀) - 貴族階級を中心にツバキが観賞の対象に (豊臣秀吉も醍醐の花見やツバキの収集)	- コロンブスによる新大陸の発見 (1492 年) など、大航海時代 16 世紀に科学的な精神の発芽 (植物の世界では、ボタニカルアートの黎明期で、科学的な視点をもった絵画の出現)
17 世紀	- 徳川の三代将軍の花好きが、江戸園芸の基礎を形成 1615 年頃、寛永の第 1 次ツバキブーム 1635 年以降の「参勤交代」制度の導入により、大名の定住化 (大名庭園の必要性) 1658 年の「明暦大火」は空閑地づくりに拍車 1660 年代の第 2 次ツバキブーム 1660 年代後半のサツキブーム 1680 年代後半のボタン。ツツジブーム 1680 年代後半より多数の園芸書が発刊 1690 年、ケンペルが来日し、植物収集 (ヤブツバキをヨーロッパへ) 1690 年代前後、種樹象の三代目伊藤伊兵衛が活躍 (園芸が庶民へと広がる)	- 世界的な植物探索の時代がスタート (プラントハンターの草創期、イギリスではトラディスカントが活躍) 1630 年代にオランダのチューリップバブル 17 世紀後半から 18 世紀初頭は、フランスがヨーロッパの最強国 (ルイ 14 世)

年 代	日 本	英 国（西洋）
18 世紀	○ 1710 年代、京都で菊ブーム、1710 年代後半には江戸でもブーム ○ 1710 年代頃から花見が庶民に次第に浸透（徳川吉宗が観賞用にサクラを植栽） ○ 1720 年代の楓ブーム ○ 1700 年代前半に五代目伊藤伊兵衛が活躍 ○ 1750 年代に「肥後菊」生まれる ○ 1775 年、リンネの弟子トウンベリヤーが来日し、植物収集（ハクチョウゲ及び交雑ユリをヨーロッパへ） ○ 1780 年代の桜草、松葉蘭ブーム ○ 1790 年代の第 1 次百両金ブーム	○ リンネ（1707 年生まれ）の登場により、近代植物学の基礎が確立 ○ 1700 年代後半にイギリスで栽培業者が出現（クリストファー・グレイ、マーク・ケイツビー等） ○ 1700 年代後半に、イギリスのキュー植物園等が組織的な植物収集を開始（ジョセフ・バンクスがキュー植物園の経営に采配、公式のプラントハンター第 1 号としてフランシス・マッソンを派遣） ○ 1700 年代後半、園芸業の草分けとして、リー・アンド・ケネディ商会が活躍 ○ 1787 年「ボタニカルマガジン」創刊
19 世紀	○ 1804 年、向島に百花園が開園 ○ 1800 年代の第 1 次変化朝顔、第 2 次百両金、紫金牛、福寿草ブーム ○ 1812 年、染井で菊人形の見せ物 ○ 1810 年代後半、江戸菊の隆盛 ○ 1823 年、シーボルトが来日し、植物収集（アジサイ、ユリ等をヨーロッパへ） ○ 1830 年代の桜草、花菖蒲、松葉蘭ブーム ○ 1840 年代の花菖蒲、第 2 次変化朝顔ブーム ○ 1840 年代の造り菊ブーム ○ 1860 年代の造り菊ブーム、南天ブーム ○ 1860 年、ロンドン園芸協会から派遣されたロバート・フォーチュンが来日し、植物収集（アオキの雄木をイギリスに） ○ ロバート・フォーチュンがその著書「江戸と北京」で「1 マイル以上にもわたって続くナーセリー」の様子を記述	○ 1804 年、英国に王立園芸協会（RHS）の前身のロンドン園芸協会が誕生 ○ 1808 年、一時代を築いたヴィーチ商会が園芸植物の栽培を開始 ○ 1818 年、協会がケンジントンに送られてくる植物のための庭園を造営 ○ 1820～1860 年代、協会は、プラントハンターを海外に派遣 ○ 1833 年、フラワーショーの前身の展覧会スタート ○ 1861 年、ロンドン園芸協会が王立（RHS）に名称変更、第 1 回グレートエキシビション開催 ○ 1862 年、第 2 回グレートエキシビション（初のグレートスプリングショー） ○ 1865 年、RHS が初のガーデニング試験を実施

上十条一丁目路地園芸トライアル

第2回ワークショップ 上一西路地園芸探検と 路地園芸ワークショップ

講師：賀来 宏和 氏

株式会社グリーンダイナミクス代表取締役

片山 陽介氏

株式会社グリーンダイナミクス植物調査室

◆上一西路地園芸探検

- ・上一西の園芸を発見して楽しもう
- ・園芸のコツを専門家から現場で直接聞こう

◆ワークショップ「路地園芸トライアル」

- ・路地を園芸で彩る方策をみんなで考えよう

平成 18 年 3 月 30 日（木）

13：30～16：00

上十条一丁目西町会会館

開会

司会 片山さん、賀来さんと役割分担もしているそうですので、まちを歩きながら1時間程度歩いて最後に次回やっていただく、実際に皆さんで園芸をやってみましょうという路地を見て帰ってきて、どういことをやったらいいかといことを、片山さんに講師をやっていただい、皆さんで考えるというスケジュールでございます。今日は人数が何人来るかわからないというパターンですので、あと5分くらいお待ちしてまちなかに出ていきたいと思います。よろしくお願いいたします。地図をお配りします。人数が多いようでしたら2班に分けようと思ったのですが、少ないようですので1班でひとかたまりで行きたいと思います。

今日こちらに来ているメンバーを紹介します。賀来さん、片山さんは先ほどご紹介させていただきました。それからまちづくり公社から、

公社 公社の富永と申します。

司会 あと鈴木さんがいらしていたはずなんですけど。
それから区役所の方から

区環境課 環境課の環境緑化の係長の星野でございます。
いつもお世話になっております。

環境課の足立と申します。よろしくお願いいたします。

司会 それから主催団体の路地のまち連絡協議会の事務局長をやらせていただいています、木村です。それと会員であるんですが、家政大学の手嶋さんがいらっしゃっています。家政大学で講師を、講師でしたっけ？

手嶋 一応助教授です。

司会 助教授になられた！すみません。申し訳ございません。手嶋さんは谷中の方でもまちづくりをやられているオーソリティーです。それからわたしの本業の方の会社(株)都市計画同人)のスタッフの海老原でございます。

海老原 よろしくお願いいします。

賀来講師説明

ちょっと移動の前に、ごあいさついいですか。じゃ、ここで座ってお話しします。前回は本当にお忙しいところ、ありがとうございました。ご紹介いただきましたように、今日も2回目のワークショップということで、皆さんと一緒に回りしたいと思います。冒頭木村



さんからご紹介いただきましたように、植物の方はイケメン片山の方がお答えをしたいと思いますし、雑学はわたしの方でお話しをさせていただきたいと思っています。

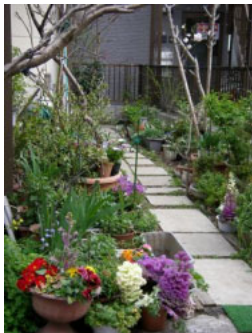
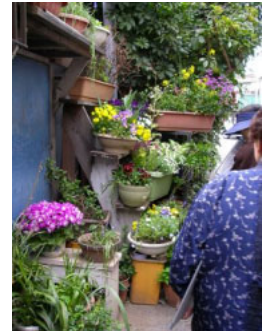
前回のお話しの時に、河合といううちの社員をご紹介しましたがけれども、3月26日のNHKの「趣味の園芸」でバラのお話しを5分くらいさせていただきまして、それから5月のおしまいの「趣味の園芸」で今度はメインでバラの方のお話しをさせていただきます。今、書店でバラ大百科ということでNHK出版75周年という企画で本が出ておりますけれども、その大半の中身は河合という者が書いております。

そういうハナタレがひとりおりまして、もうひとりのハナタレがこの片山でございますので、ぜひお聞きいただきたいと思います。今日は歩きながらですね、皆さんが日常で草花を育てられていて、例えば困っている点とかですね、こういうお花は合うんだろうかとか、あればどんどん聞いていただいて、と思います。たぶん彼はホラを吹くタイプじゃありませんから、わからないことはわからないと答えると思います。世の中でも間違ったまま知識が流布しているケースもありますので、ぜひお花とか、緑化とかそういうお話しをありましたらご質問いただきながら、皆さんと一緒に楽しく回りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

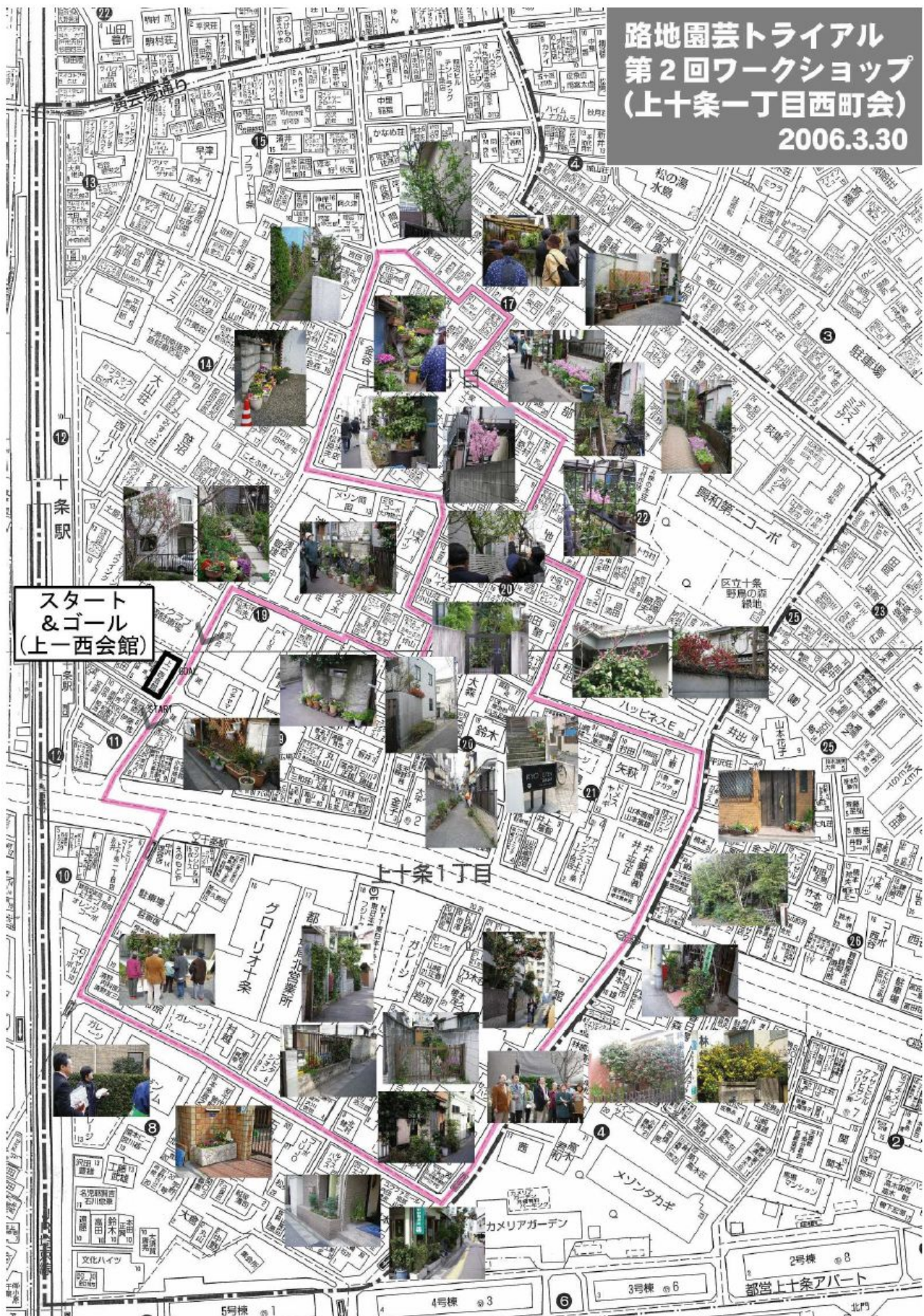
司会 ちょうど会長もいらっしゃったので、まちに行きたいと思います。もし画板を使いたいという方いらっしゃれば、数少ないんですが手を挙げてくだされば。

上一西路地園芸探検





上一西路地図芸探検ルート図



ワークショップ「路地園芸トライアル」

司会 それでは皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。いろいろすごく多いのでとてもびっくりしています。カメラを持っていたんですけども、撮りきれませんでした。これからは、グリーンダイナミクスの片山さんに、見ていただいたあそこの路地の部分ですね、細淵さんのところを重点的に、という訳ではないのですが、十条コーポのブロック塀の部分も含めてきれいな路地にしてみようと、ということで皆さんにご協力いただければと思います。よろしくお願いいたします。片山さん、お願いします。

片山講師説明

それでは、座って始めさせていただきますけれども、今、皆さん路地を歩いてこられて色々鉢物が置いてあったりですね、地植えしている木があったりと色々なものを見てきたと思うんですけども、今回ポイントを絞って路地をきれいにしましょうということで考えているのが、十条コーポA棟から井戸にかけて、あの辺り周辺ですね、ひとつのモデルケースとして飾っていかうというのを考えています。一応そう考えているんですけども、いやそんなところじゃなくてわたしの家の周りをきれいにしたいということがございましたら、またそちらの方で考えますけれども、基本的に特に何か決まりを設けて飾っているということはないと思うんですね。皆さん、こういう花が好きだから、とか、ご近所にもらったからというような形でいろいろ栽培されていると思うんですけども、きれいにまとめて見せるとか、どういう風にしたらもっとよく見えるだろうか、きれいに見えるだろうかということを考えていく必要があると思うんですね。

そういったときに色々な方法があります、見せ方としては。例えば、大きなコンテナに寄せ植えを作っておくというのもひとつそうでしょうし、それからひとつひとつの植物を大きく育ててそれをポイントとして見せるという方法もありますし、一鉢ずつ育てた植物を、寄せ植えではなく寄せ鉢という形で鉢を寄せて見せていくという方法もあります。色々な方法がありますから、そのときに応じてどういう方法が一番いいかというのは考えればいいと思うんですけども、今回の井戸周辺、それから十条コーポ辺りを見ていただいて、皆さんがお気づきになった点とか、例えばここにこういう植物を置いたらもっと見栄えがするんじゃないか、とかいうのがありましたらぜひ皆さんに意見をいただいてそれをまた議論していきたいなと思っています。

方法としましては、あちらに対象となる路地を拡大した地図がありますので、そこに皆さんの意見をいろいろ書き込んでいって最終的にとりまとめをしたいと思っています。

それですね美しく見せる方法として、皆さんのお手元に資料をいくつかお配りしておりますけれども、資料1という方をご覧くださいと思います。そちらにですね、これが必ずしも正解とか、間違っているとかいうことではないんですけども、こういう方法がありますよということを4つ事例を出しています。

4つのうち、まず1つ目として、写真4枚ありますけれども、形を統一している、と。例えば行灯仕立てにしたものをいろいろ並べるとか、植物自体の仕立てですね、盆栽もひとつの仕立てだと思えますし、大菊の3本作りというのも、あれもひとつですね。ああいった形が統一されている、と。それからもう一つ、今ご覧いただいた通り、植物を植えら

れている方法が地植えにしているのはともかくとして、例えばプランターに植えてある、発泡スチロールのト口箱に植えてある、プラスチックの鉢に植えてある、素焼きの鉢に植えてある、ビニールポットのも置いてある、といろいろポットの大きさとか、材質がそれぞれありました。こういったものをですね、例えば黒い鉢に全部統一するとか、同じ形に揃えるとか、という方法も美しく見せるひとつの方法であります。

それからもうひとつ、色を揃える、と。なかなかたくさん色があるとまとめにくくなってきました。赤だったら赤、ピンクだったらピンクで揃える方がパッと見たときの見た目は揃っている感じがしますね。それから同系色、赤だったら濃い赤、薄い赤、ピンクに近いような赤というような形で、グラデーションを作るですとか、そういった同系色でまとめるというのもひとつ。

それから4つ目としては組み合わせ。先ほど寄せ植えとか寄せ鉢というふうに申し上げましたけれども、凝った寄せ植えを作らなくてもですね、単純な組み合わせでもかまわないですからそういったものがいくつか並んでいる、というのもまとまった感じに見せる方法のひとつですね。ここに4つの考え方を載せたんですけれども、あの路地を修景するに当たって、そういったことも考えつつ皆さんでこういうふうになりたいとか、こういうふうにしたくなってきたとか、やっぱりうちの家をきれいにしたいとか、いうのもあると思いますのでそういった意見をいただきたいと思います。

では、ポストイットを用意していますので、

司会 全員一緒にやりますか、それとも2班くらいに分かれますか。

片山 2班にしましょうか。

賀来講師補足

今、片山の方でご説明しましたけれども、先入観にとらわれずに自由にこういうお花を使ってみたいとか、ここはこうしたらどうかということで、書いていただければと思います。このお手元の資料は、調和の取れた街並みをつくるときには、これが一番やりやすい方法なんですね。やりやすい方法ですよということを書いているだけです、これにこだわる必要はないと思っています。

今日もご覧いただいた中で、どなたかのお家ですけども、黒いペンキか杉板みたいなものに鉢を並べられていたところがありましたよね、すごく絵になっていました。あれは実にこの素材がひとつ同じようなものでおさえられていたので大変きれいに見えたということだと思います。

それから2番目のコンテナの材質、大きさ、色、形を統一させるというところはですね、よく皆さんもヨーロッパの街並みとか、あるいは第1回目の時にご説明しました江戸のまちがきれいだったということとかをお話すると、なぜきれいだったかというふうに思うんですけども、ずっとさかのぼっていくと、昔はそんなに使う素材がなかったんですね。建築にしても、身の回りにバラエティのある素材がなかったものですから、必然的に皆さんが同じような材料で飾ったり、お家の形も同じようなものになりますので、それで非常に街並みが美しかったと。でも最近はいろいろな石油製品の化学的なものとか、

ガラスとか鉄とか、それから建築もそれぞれ皆さんデザインをされるようになりましたので、街並みに統一感がないというところもあります。これを統一するというのも、ひとつ方法だな、と。あえてはずすという方法もあるかと思います。

それから「色を統一させる」というのも、比較的やりやすい方法です。反対色を使うとなると、良く考えておきませんと非常にごちゃごちゃした感じになりますので、よくありますのは、白いお花を基調に季節によって紫を入れるとか、ブルーを入れるとか黄色を入れるとかすると比較的無難ですよ。それから最近イギリスなんかで流行っているブラックアンドホワイトガーデンということで、黒と白で分けるとかですね、こんなことも面白いと思います。

いずれにしても組み合わせを統一させるというところが重要で、全体としてどうやってバランスをとるか、先ほど仕立てる形を統一するというところで申しあげましたので、同じ鉢を並べればきれいかということ、生け花でも天地人とかありますよね。全体として重みがうまくこうあったり、美術の世界では黄金分割なんていっていくつかに分けると非常にいいと。そのあたりを皆さんの感性でどういうふうにつくれるかというところがポイントかなと思います。ということでちょっと前置きになりましたけれども、皆さんで感じたところを少し紙に書いていただけるといいなと思います。よろしくお願いします。

司会 適当に2班に分かれていただいて、こちら側と向こう側と。じゃ、会長分けてください。あすみの会の3名+沖田さんが2人ずつになって、そこへ女性に入っていていただくというのはどうですか。

沖田 細淵さんと高橋さん、高木さんと。で、片山さんと石黒さんと前島さんが一緒。同じく3人。男は適当に選んで。あとは役所の方に。

司会 では、石黒班と細淵班でいいですか。

会長 そうですね。



グループで検討

司会 それでは、いいですか。それぞれ案を出して、次回はこれを実際にやっていただきますよ。皆さんで、どういうふうにするかを決めていただいて。4月末、ゴールデンウィークに入る前くらいですかね。では、こっちは沖田さんに発表していただいて、こっちは高尾さん、いいですか。では高尾さんからお願いします。

細淵班発表（発表者：高尾）

花をセットしてなるべく色々な人に見てもらおうということで、気を遣いました。この位置関係わかりますか？わたしは今日行ってないのでわからないんですけど。まえこういうふう歩いてきたので。これずっと歩きながら、すべてに対してなんとなく花が、コーナー曲がるとこっちが見えて、角曲がるとこっちが見えてそういう植え方をしたらどうか、そういうことを議論していないけれども、なんとなくそう感じました。



まずここは、曲がるともう既にきれいな花があるということでした。反対側のコーポ十条でしたっけ？の方には壁があるんですけども、先生の方からちょっとこのアスファルトのところを10cmくらい砂利が何か敷くといいですねと。前、ここの高橋さんの通路がそんな感じになっていたものですから、何かそれが続くような。ここはちょっと扉があって続かないんですけども。こういう砂利が続くような感じになるといいよね、と。

この壁については、ハンギングですか、そういうのはなかなか難しいので、軽そうな朝顔なんかだったらちょっとはできるかなという話をしていました。

ここを曲がってブロックを3段で上に黒のフェンスがあるということだったもんですから、そこはちょうど家がセットバックしていると。この空間を使って何かできないかということになりました。黒のフェンスがあって家の方が見えるもんですから、ブロック塀の3段部分のまでの高さくらいの低い花や植木を植えたらどうか。ベースを黒い台か何かにして、鉢植えがポンポンポンとあってそれがちょうどブロックの高さくらい。向こう側に黒いフェンスがあって、その向こうは庭にある植木が見えるように。ブロックの手前に何か植えて、中の庭にも色々な木があると、そういう二重に見えるような形にしたら楽しいね、ということですね。

次にここに井戸があって、井戸の向こうにちょっと花が既にあると。井戸がやはりポイントになるもんですから、この井戸のどっかこっちにポイントになるものがあると非常にいいんじゃないか、と。基本的に井戸水は今でも色々使われているということで、皆さんが来られるので、ポイントになるちょっと大きめのものですか？ちょっとわからないですけども。

参加者 これ（ブロック）が三段？

< 細淵班作業図 >



高尾 そうです。ちょうどこれを隠して、かつ黒のフェンスは隠さないぐらいの小さなものがいいんじゃないかと。黒のフェンスですから、鉢植えの下に置く台も黒で固めるということで、基本的には黒を基調にしてこの辺をデザインしたらどうかということでした。

最後はこの対面ですね。対面の細淵さんのガレージが向こう側が見えるものですから、半透明になっていますから何となく庭に植木が何かあるような、そういうような、この辺からちょっとのぞくと「あ、何か植わっているな」と。そういうものを細淵さんの中でしていただければいいなという気がします。

あとはここの高橋さんのところ、ここ非常にいいですね。ただ専門家に言わせると土がかたくて、石炭ガラが入っているので土の入れ替えをしたらどうかという話がありました。あとさっきのこの植木鉢も、重いかもしれないけどできれば陶器、磁器の方がいいですねという話でした。ただ移動しやすいということもあるもんですから、軽いものもあるかな、ということでした。あともう一つ、花だけじゃなくて道具も何気なくちょこちょこ置いてある方が、整然と花が並んでいるのもいいかもしれませんが、色々な道具が雑然とちょこちょこっとあるのもいいですね、と。

賀来 この辺りに道具があっても、すごいおしゃれです



よね。

参加者 それ、いいなと思いましたね。

高尾 それと、このゾーンは日照が限られているので、葉物関係のものも結構いいんじゃないかと、葉っぱのものもいろいろあるものですから、それをいろいろ彩り揃えといいんじゃないですかとおっしゃっていました。あとブロックの上に花を並べるという方法もあるんじゃないかということですね。そんなですかね。

沖田 うちの方はちょっとはずかしくなってきたな。

参加者 ここのことしか考えなかったわね。

石黒班発表（発表者：沖田）

とりあえず全部話すと支離滅裂になっちゃうので、一点集中ということでブロック塀だけについて考えました。一応特注なんですけれども、こういうラックを作ってもらって素焼きのコンテナ、40センチくらいのものを3つ置く、と。下に60センチのものを3段。

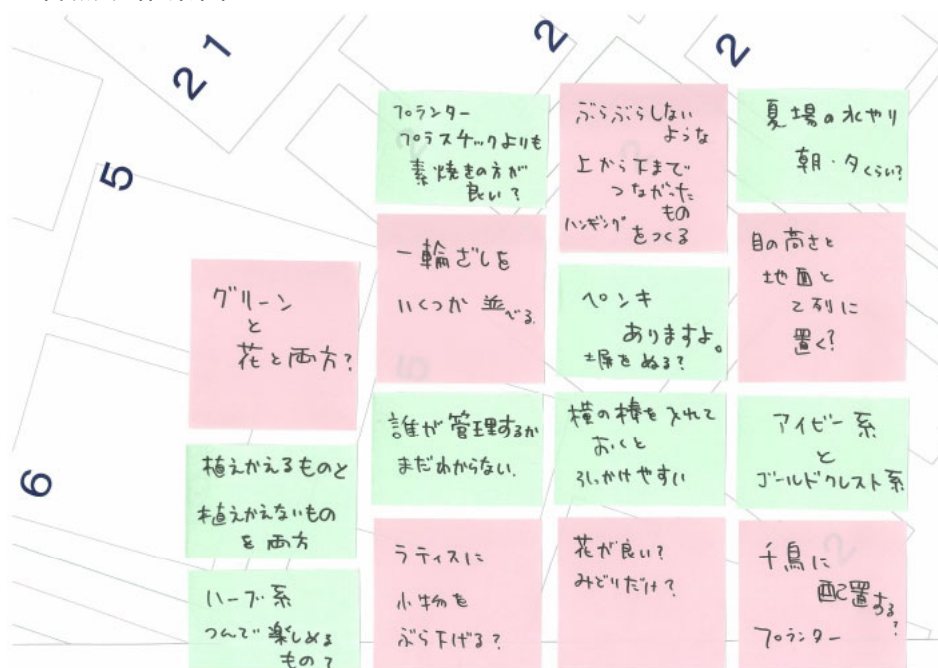
一応ブロック塀も高さが約2mあって不安なので、鉄筋で2m4本、で横にやってに倒れないようにするということでこれを特注で作らせると。で、素焼きのコンテナを置いて下は花物、上は葉物をやると、そういうことで意見通しました。トラックが入らない、



< 石黒班作業図 1 >



< 石黒班作業図 2 >



片山 半分ぐらいまでトラックが入ったりするということで、それより奥、

沖田 伊藤さんの家寄りのブロックを考えています。その辺を考えて約 2 m ちょっとですね。そういうことで、なんとか目立つんじゃないかと。目線の高さで下と 2 段やれば いいんじゃないかということで意見がまとまりました。

参加者 ブロックに這わせるものということで、朝顔というのも出たんですけど、花が終わった後どうするんだということになってしまってます。

参加者 それだけ?

沖田 そうよ。一点集中。

賀来 ご予算とかがあるからどこまでかわかりませんが、もし今の案を統一でやるとしたら、これは黒でやった方がいいと思うんですよね。黒できっちり縁取りが見えるようにして、場合によっては素焼きにするか木で枠を作った方がきれいかもしれないですね。

ここはちょっと土を替えてここはすごくおしゃれなのでこうやって、これはどなたかのお宅で石の上に黒い板を置かれたのがとれもおしゃれだったですよ。あれのこれぐらいの高さの物を作って、邪魔なときは皆さんですぐどけるようにして、鉢を少し置いたらどうかと。

それから井戸のまわりにひとつポイントを置きたいよね、と。例えば費用的な問題とかダメだったら、井戸のところにひとつの鉢だけでもいいと思うんですよね。ナス タチウムかなんかを置くとすごく絵になります。

それから最後にこの細淵さんのところに、ここから見越しでなにかここに花木かなんか、日当たりの関係もあるかもしれないけれど、やらせてもらって、ここのガレージの屋根のところからスダレか何か、さっと垂らす、と。すごい絵になりますよ。

参加者 でも先生、あそこ道幅があるから日当たりはいいんです。

賀来 そうですか。ここの屋根のところはどうです？

参加者 けっこうね。うちは洗濯物がすごくよく乾くんです。案外朝からお日様が当たるんです。



賀来 結構ちょっとした小物で変わってきて、今ここのフェンスのところにもこどもパトロールのマークがついているでしょう。あれをできたらこちら側につけられて。

参加者 いかようにも、いたします。あれは会長から頼まれてつけているんですから。

沖田 あれはやっぱり目立つところにつけないといけないんですよ。

賀来 それはいえる！なんかそうやるとこう、いいかなあとと思いますけれども。

参加者 会長さん、門はペンキ塗ったばかりだからきれいなものよ。この間たけちゃんが塗ったの。

沖田 ペンキ余っているよ。

司会 公社で用意するそうです。

いろいろ宿題も出ましたので、わたしは植物のことが全然わからない人間なんですよ、それで賀来さんと片山さんにご相談させていただいて、今日の皆さんの意見を踏まえた形でこんな形でどうというのを次回皆さんにやっていただくような形にしますか。で、そのラックが出来るかどうかというのは見積をお願いします。

沖田 これ、決定なの？

参加者 自分たちで決めたんじゃないの。

沖田 できたらいいなって。

参加者 会長、あんまり重たいのはダメよ。あの塀に沿わせるなら。



沖田 中途半端になっていないで、下までつける形だから、ブロック塀にはあまり負担をかけない、そういう感じ。

司会 逆に鉄じゃなくて、木でできると軽くていいんだけど、そっちの方が高くつきそうだな。鉄だと重たいですもんね。

沖田 これ、直線じゃなくてちょっと斜めにしてあるよ。

参加者 会長さん、端に電信柱があるからね。

沖田 電信柱が20センチくらいだから、そこをはみ出さないような幅のラックだったら邪魔にならないだろうと。

参加者 山崎さんの家は新しいけど、あとの塀はもうみんな古いからがたがきていますからね。

沖田 こういうふうにしておけば、邪魔だということになればどこせばいいんだから。

参加者 そんな情けないこと。やるんなら徹底的にやってくださいよ。

司会 できることとできないことを、予算の関係もあるので整理させていただいて。植物の名前もいろいろ出ているので、今日出た中から沖田さんも入っていただいて選んで、と。

区環境課 植物の本とかもありますので参考にさせていただくようにお渡しできます。

片山 植物に関しては任せてください。

沖田 じゃ、そういうことで、次回お楽しみに。次回の日にちはこのラックによってだよな。

司会 まず値段がどのくらいかかるかで、何をやるかを決めましょう。

沖田 そうですね。

司会 では、そういうことで、一応会長さんを入れて公社、区役所の皆さんと相談をさせて頂きます。で、申し訳ないですが予算が少ないのでその範囲内でできることを、皆さんと楽しくやりたいと思います。今回は表です。では、今日は本当に長い間、ありがとうございました。

参加者

上十条一丁目町会	6 名（路地協会員 1 名：沖田）
十條あすみの会	4 名 （町会除く：路地協会員 2 名：荒木、宇田川、佐久間、高尾）
路地協会員	2 名（上記を除く：手嶋、海老原）
(財)北区まちづくり公社	2 名（鈴木、富永）
北区役所	1 名（環境課：星野、足立）
講師	2 名（(株)グリーンダイナミクス：賀来、片山）
路地協事務局	1 名（木村）

配付資料	1	路地園芸探検マップ（ルート図）
	2	第 2 回路地園芸トライアルワークショップ資料（資料 1）
	3	” （資料 2）

第2回上十条一丁目西町会路地園芸ワークショップ

1 グループ別討議のまとめ

●高尾班の提案（ポストイット）

Jコーポ周辺

- ・ブロックの上に花を並べる
- ・朝顔などのツル物
- ・トラックが入る(引っ越しのじゃまになる)
- ・”はじ”を少しアスファルトを止めて”砂利”
- ・黒で統一 木枠
- ・2m位ハンギング

T邸周辺

- ・土の入れ替えしよう
- ・土が固い 石炭ガラ
- ・陶器、磁器がいい

Y邸周辺

- ・セットバックしているので、(黒のフェンスに合わせて黒い台の上に鉢)
- ・移動しやすいものにする。板は2つに。

H邸周辺

- ・半透明、向こうが見える
- ・敷地内に花を

井戸周辺

- ・井戸の隣にポイントになるものを
- ・花だけでなく、道具も置くと絵になる

その他

- ・日照が限られている、葉物か。
- ・きっちり置くときれい



● 沖田班の提案（ポストイット）

Ｊコーポ前

植え方

- ・ 目の高さに 3 ～ 4 つプランターを並べる
- ・ 目線のところと下との 2 段にする
- ・ 塀につるだけでは危ない？
- ・ 塀から下げた時危ないので、下も固定
- ・ 千鳥に配置する？
- ・ 特注のハンガーで
- ・ ラックに横の棒を入れておくと引っ掛けやすい
- ・ ラティスに小物をぶら下げる？
- ・ 一輪挿しをいくつか並べる

植える植物

- ・ 朝顔などは終わった後次が問題
- ・ 花が良い？ 緑だけ？
- ・ アイビー系とゴールドクレスト系
- ・ グリーンと花と両方

- ・ 植え替える物と植え替えない物を両方
- ・ ハーブ系、摘んで楽しめるもの？

植える鉢、プランター

- ・ 小さなポットは夏の磁器や植える物が大丈夫？
- ・ プランターの幅は両脇の電柱分くらいなら邪魔にならない
- ・ あまり大きな物は手入れに大変
- ・ プランター、プラスチックよりも素焼きの方が良い？

管理

- ・ 夏場の水やり、朝夕 2 回くらい？
- ・ 誰が管理するのか、まだわからない

その他

- ・ 予算 18 万円でできるもの
- ・ 塀をペンキで塗る？



2 実践トライアルの修景方針（事務局とりまとめ案）

参加者：沖田、佐久間、高尾、賀来、片山、富永、木村、海老原（敬称略・順不同）

Jコーポ前

■ 現況

十条コーポのブロック塀が高い

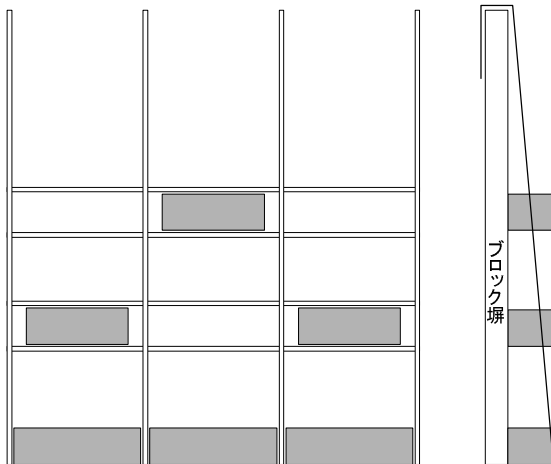
道路の反対側では柵や鉢を置くなどしている

修景の方向性

十条コーポのブロック塀に特注ラックを設置し、プランターや鉢を置く（1箇所）

● 修景作業

- ・ラックを作る
- ・プランター、鉢を置く



Y邸前

■ 現況

道路後退済み。すっきりしているがうるおいがない

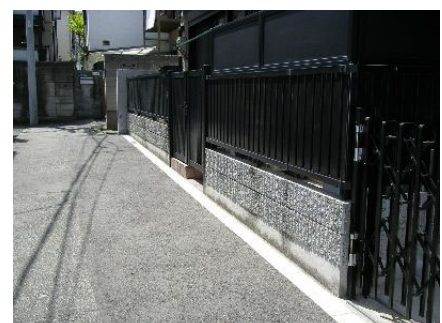
修景の方向性

高橋さんと井戸をつなぐポイントをつくる

縁台＋緑を1～2箇所配置

● 修景作業

- ・縁台をつくる（フェンスの色と合わせて黒の天板に 石またはブロックの台座）
- ・鉢（陶器、磁器、素焼き等）に花を植える
- ・鉢カバーをつくる？



井戸まわり

■ 現況

きれいになったものの若干乱雑

修景の方向性

ポイントのなるものを配置

園芸を楽しんでいる感じを小物で表現？

● 修景作業

- ・ 井戸近くに鉢を置く(ナスタチウムを植える)
- ・ 鉢(陶器、磁器、素焼き等)に花を植える
- ・ ジョウロなどの小物をディスプレイする



H邸前

■ 現況

色々な植物があるが若干乱雑？

修景の方向性

プライベートな部分と緑をみせる部分を隔てる

色のある植物を配置する

● 修景作業

- ・ 鉢をきれいに並べる
- ・ 手前部分に色のある植物、鉢を配置する
- ・ スダレをかける等でプライベートとの境をつくる
- ・ こども 110 番の札を移動する？



T邸入口

■ 現況

きれいに草花を植えているが、石炭ガラがはいっており、土が良くない

修景の方向性

土壌を入れ替えて、緑と花をプラス

● 修景作業

- ・ 土を入れ替える
- ・ タイム等の地被植物を植える
- ・ 花を植える



平成18年3月30日
(株)グリーンダイナミクス

第2回 路地園芸トライアル ワークショップ資料(資料1)

美しく見せるための方法として

仕立てる形を統一させる

コンテナの材質、大きさ、形、色を統一させる

できるだけ自然素材を用いることで、周囲との調和がとりやすい。

色を統一させる

同一色や同系色でまとめると一体感が出る。

組み合わせを統一させる

たくさんのコンテナやハンギングバスケットを飾る場合、1つ1つを凝ったものにするよりも、シンプルでもよいので組み合わせを統一させると、一体感が出る。

以下、参考写真

■仕立てる形を統一している例



■ コンテナを統一している例



■ 花の色を統一している例



■ 花の色と組み合わせを統一している例



平成18年3月30日
(株)グリーンダイナミクス

第2回 路地園芸トライアル ワークショップ資料(資料2)

おおよその路地がそうであるように、今回のワークショップで対象路地としている十条コーポA棟から井戸周辺も、建物が密集しているため、限られた日照しか得ることができない。

植物の生長を左右する要因の1つに、日照条件が挙げられる。

植物を大きく分けると、日当たりを好むもの、日陰を好むもの、の2つに分類できる。

日当たりを好む植物を、日照の少ないところに置くと、数日のうちに徒長がはじまる。また、日陰を好む植物を、日照の多いところに置くと、葉焼けなどの原因になる。栽培には、環境に合った植物を選ぶことが重要である。

イギリスなどでは、「シェードガーデン」と言われる、日陰を好む植物を集めて、庭を構成する方法も好まれている。

シェードガーデンに適する植物は、日本原産のものも多く、代表的なものとして、ギボウシ、フウチソウなどが挙げられる。

以下、シェードガーデンに向く植物として、数種類を紹介する。

ギボウシ(ホスタ)
ヘデラ(アイビー)
フウチソウ
シダ類
ユキノシタ
ヒューケラ(ツボサンゴ)
オオバジャノヒゲ
ヤマアジサイ など

上十条一丁目路地園芸トライアル

第3回ワークショップ **路地園芸実践ワークショップ**

講師： **賀来 宏和氏**

株式会社グリーンダイナミクス代表取締役

片山 陽介氏

株式会社グリーンダイナミクス植物調査室

◆ワークショップ「路地園芸実践トライアル」

・前回議論した内容を実践しよう

平成18年4月25日（火）

13：00～17：00

上十条一丁目西町会会館

上十条一丁目17番21・22号前路地

■ 事前説明

司会 皆さん、お寒い中、雨の中ありがとうございます。いよいよ路地園芸トライアル最終回というか実践トライアルということで、あいにくの天気ですがグリーンダイナミクスさんもこれからお花の季節で、お忙しいということで日程が取れないので、今日やってしまいたいと思っています。お体に自信がないとか体調を崩されている方は、こういう天気ですので最初から、途中からでもお帰りになられて結構ですので、無理なさらないようにお願いします。今日も講師はグリーンダイナミクスの片山さんと賀来さんに来ていただいております。後ほどご説明等よろしくお願いいたします。

それから今日は思わぬ来賓がいらっしゃいまして、区役所の方から

北区まちづくり部長挨拶

萩原 北区のまちづくり部の部長、萩原と言います。公務員は4月がだいたい人事異動の季節なのですが、前任の吉原さんが東京都の方に戻りまして、わたしはまた東京都の方からやって参りました。北区は初めてなんですけれども、だいぶ前なんですけど北区の清掃工場、あそこの脇に憩いの家があってお湯を送っていますよね。あの工事を現場で担当しましたのが北区ではあります。これから皆さんといろいろなことをやりながらがんばっていきますので、よろしくお願いします。

北区まちづくり部参事挨拶

佐藤 北区まちづくり部参事の佐藤です。まちづくり公社の事務局長を兼務しております。いろいろお世話になっています。

司会 それから、公社から富永さん、環境課から

北区環境課挨拶

星野 星野でございます。

司会 というようなメンバーです。あとは路地のまち連絡協議会から大熊が来ております。ちょっと今雨が強いので、片山さんの方から今後の手順みたいなものをお話しいただければと思います。



片山 天気が非常に悪いんですけれども、おそらくわたしが雨男なせいだと思うんですけれども。今まで1回、2回と通していろいろやってきましたけれども、実際今日植え付け等の作業をしていただくのはJコーポの壁の部分、本当にできるとは思っていませんでした。立派なラックができましたので、あれにプランターを取り付けて飾っていきたいと。

それからもう一つはTさんのエントランスの部分ですね。非常に細いところなんですけれども特徴があって面白いので、お花で飾っていききたいと思います。それとYさ

んの前のところに縁台を作りまして鉢植えを置いていきます。それと井戸のまわり、こちらにも鉢を置きます。

それから最後、Hさんのところに立派なよしずがかかりまして、日陰になってしまったかなと思っておりますけれども、その前をきれいに飾っていきたいと思います。

午前中準備をしまして、Tさんお宅の路地の上の部分の土をあらかじめ掘って、午後から新しく土を入れてそこに植えていきます。力仕事がありますので、こちらは男性軍にがんばっていただいて、女性陣はプランターや鉢に植物をメインで植え付けていただく、という段取りを考えています。

植物に関しては手配済みで下に置いてあるとおりですが、プランターの上に植物をいくつか並べて置いていきますけれども、あのままではなくてポットを抜いて植え付けて向こうに運んで飾るというふうに考えています。プランターに置いてある植物については、また後ほど説明をしたいと考えていますが、雨が降っていて寒いので、どうしましょうか、上で説明してもさっぱりわからないと・・・10分でも下に行って植物の説明をしてから作業を開始したいと思います。

司会 では、そういうことで、天気も天気ですので、さっとやってしまいたいと思います。よろしくお願いします。

■ 植物の説明

片山 では、雨があがっているうちに、今日使う植物の説明をします。何種類あるのか、わたしにもよくわからないのですが、沢山種類がありますが、順番にお花から行きましょうか。

ここにあるのは、皆さん、わからない？正解。マリーゴールドです。よく見るマリーゴールドはオレンジとか黄色とか赤ですけども、これは白のマリーゴールドです。あまり出回っていませんので珍しいと思います。マリーゴールドの中で唯一白い花の品種です。これしか白い花のマリーゴールドはないんですね。ホワイトバニラといいます。

これは皆さんご存じのペチュニアですね。南米の植物です。

参加者 南米のどこ？



片山 ブラジルとか、チリ、アルゼンチン、ボリビアその辺りです。

これはピンクのペチュニアですね。これがキンレンカ、ナスチウムと言われていきます。葉をかじるとちょっとピリッとした感じがしますので、サラダの彩りとかにも使われます。エディブルフラワーといって、よく花を食べるのがありますがけれども、そういうのにも使われたりする植物です。

それからこれがゼラニウムと呼ばれている植物ですね。後ほど、ここにも実はこういう植物があるんですけども、これはゲラニウム、こっちはゼラニウムです。よく

一緒じゃないかって言われるんですけども、こっちは正しい学名でいうとペラルゴニウムという植物なんです、よくお花屋さんでペラルゴニウムというのは一季咲きで春しか咲かないんですが、こっちは四季咲きです。ゼラニウムというふうな区別されていますけれどもペラルゴニウムという植物です。こっちはゼラニウムという植物。

賀来 これは江戸時代の末期か明治にはこの葉っぱで楽しんでいたんですね。これがモンテンジクアオイですね。

片山 それから、ここは

参加者 ニチニチソウ。



片山 はずれです。インパチェンス。どちらかというと初夏から夏にかけてすごく生育が盛になる植物ですけども、インパチェンス。非常に日陰でもよく咲いてくれる植物です。丈夫です。これは1年草ですので、冬、温度が低くなってくると生長が鈍くなって枯れてしまいます。

賀来 これはある程度こう盛り上がってきたら、一回ピンチしても大丈夫だよな。

片山 はい。色は何色があります。

今花が咲いているのでいうと、これは皆さんあまり見たことがないと思いますが、ティアレラという植物です。ティアレラです。北米の植物です。非常に寒さにも強いですし、常緑です。花に甘い香りがあります。ユキノシタ科の植物でいわゆるシェードガーデン、日陰のお庭でも耐えるような植物です。宿根草ですから、毎年花があがります。

もうひとつ花が咲いているのが、変わった色をしています、クロバナフウロソウといいます。いわゆるゼラニウムというもので、これと同じ仲間です。花の色がこういう色をしていますので、非常に変わっていますけれども、これも宿根草です。

先ほどから出ています、これもゼラニウムでビルウォーリスという品種、こぼれ種でよく増えます。草丈はもうちょっと、20センチくらいまでになります。これは日当たりでも日陰でもいいですね。どっちでも使えます。

今花が咲いているものはこれだけですね。あとは、もちろん花は咲くんですけども、今花がない植物もあります。そっちから順番に行きますけれども、これはちょっと株が小さいんですけども、わかりますか？これはツボサンゴと呼ばれている植物です。ヒューケラですね。これも常緑の植物で、ユキノシタの仲間なのでティアレラと親戚といえば親戚ですね。

ここにあるのがですね、沖田会長が染めて真っ黒にしたんですけども。

参加者 本当～？

片山 嘘ですよ。(笑)オオバジャノヒゲのコクリ
ュウというものです。日があまり当たらない
ところはグリーンに、日が強く当たると真っ
黒に。ただ日陰に植えても全部緑になるか
というそういう訳じゃないんですね。年中変
わらずこういう色をしています。植物とし
ては、非常に面白い。これは白から紫の花
が咲いて、黒い実がなります。



参加者 それが種になって落ちるとまた出てくる？

片山 それが落ちると、グリーンの葉と黒い葉とそれぞれわかれてでてきます。全部が黒になる訳じゃないんです。

こちらが、よくハーブで使われます、タイムです。クリーピングタイプですからいわゆる這っていくタイプですね。立ち上がるのと、地面を這うものとあるんですけれども、こちらは地面を這う方です。ピンク色の花が咲きます。

これもマットみたいにぺたっとしていますけれども、ミントですね。ペニーロイヤルミントというもので、これも地面を這っていきます。ピンク色の花が咲きます。

これはよくインテリアとかで使われますけれども、ワイヤープランツ。ワイヤー、針金みたいですよ。タデ科の植物、ミューレンベッキアという名前なんですけれども、これは霜が強く降りたりとか寒い地方は葉を落として冬を越えるんですけれども、おそらくこのあたりだった冬も葉を落とさずにこのままの状態ですと。これも上に伸びるのではなくて、地面を這うように生長する植物です。

これは、ベニシダと呼ばれるもので、新芽の時期、もうちょっとしたらもっと赤くなります。葉っぱが赤いんですね。この状態ご覧になってわかるように落葉ですから、冬は葉がなくなります。春に新しく出てくると。

最後はアイビーですね。ヘデラと呼ばれています。色々な斑入りがありまして、コレクターも結構多いようです。冬もこのような状態ですし、斑が入る部分は冬になると赤く紅葉します。とても丈夫な植物ですし、コップに差ししておくだけで根が出てきたりします。

もう一個ありましたね。パルテノシッサスといいます。ブドウ科の植物です。ツタの仲間なんですけれども、オランダで4年くらい前に育種された比較的新しい植物です。これも釣り鉢に植えると垂れ下がったり、そういう使い方をします。

参加者 花は？

片山 花は咲きますけれども、ブドウの花、ご存じですか？

参加者 ブドウの花？

片山 はい。

参加者 実は？

片山 実はできません。ブドウの花と同じような花です。

以上です。1年草の説明をします。ここにあるペチュニア、ナスタチウム、一年草って便宜的に外で冬を越えるか越えないかという話をしていますけれども、ナスタチウムも外に置いていたらダメになります。部屋の中だと持ちますが扱いとしては一年草です。それからマリーゴールドも一年草です。ゼラニウムも強い霜とか雪が降ったりそういうのが何回も繰り返すと傷んでしまいますけれども基本的には宿根草なので保つことは保ちます。それからインパチェンスですね。これも一年草です。

賀来 比較的こぼれ種で元に戻るから、抜いた方が良いものはマリーゴールドとペチュニアかな。

片山 そうですね。

賀来 割とインパチェンスはこぼれ種で出ます。
残るものが多いですから、ペチュニアなんか
が抜けたあと、秋に終わったらまた次の春に
植えてもらえば。



木村 男性軍は土方に(笑)、女性軍はここで鉢植えに花をアレンジしてください。

■ 花の植え方

片山 植え方ですけども、今わたしが仮に置いていますが、バランスを考えて置いていました。垂れ下がるものは基本的に鉢の縁を隠したりとか、そういった植物を手前に置いています。寄せ植えとか鉢植えを飾るときに、できるだけ鉢が隠れる方がきれいに見えるんですね。植物で覆われていると、そういう状態がすごくきれいに見えるひとつです。ですから植えるときにできるだけ、鉢植えもそうですけれども鉢の縁が隠れるように植えるのがひとつですね。そういうような形で植えていきます。

隠れるように植えるときに、ポットを取って見ていただくとわかるんですけども、これ、ポットの真ん中に1本しか植わっていないんですね。このまま植えると、植物体の中心はここなのにこれだけ無駄なスペースがあるんですね。このまま植えるとこの部分が、真ん中に集まっちゃうんです。そうするとせっかくこの縁を隠そうと思っていくら端に植えても、ならないんですね。ですから必ず鉢の周囲に植える植物は、この壁に当たる部分の土を重点的に落とします。上に乗っかるような状態、中心がここに来るように土を落とします。枝垂れるものがこの縁にぎりぎりに来ている方

がよりいいです。それから土はある程度沢山入れておかないと、枝垂れる植物は一回上がってこう下りてこないといけないので、なかなかきれいに枝垂れないんですね。

土を落とすときに、ここにくっつけるんだからこの土ガリガリ落とせばいいんだとそういうふうにすると植物はかなり傷んでしまいますので、横にある根はあまり触らない。例えばどっちを正面にするかを良く考えていただきたいんですけども、正面にする方が決まれば、例えばこう見て正面にすると、となるとこの土が要らない。となるとこの土を落としていく、後ろ側ですね。前は何も触らない。でこういうふうに置くと、壁ぎりぎりに。

参加者 つぼみの向きとかもあるんでしょ？

片山 つぼみは次々に出てきますから、どこを正面にしても基本的に日のある方に向きなおしますから、構わないんですけども、今飾ったときにですね、なんかちょっと違う方向を向いているなっていうよりは揃っていた方がいいですね。



参加者 根は切らない方がいいですね。

片山 根は切らないでください。切らないでくださいといっても多少切れますから仕方ないんですけども、長く出ているのはそのままに。きれいに巻く必要も何もないです。そのまま置けばいいです。あまりにも根が回りすぎて取りにくいような植物は、無理にとると全部根が切れますので、バケツを持ってきて洗ってください。洗うと土だけが落ちて根はそのままになりますからそういう形で。

参加者 新しい土は置かなくても大丈夫ですか。

片山 置かなくても大丈夫です。最後全部置いたら土をしっかりと入れて水をやる、と。こういう植え込みは、全部根を崩してからあてもないこうでもないと入れ替えをすると植物が傷んでいきますから、レイアウトを決めてポットを抜いて土を崩したら、瞬時に植えていくと。



土は今、仮にだいたい7分目から8分目くらい入れていますがけれども、ちょっと低いなということであれば足してください。これが完成ではないですから。土はここにありますので。

■ 園芸トライアル

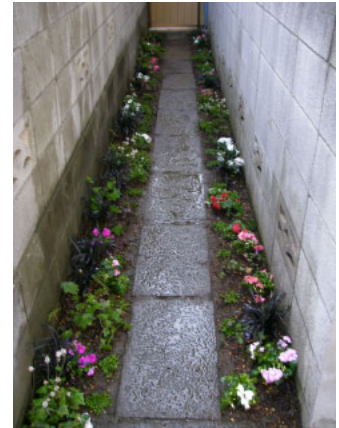
○ J コーポ前ブロック塀

- ・ 特注ラックにプランターハンガーを掛け、コーヒーの麻袋をかけたプランターをセット
- ・ 植えたもの
マリーゴールド ホワイトバニラ、ゼラニウム、ペチュニア、アイビー、ワイヤープランツ、コクリュウ等



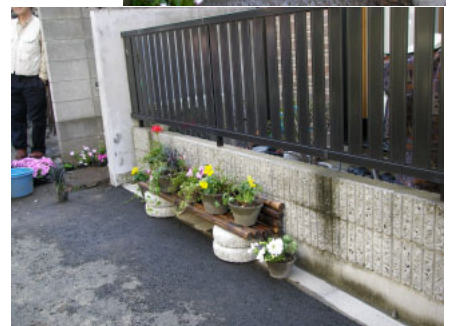
○ T 邸前

- ・ 石炭ガラが入っていた土を入れ替え、日陰にも強い植物でアプローチを構成
- ・ 植えたもの
ティアレラ、ヒューケラ、オオバジャノヒゲ コクリュウ、タイム、ミント等



○ Y 邸前

- ・ 御影石と杉杭で縁台を作成し、小さい鉢植えを飾った
- ・ 植えたもの
ナスタチウム、ゼラニウム、ペチュニア、アイビー、コクリュウ等



○ 井戸周辺

- ・ 井戸近くに鉢植えとコーヒーの麻袋をかけたトレーを配置した
- ・ 植えたもの
マリーゴールド ホワイトバニラ、ゼラニウム、ペチュニア、アイビー、ワイヤープランツ、オオバジャノヒゲ コクリュウ等

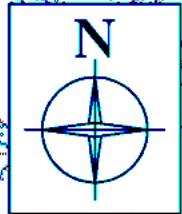


○ H 邸前

- ・ プライベート部分との境界をよしずで区切ることによって、路地の突き当たりの風景をすっきりと見せた
- ・ 鉢植えを配置した
- ・ 植えたもの
マリーゴールド ホワイトバニラ、ペチュニア、ゼラニウム、アイビー、パルテノシッサス等



トライアル内容



Y邸前

松杭と御影石飛び石で作った縁台に、鉢植えを設置。鉢は黒で統一。
花苗配送用のトレーに麻袋をかぶせて作ったプランターを邪魔にならない場所に設置。

H邸

H邸玄関ポーチ

よしずで背景を整理し、元からあった笹の鉢と、花苗配送用のトレーに麻袋をかぶせて作ったプランターを設置。

T邸

Y邸

井戸

T邸アプローチ

飛び石の両側の土を入れ替え、葉物と花を植えて、花が際だつように演出。

井戸周辺

井戸の排水部分に植木鉢を設置。
また、花苗配送用のトレーに麻袋をかぶせたプランターを作り、賑やかに修景。

Jコーポ

Jコーポブロック塀

ブロック塀に、黒の鉄筋で作った特性ラックを設置し、プランターに麻袋をかぶせたものを3個ぶら下げる。

直下の地面にも3個プランター(同上)を設置。

0 1 3 5 10 15m

■ 第3回ワークショップのまとめ

司会 皆さん、どうもお疲れさまでした。雨も降ってどうなることやらと思いましたが、最後は晴れてくれて助かりました。ありがとうございました。

今回区役所さんがサービスをしてくれて、注文した花屋さんもサービスをしてくれて、花がずいぶん余ったようですが、まだいくつか余っていますのでもしよろしければお持ち帰りになって結構です。

今日は花植えをしていただきましたけれども、今日限りではなくて、花は日頃のメンテナンスが必要かと思います。今日の講評を含めて、その辺のお話しを含めて、片山先生の方からお話しをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

片山 皆さん、どうもお疲れさまでした。えー、言葉がないんですけど。そうですね。植物を植えるということひとつひとつをとっても、慣れないとなかなか難しいです。すごくボリュームの良かった植物も、皆さんの手にかかるとボリュームが半分くらいになったものもありますけれども、植物というのは簡単に折れてしまいますので、やっぱり植物同士が当たっても折れますし、人間の手が当たるとすぐ折れてしまいますので、お花屋さんは結構気を遣って植物を扱っているということをおわかりいただけたんじゃないかなと思います。



それと、植えるときに土をそのまま上からさっと落としますと、つるの長いものとつるを一緒に巻き込んで土の中に埋めてしまったりとか、葉も一緒に巻き込んで土に埋めてしまったりいろいろありますので、なるべく葉を上に向けて土を入れると、というようなことを心掛けるようにしてください。

今後のメンテナンスについては、ああいう寄せ植えなどをつくりますとどうしても根を崩してしまいますので、人間でいうと手術をしたことになります。手術をした人間をいきなり日の当たるところに出して明日から歩けと言っても、なかなかそれだけのパワーがありませんから、植物も一緒です。

根から水を吸って葉の裏から出すわけですが、根を崩すということは、吸水、水を吸う力が弱っています。けれども植物体、上はそのままありますから、水分だけが出て行く状態になると、人間でいえば脱水症状を起こしますので、この数日間水やりに気をつけていただきたいと思います。基本的には、乾けば水を与えるということの繰り返しです。そのくらいですか。

あと何か、皆さんの方からこれを知りたいということがあれば、ご質問に答えるという形にしたいと思いますけれども。

参加者 肥料は？

片山 いい質問ですね。肥料ですが、大体1週間から10日くらいするとだんだん

落ち着いてきますので、もし肥料を与えるのであれば、1週間から10日を目安にして与えるようにしてください。肥料の種類に関しましては、緩効性の化成肥料というのがありますので、それを適量与えるようにしてください。もしくは、希釈倍率よりもかなり薄目にした液肥であれば、毎日与えても構わないです。あまりチッソ分の肥料を多く与えますと、花が咲かずに葉がいっぱい繁ってしまいますので、リン酸とカリウムの多い肥料を与えてください。

参加者 お水はどの程度で。

片山 乾いたら与えるという程度で、表面が乾いて1日か2日たったくらいですね。毎日とは与えなくて構わないです。ただ気温にもよりますので、真夏であれば毎日くらい与えないとちょっと保たないかなと思います。基本的にプランターはプラスチックでできていますから、あんまり乾くということはないかもしれません。様子を見ながら、植物体がしおれているようであれば水を与えると。

参加者 植物の脱水症状という話がありましたけれども、先が悪くなっちゃうわけでしょう。そうしたらよく植木じゃなくてお花を生けたときに水切りというの水の中ですみますよね。あの形をやってはどうなんでしょうか。

片山 初めての質問で。確かになくはないでしょうけれども、

参加者 水の中に浸しておいて、切るんです。

片山 ただ生け花であれば、2ヶ月も3ヶ月も保つ訳じゃないですよ。1週間か10日ということですよ。それと同じ状態ですから、根はあるけれどもあってないような状態です。ですから、たとえそういう切り方をしても、植物体が長く生きるという意味での保たせ方ではないと思います。

賀来 根っこ全体で吸っていますからね、切り花の時の茎と違って。間に空気が入らないようにして水が上がるようにしますけれども、根っこは先端からだけ吸っている訳じゃないので。

参加者 その後は全然見には来てくだらないんですか。

賀来 それもいい質問ですね。(笑い)

参加者 水はともかく、花がら摘みはやらないとダメですよ。あんなに咲いているようだったら毎日でもやらないと。

片山 ペチュニアあたりは結構花がらも汚いですから、花が大きくて目立ちますので、取

った方がいいと思います。あと、梅雨時期どうしても花にカビが生えてきますから、カビを生やすと病気の原因になりますので。

参加者 つぼみがどんどん見えるところにあるくらいだから。花がらは摘まない。

片山 ただ花がらを摘まなくちゃいけないというのが負担になってくると、花を育てることも楽しくなくなってくるので、生活第一優先ということでそれほど神経質にならなくても、花は適応力がありますので。そういった部分で楽しんでやっていただきたいと思います。

沖田会長 気が向いたときやればいいって。

参加者 友達に言った話ですけれども、花がら摘みの話でね、バスを待っている間に道路のところに生えている植木の花がら摘みをやっていたんですって。そうしたらお店の前のおじさんが「だめだよ。花は取っちゃだめだよ。」と言ったので「花がら摘みやっているんです」「花がら摘み？」「花がらは取らないと良く咲かないんです」「すみません」ということになったんです。

参加者 Tさんのところに植えたものは、11種類なんですよ。よく花が咲くインパチェンスなんかは別として、花を楽しむというよりも葉っぱを楽しむものが多いですよ。そういうものも同じように栄養をやっていいんですか。

片山 基本的には肥料を与えると生長が良くなりますけれども、宿根草に関しましては、定期的に肥料を与えなくても、土の力で株が充実してくれば、それほど肥料を必要としませんので、1ヶ月に1ぺんとかそういうふうに定期的にやらなくても構わないです。1年草に関しても、どうしても北海道あたりは別にして梅雨というのがありますので、そういう環境の条件が悪くなってくると、どうしても急速に花は傷んでいきますので、だいたい1年草は2ヶ月から3ヶ月楽しんだらだいたい株が傷んでくるかなあと、そういう考え方をすれば、あえて肥料とかを定期的に与えなくても十分生長はします。

宿根草に関しては、あまり肥料を与えなくても十分花は咲きますので、もし肥料を与えるとすれば、冬、植物が休眠しているときに寒肥（かんごえ）といって冬に肥料をやるんですけれども、そういう形で肥料を与えれば、もしくは堆肥ですとか腐葉土を表面に、要するに山と同じで上から落ち葉が降ってくるというような状態で土を充実させるとか、土をつくっていく方が肥料よりも地力？という方が非常に重要ですから、土の力をつけるということが。

沖田会長 今回は十分にいい土を入れていますので。肥料も含めてやっていますから。ほとんどほったらかしで大丈夫ですよ。

参加者 赤玉土と四分六くらいで入れるんですか。

片山 今回、土について何にも触れずにそのまま進んでしまったんですけれども、今回使った土はですね、草花用の培養土が割合で6、完熟腐葉土が3、完熟牛糞堆肥が1という割合です。草花用の培養土は、そのまま使っても構わないんですけれども、有機質がちょっと少ないんですよ。ですから、わたしはいつも腐葉土もしくは牛糞堆肥を混ぜるようにしています。使う場合は、完熟のものを使用してください。完熟していないものを使うとその場で発酵が始まりますので、熱を持って根が傷んできます。

沖田会長 市販されているもので、完熟じゃないものもあるんですか。

片山 あります。

沖田会長 では、指定しなくちゃダメですね。

片山 そうですね。値段と比例する訳じゃないん

ですけれども、安かろう悪かろうというのは多いですね。やっぱり安い腐葉土というのは、腐食していないもの、枝が多かったりとか、落ち葉も原型のまま残っていたりとかが多いですから。一番いいのは、粉状になっているくらいの腐葉土ですね。昔はふるいを通して選別していましたが、今はあまりそういうものがあまり売っていませんので、もし行かれる場合はご自分でふるいを通してやってみても。



沖田会長 うちの町会は、ちゃんとふるいがありますからね。言っていたら、いつでもお貸ししますから。

参加者 最近よく乾燥剤に石灰使ってるじゃないですか。のりだとかなんかを買うと、石灰のつく？乾燥剤。あれの後ろを見ると、よく「肥料としてお使いください」って書いてあるんですよ。紙に入ってそれを破って使うんですけれども、書いてるのと書いていないのがあるんですけれども、植物の肥料としてお使いください、と。チッ素とリンとカリでしょ。石灰って。

片山 石灰は、全然関係ないですね。

参加者 中和ですか。そういう話も聞いたことがあるんですよ。土の改善にということ。本当に使っていいのかなと、いつも貯めてあるんだけど。なかなか溶けないですよ、土にまいても。

賀来 アルカリ性に強い植物だとか、土を改良するために使ったりするんですけど。

参加者 その袋には、石灰ですから水分なんかがあると熱を持つことがあるって書いてあるんです。それで平気なのかなあって。植物の植えてあるものにはちょっとかけられないですよ。寝かしておいて、ということでしょうね。わかりました。

賀来 反対に、良くあるのは建物の脇にくっつけて植栽がありますが、良くないですよ。コンクリートは石灰石ですから。

参加者 酸性ですもんね。

沖田会長 あと何かありますか。

賀来 今回コーヒー袋を用意していただいてああいう形にしますと、白いプランターとも雰囲気の違いがありますよね。それから鉢も割れやすい鉢なんですけど、統一してみると全然雰囲気が違いますし、そういう小物とかですね、組み合わせていただくとその場の雰囲気が変わってくると思います。

沖田会長 自分たちが一番変わったから。

参加者 そうですよ。

参加者 料亭だって。

参加者 散歩から帰って「ありゃ」なんて見てて・・・

参加者 今日は、初め先生から「愛情込めて植えましょう」って言われて、今まで無造作に植えてたんですね。ポンと。

片山 植物体を見てわかるように、あの程度の大きさなので葉っぱ1枚というのが非常に重要なんですね。葉は光合成をして体を作っていくものですから、1枚欠けるごとに力がだんだん弱ってきますので。

参加者 今日植えたのは、花が咲いているものもあったんですけども、季節の移り変わりとしてはどうなんでしょうか。全体的には。

片山 全体的な季節の移り変わり。プランターに植えてあるものは、マリーゴールドも基本的には秋まで咲くものです。夏場に極端な乾燥とか、梅雨時に極端な多湿だとか、そうじゃなくても水やりで極端に乾いたり湿ったりを繰り返すと、どんな植物もそうですけれども、弱って寿命がすごく短くなりますけれども、基本的には秋まで咲きます。

インパチェンスも秋まで咲きますし、ペチュニアも基本的には秋まで保つんですけど

れども、どうしても夏、梅雨になってくると傷んでいきますので、そういう場合は切り戻しといって、植物体を半分くらい切って、植物体を小さくして夏を越させると秋まで。宿根草に関しては、今咲いているものは本来の時期でいう今咲くものですから、また来年もだいたい同じ時期に咲きます。

参加者 白いマリーゴールドはふえますか。

片山 種は、取れないです。

参加者 どうしてですか。あれはもう今年見ておしまい？

片山 取れないですというのは、あれと同じものを望むのであれば取れないですという意味なんです。F1ですから基本的に雑種ですので、種を取ると色々な子どもができます。

参加者 何が出てくるかわからないんですか。

片山 色は、あの色にはならないです。もちろんあの色になるものもありますけど、ならないものもあります。

参加者 あれは人工的に？

片山 そうです。人工的というか、きちんと系統だった両親がいる訳ですけども、その組み合わせでないとあれが出てこないんです。

沖田会長 白いマリーゴールドが終わったら、何かほかのものと植え替えなきゃいけないわけですね。

片山 そうですね。秋までもったとしたら。だいたいそれくらいの時期まで普通であればもつはずです。挿し芽でも……。基本的にクローンですから。

沖田会長 枯れる前に冷蔵庫に冷凍して保存して……

片山 ダメかなー。(笑)

参加者 挿し芽だと、新芽とかがいいんですか？

片山 新芽だとちょっと柔らかすぎるので、新芽よりちょっと充実したくらいなんですけれども。枝の熟度というのはすごく難しくて、慣れてくると大体このくらいだったら発根するだろうというのはわかるんですけども。

参加者 よくバラって色が違うじゃないですか。挿し芽をしているんだけど、同じ条件でつくやつとつかないやつがあるんだけど。

片山 基本的に枝が古くなってくると、発根しにくくなります。若すぎるとまた発根しないんですけれども、・・・・。

沖田会長 あと、何かないですか、維持していくために。もう来られそうもないので、忙しい方だから。

参加者 そんなに日が当たっていないじゃないですか。あれで平気なんですか。

片山 植物は、一日中光を必要としないんです。とにかく午前中の光が重要で、午前中2時間3時間当たるか当たらないかで植物の生長が決まってきます。基本的には日陰に耐えるようなものを多く入れていきますので、そういう植物を多く使うと多少日の弱いところでも育つ、と。むしろ強い光のところに出すとあまり生長が良くないという状態になります。

参加者 直接当たるということが大事なのですか。それとも間接的でも？

片山 直接当たる方がいいですね、間接よりも。

参加者 半日陰って言うけれど、半日陰っていうのはどういうこと？



片山 だいたい木漏れ日程度。例えばガラス越しに部屋に植物を置いたりしますよね。あれは人間の目から見ると、すごく日が当たっているなと感じますけれども、植物にとってはだいたい半日陰くらいです。ガラス1枚通す通さないで、光の強さというのは変わって来ますので。とにかく日陰の植物でも、春に当たる光は非常に重要、真夏の光が一番植物を傷める訳であって、ギボウシだとかシダ類などは全部日陰に置きましょうという話がありますけれども、4月5月の光というのは非常に重要。これはもう直射が当たらないと葉の色もきれいに出来ませんので、芽が出るときからずっと弱い光だと、モヤシみたいにひょろひょろとなってしまいます。

参加者 今日植えたようなものは、虫はつかないのですか。

片山 虫はどんな植物でもつきますけれども、今回植えたので特に甚大な被害になるものはないですね。ペチュニアが蒸れたり雨が当たったりとか乾燥すると葉ダニですね。

参加者 Hさんのところは日が当たるの？

参加者 あそこ建物がないでしょ、だから日差しが当たるの。でも今日美しい花を置かせていただいて、皆さんに「あー、きれいなね」って言われるの。うれしいけれど、守って行かなければならない。

参加者 今までと、通る方も目が違うと思います。きれいな花があるわよって。

沖田会長 それを理由に町会の仕事さばらないように。

参加者 会長さん、こきつかうんですよ。

参加者 がんばって手入れするよりほかありませんね。

参加者 今日のことじゃなくてもいいですか。先ほど窓越しで50%というお話がありましたけど、コチョウランなんかでよく真夏とかそういうときは日陰にきなさいというので、日陰ネットというのがありますよね、遮光ネットかな、40%50%とか。窓越しで薄いカーテンがあれば、それで大丈夫なんですか。真夏とかそういう、木漏れ日程度というような言い方をしますけれども。

片山 そうですね。だいたい70%くらい遮光したほうがいいと思いますね。

参加者 日が当たるとやけちゃうんですよ。今時だとフルに当てても平気なんですか。

片山 今は大丈夫です。

参加者 家で毎年花を咲かせているんですけども、家の中だと花がだんだん小さくなってきました・・・

片山 基本的に部屋の中でできる植物は徒長しているんですね。モヤシみたいに。なぜかというと風の流れがなくて、植物が弱くなってくるんですね。植物というのは接触刺激といいますかね、人に触られるとか風が常に当たっていると、体が締まってくるんですね。

断崖絶壁に生えている松は背が非常に小さいですけども、あれは強い風が当たっていますので、接触刺激によって生長が遅くなっているんですね。半分止まっているような状態。ですから部屋の中で植物を育てると、どうしても上に上に伸びてひょろっとしてくるんですね。風に当てるということは、そういう意味で非常に重要です。ですから1週間に1ぺんくらいは観葉植物でもですね、外に出して管理するというのが重要です。

参加者 声をかけたり、「きれいな」とかって。音楽をかけたりとかありますよね。

片山 どうでしょうね。確かかどうか、そういうことを実験して。人にもよるんじゃないですかね。(笑い)

沖田会長 クラシックとジャズと演歌と実験してみればいい。

参加者 モーツァルトがいいわね。

沖田会長 落ち着くのは何日頃ですかね。

片山 根がだいたい、植物体自体が環境に慣れてくるには1週間か10日すれば慣れてきます。生長が始まるのは2週間を目安にしてください。



沖田会長 2週間枯らさないで。

片山 これから温度が上がってきますから、生長も早いとは思いますが。

賀来 花を納品してきたトレーに麻袋をかぶせて作ったプランターは、乾きやすいと思いますね。

沖田会長 じゃあ、Yさんのところだけちょっと気をつけて。

参加者 でもあの場所いいですね。あそこに合っていますね。石を重ねてね。

沖田会長 あれ1個831円だったの。あの御影石。

参加者 2段重なって?

沖田会長 1枚。ご要望あれば1600円でお譲りします。

参加者 あの丸太ん棒が、杭でね。杭の先がとがっているのをドイツで切ってもらってね。面取りしてもらって。

参加者 大勢でもって花をいじるのって楽しいですね。

沖田会長 結構乱暴な人がいるので、優しくお願いします。

参加者 水やりなんかはまわりからあげた方がいいんですかね。花にかからないように。

片山 花にかけると花が傷んでいきますから。基本的には、根っこの方に。

参加者 葉っぱとかにはある程度かけた方がいいんですか。

片山 ほこりとか汚れが付きますから、基本的には葉にはかけた方がいいと・・・・・・。
あと乾燥するとどうしても葉ダニとか虫がつきますから。

賀来 花に水をやるじょうろがありますね。あの先を普通とは反対向き（穴を下向き）にして水をかけるといいんです。あんまり葉っぱとか花にかけるとストレスになりますので。

参加者 大きな葉っぱとかはたしかにほこりが付くから水をかけるのは必要だと思うんですけども、あれ、拭いたらどうなんですか？

賀来 拭いてもいいですよ。

参加者 ジャーっとかけたら葉の付け根の間に入っちゃうのは？



賀来 良くないです。植物って意外とよくできていて、葉っぱがこうなっているじゃないですかオモトとか。ああいうのは要するに、オモトってほとんど軽石で植えますよね。ということは水がない（所な）はずなんですよ。本当は。逆にいうと葉っぱがこうなっているというのは、夜露がたまって水を補給できる。あんまり上からじゃあじゃあかけるとストレスになるんです。

参加者 今、桜草？は皆さんとっくに咲いているけれど、うちのはやっとなつぼみが出てきて。早い遅いは、直射日光を当てないようにしていたんだけど、それをやりすぎて遅いのかなと思って。

片山 温度も関係しますし、水も関係しますよね。水が少ないと基本的に生長、花のつき、生長も遅いですし、それだけ伸びないです。あと温度もありますね。温度が低いと生長が遅いからです。

司会 それではそろそろ予定の５時になりましたので、本当に皆さん、片山先生と賀来先生も本当にありがとうございました。（拍手）

それと地元の皆さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。これから我々が「よろしくお願いします」というお願いをしている立場でして、大変かもし

れませんけれども、花を面倒みてあげてください。お願いします。

こういうワークショップは多分日本初かと思いますので、HPでどんどんアップしていていますので、HPの方ももし見る機会があれば、ご覧ください。わたしの顔は載せないでという方がいらっしゃったら、ぜひお知らせください。では、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。(拍手)



参加者

上十条一丁目町会

10 名 (路地協会員 1 名 : 沖田)

十條あすみの会

4 名 (町会除く : 宇田川、佐久間、路地協会員 2 名 : 荒木、高尾)

路地協会員

3 名 (上記を除く : 今井、大熊、大和田)

(財)北区まちづくり公社

2 名 (寺田、富永)

北区役所

4 名 (まちづくり部長 : 萩原、まちづくり部参事 : 佐藤、環境課 : 星野、向井)

講師

2 名 ((株)グリーンダイナミクス : 賀来、片山)

路地協事務局

1 名 (木村)

Ⅲ 路地園芸トライアルのまとめ

1 トライアルの従前従後

1) 基本的な修景の方向について

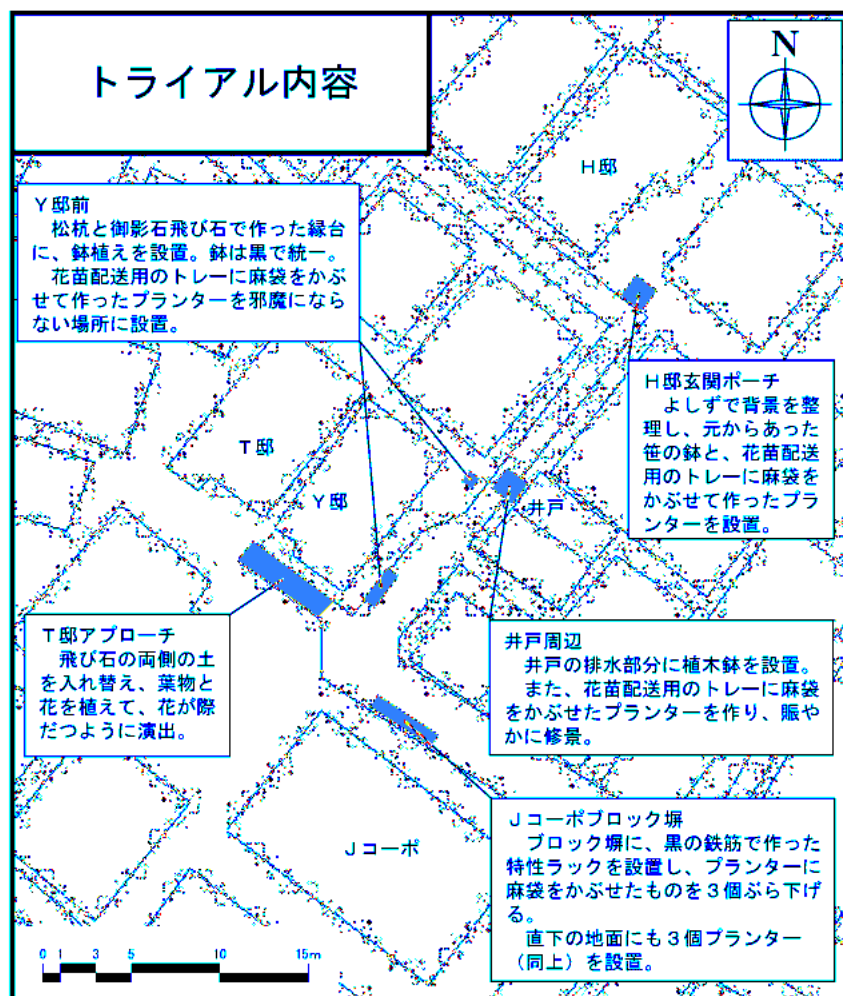
第2回ワークショップ終了後、ワークショップにおいてで体験を踏まえて、実践トライアルにおいてどのような修景を行うか、講師、事務局、十條あすみの会主要メンバー及び公社スタッフで協議した。

修景の方向性としては、以下のことがあげられた。

- 景観上好ましくないものを園芸によって修景する
Jコーポブロック塀、井戸周辺
- アイスストップとなる部分を修景する
井戸周辺、H邸前
- 景観を整理する
井戸周辺、H邸前
- 今の景観を活かす・レベルアップする
Y邸前・T邸アプローチ

参加者

上十条一丁目西町会 : 沖田会長
十條あすみの会 : 佐久間、高尾
グリーンダイナミクス : 賀来、片山
公社 : 富永
事務局・都市計画同人 : 木村、海老原（敬称略・順不同）



2) 従前従後

J コーポブロック塀

現況

J コーポブロック塀は、ブロック塀の修景を目標としたが、下記のような問題点が考えられた。

- 塀につり下げの方法は地震などに際して塀が倒壊するのではないかと。
- アパートの引越やその他工事車両等、車両がブロック塀の途中まで侵入してくる。
- ブロック塀の路地の奥側に、電柱が立っていることと、塀の裏側に物置があり、塀に何らかのものを取り付けの場合、若干入口側に寄せなくてはならない。

修景の方向

ブロック塀に特注ラックを設置し、プランターや鉢を置く。

- 塀につり下げるラックを町内の鉄工所に依頼し、特注で作る。ラックに、プランターをぶら下げるハンガーをかけ、そこにプランターを設置する。

ラックは転倒しないように、電柱の幅と同じ長さで足を出し、塀によりかける。

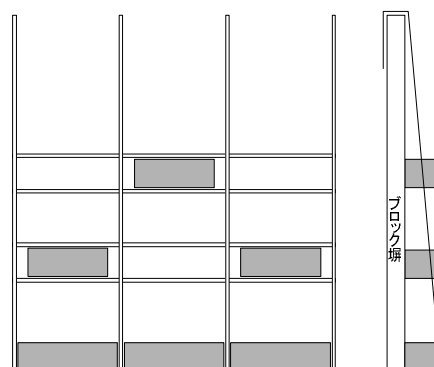
- プランターは白色ではないもの、できればテラコッタ製のものが良いが、重量と価格の面から白色のものにコーヒーマグの麻袋を巻き付ける。
- プランターは、3台ぶら下げ、地面にも3台置く。

修景の実践

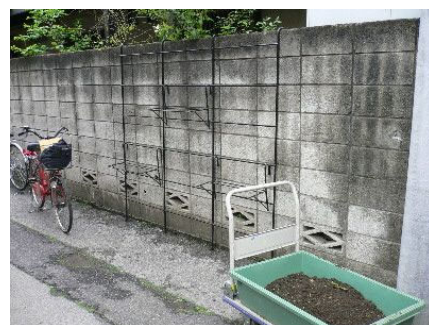
- 特注ラックは鉄筋で作成し、足を出すものではなく、地中に埋めて安定性を高めた。
- プランターは白色（北区十条まちづくり担当課提供）のものに、コーヒーマグ専門店より無償提供を受けた麻袋で装飾した。麻袋は端部を花の形に折っている。
- ラックの黒とプランターの麻袋が目立たないため、葉の緑と花の色を引き立てている。



ブロック塀従前



ラックのイメージ図



鉄筋で作ったラックを設置



プランターに麻袋を巻く



ラックにプランターを設置



T邸アプローチ

現況

幅員 0.8mほどの玄関アプローチに敷石が並べあり、その敷石の両側に桜草などが植えてあり、現況においても美しいアプローチとなっている。

しかし、土がやせていることに加え、その下部は石炭ガラとなっていることから、その改善が求められる。

修景の方向

- 土を 10 cm程度入れ替えて、土壌改良する。
- 葉ものと花ものを組み合わせて、より豊かなアプローチとする。

修景の実践

- 土を 10 cm程度除去し、新たに培養土が6、完熟腐葉土が3、完熟牛糞堆肥が1で混ぜた土を入れる。(他の鉢やプランターも同じ)
- タイム等の地被植物を植え、葉物を加えることにより、豊かさを演出できたとともに、葉の緑が花の色を引き立てている。



従前



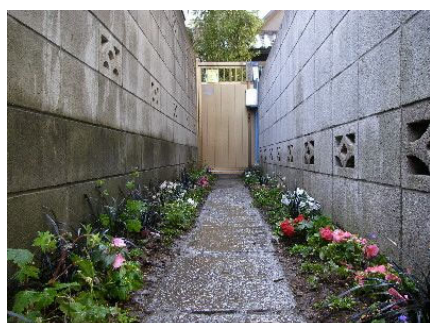
土を入れ替え



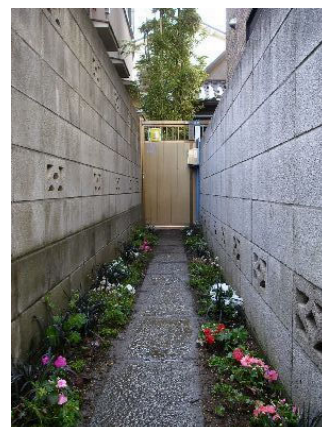
植物を仮置き



一斉に花植え



完成



Y邸前

現況

大理石様のブロック2段積みの上に黒いフェンスが設置されており、シックな雰囲気を形成している。2項道路は後退済み。すっきりしているがうるおいがない。

修景の方向

T邸と井戸をつなぐポイントをつくる

- 2段積みのブロック部分に収まるように、門扉を挟んで2箇所到低い縁台を置いて、その上に鉢を並べ、フェンスの冷たい表情を緩和する。
- 縁台はフェンスに併せて黒とし、足は石などを使って大理石様のブロックに併せる。
- 鉢(陶器、磁器、素焼き等)に花を植える。鉢カバーをつくる。鉢は統一する。

修景の実践

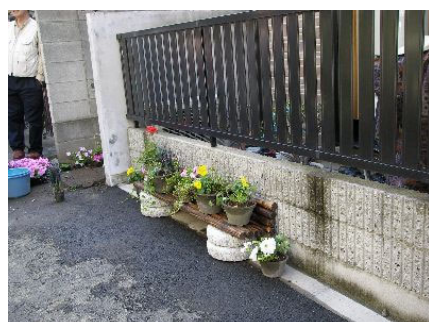
- 路地の奥側の縁台は、居住者が自転車等を置くことがあり取りやめ、足の石は2段重ねとし、縁台の板は1枚は背板として活用した。
- 縁台の板は焼き杉杭の先端をカットして4本を束ねたものの。カットした先端部分は、焼いて色調を整えた。足の石は庭の飛び石用の丸井大理石を用いた。
- 鉢は色を黒で統一したが、大きさは植える花に併せて統一はあえて避けた。一部、輸送時に欠けた鉢があったが、垂れ下がる葉ものを植えて活用した。
- 奥側の縁台が設置できなかったが、一番奥に花輸送用のトレーに麻袋を巻き付けたプランターを作成し、置いた。



従前



縁台を2台設置したところ



実際の設置状況、縁台の板1枚は背板に、足は2段に



麻袋で自家製プランターを作成、左上にある黒いトレーが原型

自家製プランターに花を植え付ける



実際の設置状況、最奥部に自家製プランターを設置

井戸周り

現況

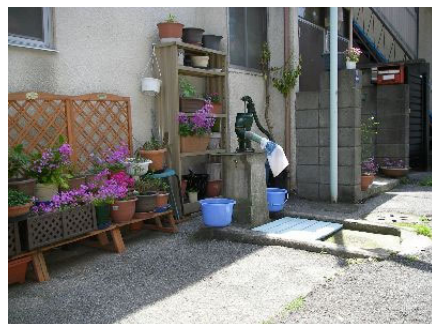
通行人の視線を集めるポイントである。視察時点からはかなり整理され花も咲いているが、まだ、空の鉢や園芸の道具が置かれていて煩雑なイメージ。

修景の方向

- 井戸の横にポイントになるよう大きめの鉢を配置。
- 建物の棚に園芸を楽しんでいる感じを小物で表現。

修景の実践

- 井戸の脇に大きめの鉢(ナスタチウム)を置くとともに、苗の入っていたトレーで作ったプランターも配置。(その後地元住民により一部鉢を入れ替え)
- 建物の棚については、プライベートな部分なので今回は手を加えない。(今後の展開に期待)



従前



従後

←ワークショップ終了後
現在→



H邸前

現況

路地の突き当たりであり、アイストップとなる重要な位置を占めているが、色々な植物や生活用品が置かれ若干乱雑な景観となっている。

修景の方向

- すだれなどでプライベートな部分と緑をみせる部分を隔てる。
- 現在、葉物だけであるが色のある植物を配置する

修景の実践

- よしずを立ててプライベートの部分を隠す。
- よしずの手前に緑の笹(既存)と、色が際立つ花もの(新規)を置いた。



←
従前



従後
↑

2 路地園芸トライアルのまとめ

今回のトライアルを終えて、以下のような成果と課題を得た。

1) 成果

- まちづくりに関心の少ない住民のまちづくり活動への参加の契機
一般的にまちづくりに関心を持っている住民は少ない。今回、園芸を切り口として、まちづくり活動や日常的な町会活動に参加する機会が少ない住民が、まちづくり活動のフィールドに参加する契機を提供できたと考える。
- 異分野交流
前項に関連しているが、まちづくりと異分野の専門家とのタイアップによるまちづくり活動へのアプローチ方法を提供できたと考える。
- 身近な修景方策のプレゼンテーション
今回のトライアルは、大きな予算をかけずに実施しているとともに、身近な材料を活用して修景を行っている。参加した住民からも、こんなにきれいになるとは思わなかったという感想が聞かれるとともに、取りかかる人からきれいになったねと声をかけられるそうである。
- まちの視点からの園芸
園芸を個人の楽しみとして行っている住民は多い。しかし、今回まちからの視点に立って園芸を行った。その結果、通りかかった住民からきれいだと評価されたと、参加した住民から謝辞をいただいた。
- 園芸に関する技術・知識の普及
路地園芸探検の結果からも園芸を行っている住民は非常に多いが、これらの住民は独学で行っている場合が多いと考えられる。今回のワークショップで、土の配合や太陽光の当て方、植え方など様々な園芸に関する講義あるいは質疑応答が行われた。園芸に関する技術や知識に対して、住民にニーズがあることが確認されたとともに、今回のワークショップで参加者に対して技術や知識の向上が図られたと考える。
- 園芸のネットワークの形成の土壌づくり
路地園芸探検により、同じ町内会でどのような園芸がされているかが、一部ではあるが参加者に認識された。町会では、町内の路地園芸マップの作成を模索するに至っている。こういった取り組みを機会に、住民相互の園芸に関するネットワークの形成が期待できる。

2) 残された課題

- 2 項道路及び道路占有
今回の路地園芸トライアルは、2 項道路の問題や道路占有の問題を棚上げして行った。実際に路地園芸を実践した路地も 2 項道路であり、Y 邸前は 2 項道路後退した部分に縁台を設置している。今回の配慮点としては、道路上に設置するものは、簡単に移動可能なものとして行った。
- 日常の園芸活動への対応
今回の花の種類の選定は専門家にゆだねた。このため、一般的に知られていない種類や、似通った名前の花など、参加者もわからなくなっているものも多い。このため、通りがかった住民に説明が難しかったり、参加者の日常のメンテナンスなどにおいて難しい部分がある。もう少し、身近な花などで行ったほうが、解りやすかった部分もある。

○ 四季の都市景観の演出

今回使用した花の種類は、植え替えなどの手間の少ない秋頃まで咲く花となっている。これに加えて、四季の花のアレンジや展示位置のローテーションなどを提示できると、四季折々に多彩な表情を見せる都市景観の演出を提示できたと思う。

3 終わりに

まちづくりの分野と園芸の分野の専門家とのコラボレーションによる、まちづくりへのアプローチを試行した。従来、まちづくりという場に参加しない住民の参加が見られたことから、一定の成果があったと考える。今回は、従来からまちづくりに理解のある上十条一丁目西町会で行ったが、まちづくりの土壤がない地域においての地元に入っていく一つの切り口を提示できたと思う。

ワークショップの実施においては、地元の十条一丁目西町会及び十條あすみの会の皆さんの積極的な参加がなくては実現しなかった。地元の皆さんのご協力とご理解に深く感謝します。

また、株式会社グリーンダイナミクスの賀来宏和代表取締役及び片山陽介氏には、大変忙しい時期に講師をお引き受けいただくだけでなく、様々なノウハウの提供とともに、土づくりなどに一緒に参加していただき、大変感謝しています。

最後になったが、今回のトライアルを実施する上で、活動費を助成していただいた（財）都市化研究公室に感謝するとともに、北区環境課には当初予定より多くの花苗などを供給していただき感謝します。

資料編

上十条一丁目西町会

路地園芸トライアル

～上一西の路地を花や緑でいっぱいになろう～

江戸のまちは世界一の園芸都市だった。

みんなの大切な生活空間である路地の園芸を見直して、
自慢できる上一西の街並み景観を創りませんか。

園芸の専門家とまちづくりの専門家が、
皆さんの魅力ある路地づくりをお手伝いします。

第1回ワークショップ

「江戸の園芸を知る」

日 時：平成18年2月21日(火) 13:30～16:00

会 場：上十条一丁目西町会会館2階

参加費：無 料

講 師：賀来宏和（かくひろかず）

都市環境プロデューサー

株式会社 グリーンダイナミクス代表取締役

英国王立園芸協会日本支部理事



ビデオ上映 「大江戸花暦」(浜名湖花博) 20分

講 演 「世界一の江戸園芸」 90分

- ・100年ぶりに訪れたガーデニングブーム
- ・世界を凌駕した江戸園芸
- ・江戸園芸の特徴
- ・将軍から庶民への300年
- ・外国人が驚嘆した江戸の町と人



主 催：上十条一丁目西町会、全国路地のまち連絡協議会

後 援：(財)北区まちづくり公社、十條あすみの会 / (財)都市化研究公室補助事業

連絡先：上十条一丁目西町会会長 沖田光泰（電話：3908-2714）

葵三代の園芸



東照大権現像 天海賛写
久能山東照宮博物館蔵

初代 徳川家康

(将軍在位1603~1605)

若い頃から薬草等の植物に詳しく、駿河を平定した後、駿府に薬草園を設置したと伝えられる。

江戸に幕府を開いた後も、元駿河国丸子の小野寺の別当芥川正知に命じて、江戸城二の丸に花畑を設置し、芥川氏に接木屋敷を与えて、花畑の預職としたと古書にある。

また、儒官である林 羅山から、中国の薬学書である「本草綱目」を献上され、自身で研究し、薬草の調合なども自身で行っていたと伝えられる。

大御所時代の慶長一四年(1609)には、琉球を征服した薩摩の領主島津家久が御礼として「佛桑花(ハイビスカス)」、「茉莉花」(ジャスミン)を献上したとの一事は、各大名が、珍花・名花を献上したであろう事を代表している。



徳川秀忠公画像
松平西福寺蔵

二代 徳川秀忠

(将軍在位1605~1623)

二代秀忠も、父に似て無類の花好きであり、「武家深秘録」(1615)に「徳川二代将軍花癖あり、名花を諸国に徴し、後園に植えたる中に、広島椿という飛入(斑模様入り)の珍花を献じたる者あり」と記録されている程であった。

また、この時代に固定した参勤交代が、各大名が自分の領地から江戸に、珍花・奇木を運んで江戸屋敷に植えたり、献上したりする風潮を生じ、後に江戸が園芸の中心地となる素地を育んだのではないかと思われる。また、秀忠の五女和子が入内した後水尾天皇は非常に椿を好み、将軍の趣味と重なることにより、椿に対する世の関心は、永い文化的伝統をもつ京都を中心に非常に高まり、世に言う「寛永の椿」の時代を現出した。「百椿集」、「百椿図」などの作

品が二りきと云えてゐる。



八坂書房「プラントハンター物語」より
奈良 長谷寺蔵

三代 徳川家光

(将軍在位1623~1651)

三代家光も父祖の好尚を受け、とりわけ盆栽(当時は盆山・鉢木と言われていたと伝えられる。)に執心したと伝えられる。その様子は、ご意見番大久保彦左衛門が、家光愛用の盆栽を庭に投げつけて諫めたことと伝えられる故事からもうかがえる。

この時代には、家康以来の薬草園の整備も進み、寛永一五年(1638)に江戸城の南北に、品川(麻布御薬園)、牛込(大塚御薬園)の両薬園を開設した。この両薬園が貞享元年(1684)に小石川薬園として統合され、享保年間に八代吉宗がさらに拡充するなかで、享保六年(1721)に小石川養生所が設置され、享保一〇年(1735)には、青木昆陽が甘藷(さつまいも)の栽培を開始するなどの活動のすえ、現在は東京大学付属小石川植物園となっている。

1700		1680		1660		1640		1620		1800		西暦								
元 禄		貞享	天和	延 宝		寛 文		万治	明歴	承応	慶安	正保	寛 永		元 和		慶 長		年号	
綱 吉			家 綱						家 光						秀 忠			家 康		將軍
生類憐れみの令			由井正雪の乱						島原の乱						大阪の陣			関ヶ原の合戦 家康征夷大將軍となる		摘 要
正徳の菊			元禄の躑躅						寛永の椿											

1800		1780		1760		1740		1720		1700		西暦					
寛政		天明	安永	明和	宝暦	宝暦	寛延	延享	寛保	元文	享保		正徳	宝永	元禄	年号	
家 斉		家 治			家 重			吉 宗					家 継	家 宣	綱 吉	將軍	
寛政の改革		天明の飢饉						享保の飢饉					享保の改革はじまる		正徳の治		摘 要
寛政の橘								享保の楓							正徳の菊		

1880		元 治		1860 万 延		1840		1820		1800		西暦		
		慶 応	文 久	安 政	嘉 永	弘 化	天 保		文 政	文 化		享和	年号	
慶 喜		家 茂		家 定	家 應		家 斉						將軍	
		大政奉還		日米修好通商条約 安政の大獄		天保の改革		大塩平八郎の乱		異国船打払令		フェートン号事件		摘 要
												寛政の橘		
庶民文化としての園芸の円熟(化政文化)														

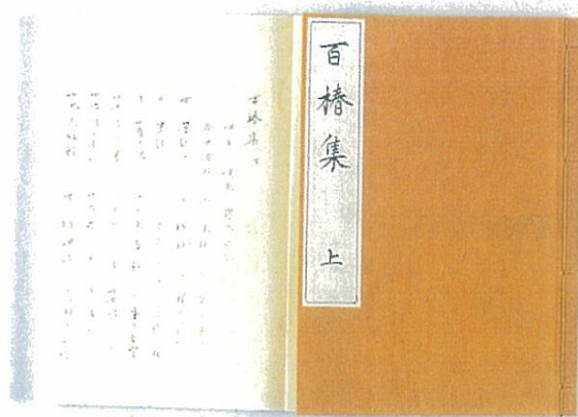
寛永の椿

ツバキは、日本書紀や万葉集の昔から日本人に親しまれた日本固有の花で、「椿」という文字が初めて使用されたのは万葉集です。飛鳥時代には海石榴市（つばき）という地名もあります。

ツバキが江戸初期の園芸ブームのさきがけとなったのは、豊臣秀吉がツバキを好み、伏見城にたくさん植えたとか、茶道の祖千利休が炬の花として多用した（京都西方寺に利休ゆかりのツバキがある）からとも言えますが、正確なところは、二代將軍秀忠にあるようです。『武家深秘録』の中に、「將軍秀忠花癖あり。…中略…此頃より山茶（ツバキ）流行し、数多の珍種いず」とあり、当時の江戸城では多くのツバキが植えられていたことが、『江戸城図屏風』（国立歴史民俗博物館蔵）から推察されます。

秀忠の娘和子が入内した後水尾天皇もツバキを愛したよう、京と江戸という当時の日本の二大都市でツバキが流行したようです。

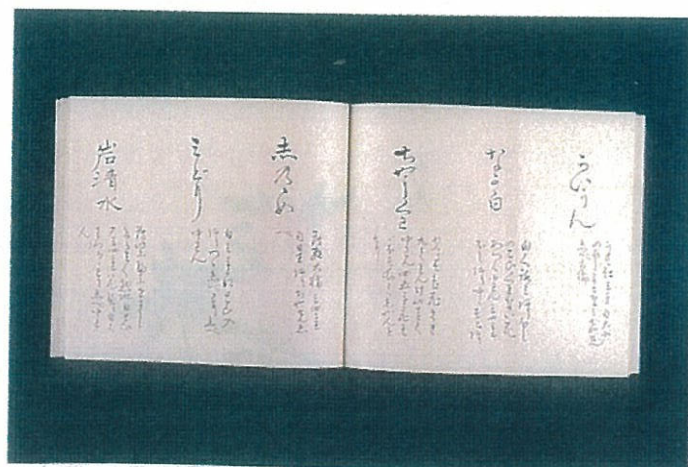
当時のツバキには、今日我々が見ることのできるほとんどの花形、花色が存在し、品種の発達は驚くべきものでありました。



百椿集写本 上巻（表紙）下巻初丁見開き
雑花園文庫蔵



「椿の絵」池田端月画 上 大腰蓑・住吉霞 下 楊貴妃・薄雲
東京都立中央図書館加賀文庫蔵



椿花形附覚帳（見開き）
雑花園文庫蔵

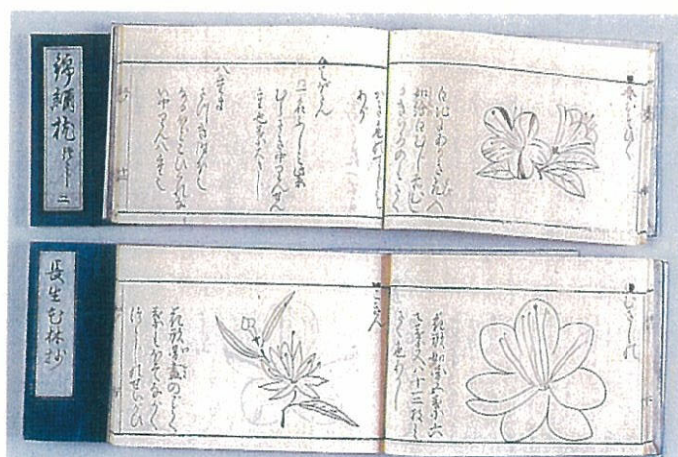


元禄の躑躅

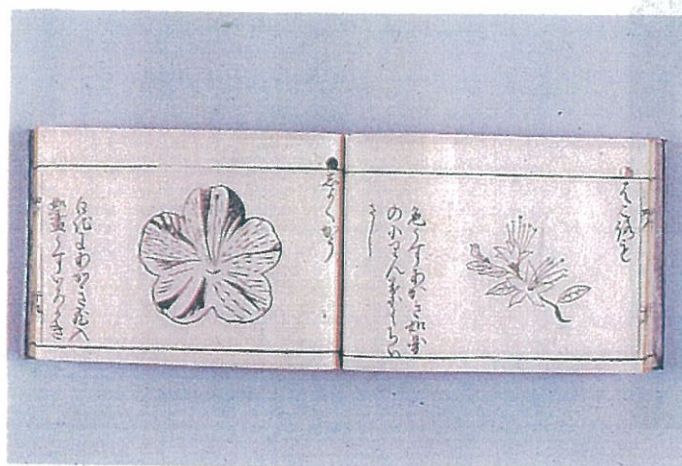
ツツジは、現在でも庭木として親しまれている日本原産の低木です。なかでも、「霧島ツツジ」の名称は今でもよく聞く名称です。「霧島ツツジ」の由来は、もちろん鹿児島県の霧島山原産ということに由来していますが、現代に残るほど世に広まった理由は、のちに江戸随一の植木屋といわれる「霧島屋」がツツジの流布に力があつたからだと思います。

「霧島ツツジ」のものは、伊勢藤堂家（今の三重県の大名が秘蔵の「面向」、「無三」、「唐松」の三種類と言われています。藤堂家は染井に下屋敷を持っており、「霧島屋」の三代目伊藤伊兵衛三之丞（霧島屋伊藤家は代々伊兵衛を名乗った。）は三代目藩主の藤堂高久に仕えていました。伊藤三之丞が、その三種類を接木や挿し木で増やし広めたことや、ツツジ自体が育てやすく増やしやすことから、ツツジのブームが生まれた理由だと思われています。

「霧島屋」が隆盛を極めた頃、自宅の庭を浮世絵師近藤助五郎に描かせた絵図『武江染井翻紅軒霧島之図』には「きり嶋古木三木」として、先の三種の親木が描かれています。伊藤三之丞が著した『錦繡枕』（元禄五年刊1692）には、実に三三五種のツツジとサツキが記録されています。もとの三種から考えると、当時のツツジの種類と豊富さと流行ぶりがしのべれます。



上 錦繡枕・下 長生花林抄
雑花園文庫蔵



長生花林抄巻四（見開き）
雑花園文庫蔵



阜月図譜（人丸の図）
雑花園文庫蔵

正徳の菊

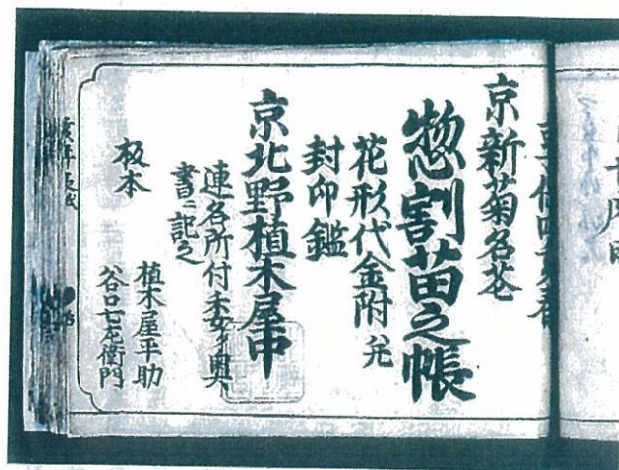
キクは、奈良時代にはすでに中国から渡来していたと思われています。平安時代には、九月九日の重陽の節句に、前日から菊の花に真綿を被せ、露のついた綿で翌朝体を拭って長寿を願う「菊の被綿」という行事が行われました。それほど昔から貴族や高僧などに親しまれていた菊が、庶民の楽しみとなって、爆発的な人気を博したのは江戸時代中期の正徳年間（1711～1716）です。この時代は、江戸初期からの品種改良技術の向上や、栽培技術の向上もあって、さまざまな種類の菊が栽培されました。「花壇地錦抄」（1695）と「増補地錦抄」（1710）には計三一九種類が紹介されています。

このような状況を背景に、京都を中心に菊の品種を競う「菊合わせ」が流行しました。「菊作り汝は菊の奴かな」という蕪村の句に、菊の栽培に狂奔した当時の人々の模様が察せられます。忠臣蔵の赤穂浪士の一人武林唯七作と伝えられる「菊の画譜」という卷子本も有り、五一種類の菊が描かれています。

菊の新芽一本が何両もしたという逸話は、江戸の園芸が咲き誇り、植物が投機の対象となった化政時代の先触れとも言える時期ではないでしょうか。



菊ノ画譜 伝 武林唯七（赤穂浪士の一人）元禄3年画
雑花園文庫蔵



京新菊名花惣割苗之帳 享保4年春
京都北野植木屋連中によるキクの苗カタログ
雑花園文庫蔵

享保の楓

享保年間（1716～1736）は、有名な八代將軍吉宗の時代で、世に享保の改革といわれる江戸時代のひとつのターニングポイントとなった時代です。この時代の流行したのは、それまでに流行した、ツバキ・ツツジ・キクと違い、花の咲く植物でなく、紅葉を楽しむカエデでした。

カエデを好んだ代表は、やはり將軍吉宗が代表です。享保九年（1724）に清国から献上された「トウカエデ」に関心を持ち、染井の植木屋で霧島屋の五代目伊藤伊兵衛政武に日本産の「深山楓」に接木させ、その苗木を与え、増やして世間に広めるようにと命じたそうです。

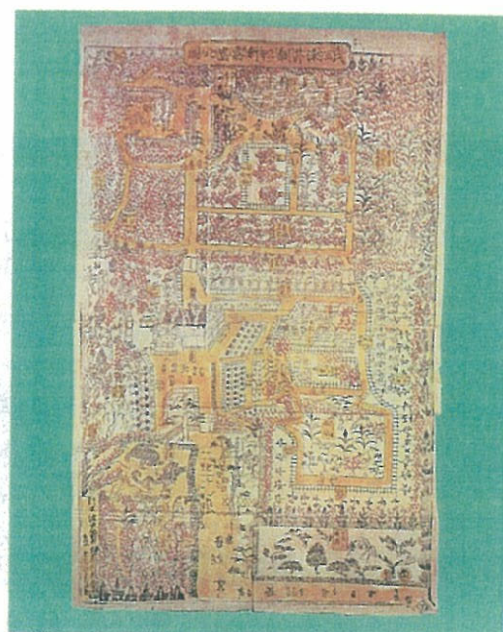
霧島屋は、三代目伊藤三之丞の頃より江戸きつての植木屋との評判があったようですが、五代目の伊藤伊兵衛政武の時代には將軍吉宗の御成があるなどその隆盛は頂点に達したようです。カエデについても三代目伊藤三之丞の著した『花壇地錦抄』には二三種があり他の植物に比して決して多くないのですが、伊兵衛政武の著した『花仙百色紅葉集』には、実に一〇〇種類が記されています。

伊兵衛政武は、なかなかの風流人であつたらしく、カエデの品種それぞれの特徴を古歌になぞらえました。一例ですが、その第一番の品種は、「小倉山」と名づけられ藤原定家の和歌から名づけられています。

霧島屋伊藤家の屋敷と庭（園芸センター）は、『武江染井翻紅軒霧島之図』に描かれています。その広大な庭と、豊富な植物は当時の伊藤家の隆盛を物語っています。この頃から、染井・巣鴨周辺には大きな植木屋が集まり、江戸のガーデンセンターとして幕末まで続きます。



からたちバナ「金剛縮緬」華陽画 山花亭記
維花園文庫蔵



武江染井翻紅軒霧島之図
豊島区郷土資料館蔵

寛政の橘

「白河の清きに魚も住みかねてもとの田沼の濁り恋しき」と歌われた、老中松平定信の寛政の改革（1787～1793）が定信の老中引退で幕を閉じた直後から、最近のバブル期にも似た投機熱が植物の世界でもありました。その植物がタチバナです。

タチバナは、植物学上は「カラタチバナ」といい、現代の我々の想像するミカンの一種の橘ではありません。派手な花が咲くわけでもなく、冬に実が赤くなりますがマンリヨウやセリヨウ（お正月に飾る）と比べてもそれほどはありません。

タチバナが投機対象となった理由としては、寛政の改革時代の儉約に対する反発もあったのかもしれませんが、やはりタチバナが葉の奇形や、斑が入るなど品種自体に他の品種との差別化ができ、さらに鉢植えであるため実物で取引ができたという点が大きかったと思われます。投機ブームは上方（京都・大阪）で始まり、あつという間に江戸でも広まったと言われています。一鉢が、一〇〇両以上の価格で取引引きされ、大阪では一鉢二三〇両（今の価格で約一億円）の値がついたという言い伝えもあります。

タチバナの流行は一時的なものでしたが、次の文化・文政時代には、現在、古典園芸植物と言われているものも含めて投機対象となりました。しかし、それだけの価格がつくだけ、その時代が豊かであり園芸がポピュラーなものであった一証ではないでしょうか。

庶民文化としての 園芸の円熟 (化政文化)

化政時代(1804~1829)は、江戸の文化がもつとも円熟した時代であったようです。小説の山東京伝・十返舎一九、俳諧の与謝蕪村・小林一茶、絵画では谷文晁・田能村竹田・葛飾北斎・歌川広重など絢爛たる時代を築いた文化人達が数えられます。

園芸の世界でも、今までの時代のようにひとつの花が流行するのではなく、さまざまな植物が栽培されたと同時に、植物が庶民の身近な楽しみとして定着した時代でもあります。

オモト(万年青)、マツバラン(松葉蘭)、セッコク(石斛)などの現在古典園芸と称される植物は、奇形や葉の斑の入り方などで希少性がもてはやされました。また、アサガオも花の色や形がいろいろと変化したものが珍重されました。共通している点は、ともに鉢植えであり、それほど大きな植物でないことから、大名屋敷や寺社のような広大な庭園がなくても栽培できる点です。

この当時、士農工商の身分を超えて同好の者が集まり盛んに品評会などを開催した記録が多く残っています。

また、元禄から正徳にかけて発展した植木屋が、菊人形を作って競ったり、新たな品種を開発して売り出したりと、現在の我々のガーデニングの楽しみ方とほとんど似たような状況であったようです。化政時代は、まさに江戸の園芸文化が花開いた時代と言うことができます。



繪本江戸桜「染井之植木屋」
東京都立中央図書館特別買上文庫蔵



松葉蘭刷り物 玉青堂愛甌
雑花園文庫蔵



万年青7種刷りもの 天保2年刊 雲停画
雑花園文庫蔵



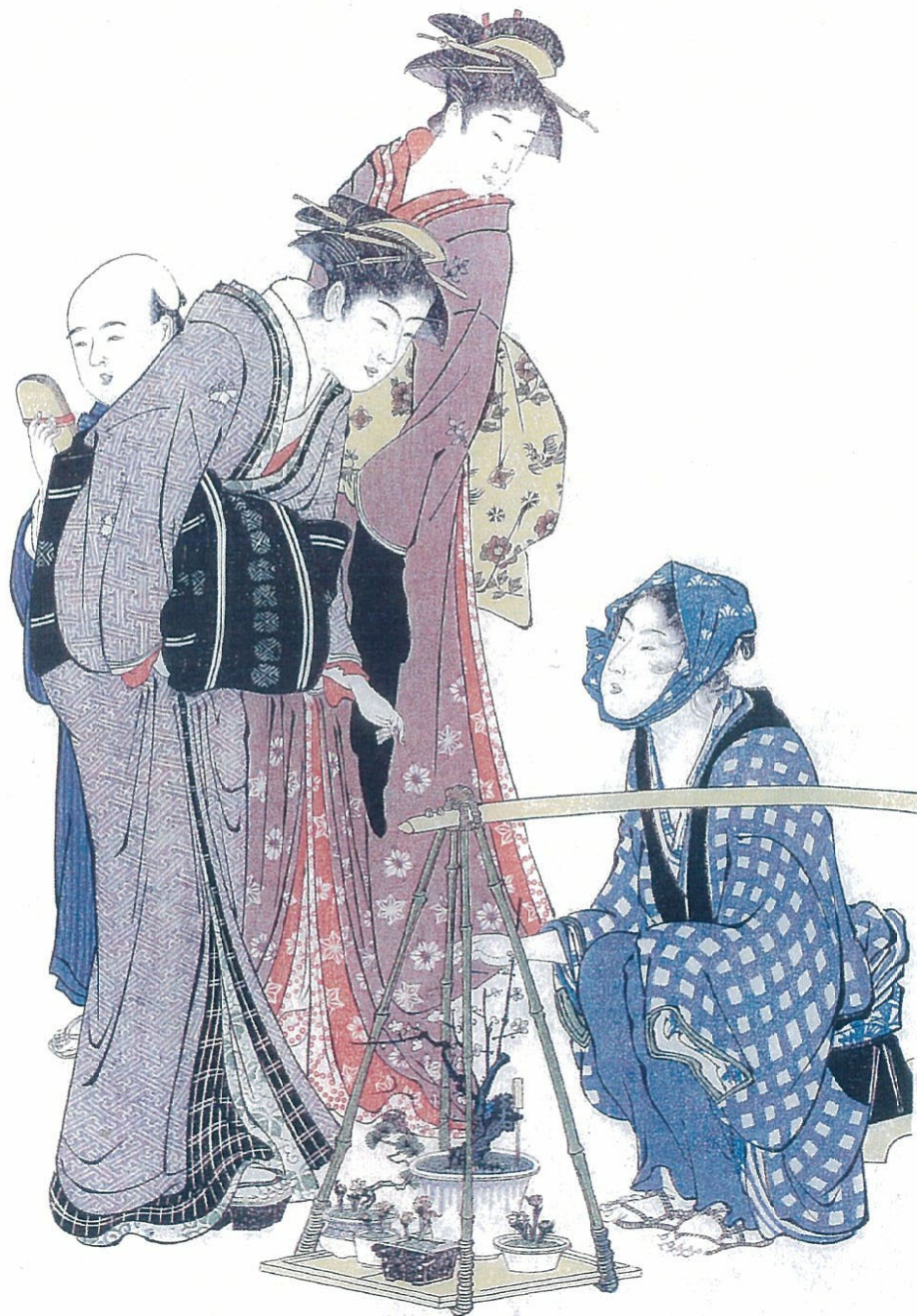
長生草相生獅子 白鷹刷りもの
雑花園文庫蔵



牽牛品類図考「桜台咲」「孔雀台咲」
雑花園文庫蔵



立花並次第不同 植幸記
雑花園文庫蔵



青木宏一郎著「江戸のガーデニング」(榊平凡社)
鳥居清長画『風俗東之錦』(千葉県立中央博物館蔵)



青木宏一郎著「江戸のガーデニング」(株平凡社)
歌川国貞(三代豊国)画『春雪梅ノ宴』(千葉県立中央博物館蔵)



青木宏一郎著「江戸のガーデニング」(関平凡社)
歌川国芳画『百種接分菊』(個人蔵)

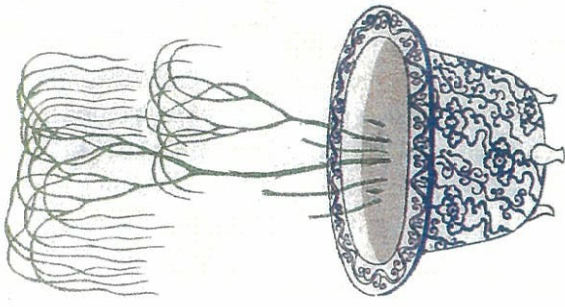




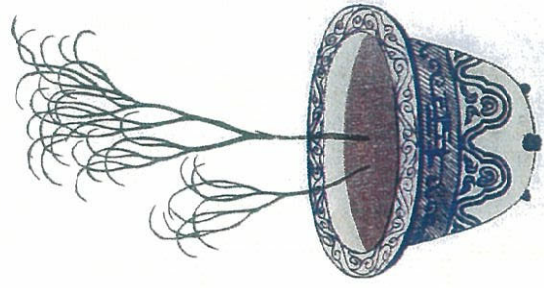
青木宏一郎著「江戸のガーデニング」(榎平凡社
『珍花福寿草』より各種フクジュソウ(千葉県立中央博物館蔵)

『松欄譜』より各種のマツバラン。天保8年に、深見玉青堂が三河の素封家・好事家の愛培品を平直忠義に図写させて刊行したもの。(千葉県立中央博物館蔵)

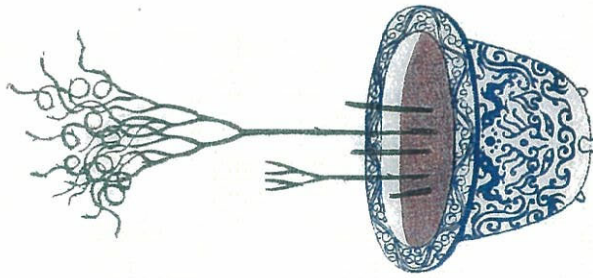
朝妻縮緬



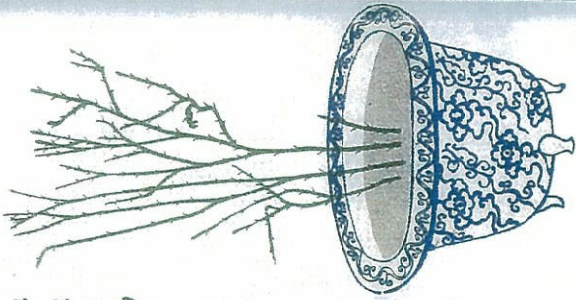
玉縮緬



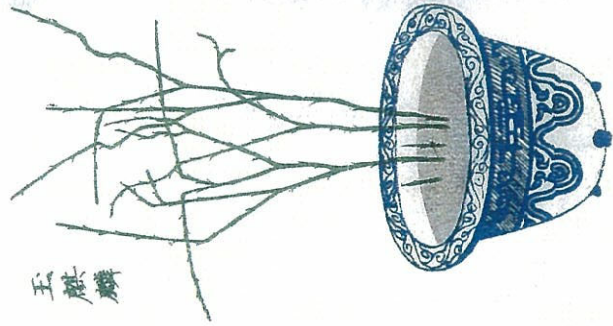
玉光縮緬



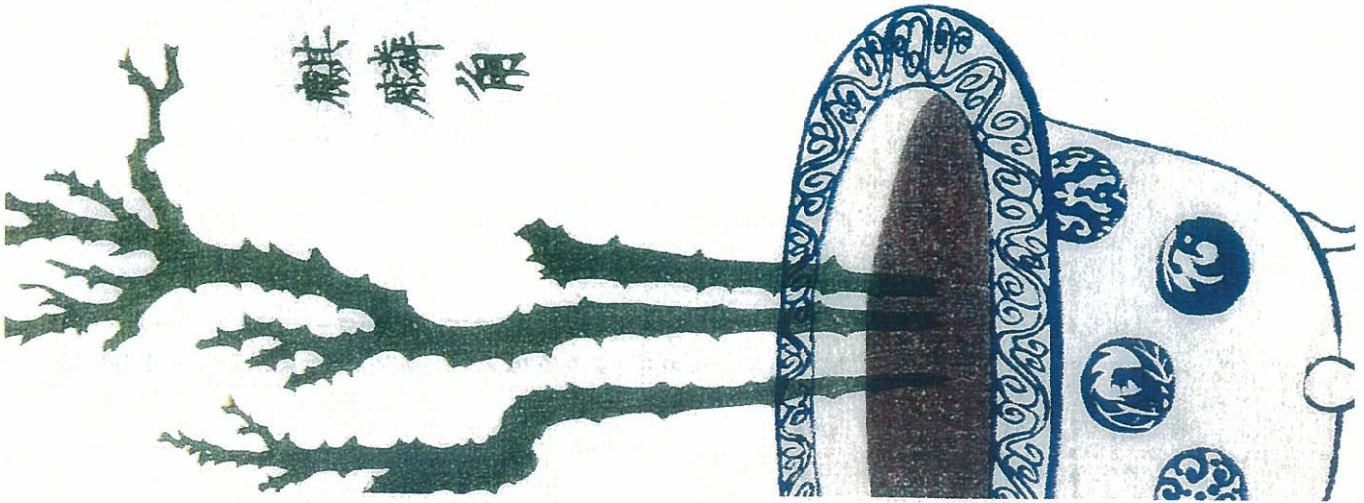
錦枝玉鶴



玉麒麟



麒麟角



上十条一丁目西町会

路地園芸トライアル

～上一西の路地を花や緑でいっぱいになろう～

第2回ワークショップ

「上一西路地園芸探検と 路地園芸ワークショップ」

日 時：平成18年3月30日(木) 13:30～16:00

会 場：上十条一丁目西町会会館2階

参加費：無 料

講 師：片山陽介（かたやまようすけ）氏

株式会社 グリーンダイナミクス植物調査室

賀来宏和（かくひろかず）氏

株式会社 グリーンダイナミクス代表取締役



上一西路地園芸探検

60分

- ・ 上一西の園芸を発見して、楽しもう
- ・ 園芸のこつを専門家から現場で直接聞こう



上一西の路地を専門家と一緒に探検し、どんな花や木が植わっているのかを発見します。思っていない花や木が植わっているかもしれません。専門家から手入れ方法や見せ方等々、現場で直接園芸のこつを聞いてしまいましょう。

ワークショップ 「路地園芸トライアル」

90分

- ・ 路地を園芸で彩る方策をみんなで考えよう

上一西の実際の路地を選んで、専門家と一緒にその路地の園芸を考えます。路地に合わせた植物の選び方、アレンジメント・しつらえ、季節の移り変わりを花で演出などなど・・・



連絡先：上十条一丁目西町会町会長 沖田光泰（TEL：03-3908-2714）

主 催：上十条一丁目西町会、全国路地のまち連絡協議会

後 援：北区環境課・(財)北区まちづくり公社、十條あすみの会

(財)都市化研究公室補助事業

上十条一丁目西町会

路地園芸トライアル

～上一西の路地を花や緑でいっぱいになろう～

第3回ワークショップ

「路地園芸実践トライアル」



みんなの大切な生活空間である路地の園芸を見直して、
自慢できる上一西の街並み景観を創りませんか。

園芸の専門家とまちづくりの専門家が、
皆さんの魅力ある路地づくりをお手伝いします。



日 時：平成18年4月25日(火) 13:30～16:30

会 場：上十条一丁目西町会会館2階 **<雨天決行>**

上十条一丁目17番21・22号前路地

参加費：無 料

講 師：片山陽介（かたやまようすけ）氏

株式会社 グリーンダイナミクス植物調査室

賀来宏和（かくひろかず）氏

株式会社 グリーンダイナミクス代表取締役



ワークショップ 「路地園芸実践トライアル」



- ・ 前回皆さんで議論した内容を、いよいよ実際の路地で実践します。
- ・ 土の入れ替え、プランターの設置、花苗の植え付けを行いますので、汚れても良い衣服でお集まりください。

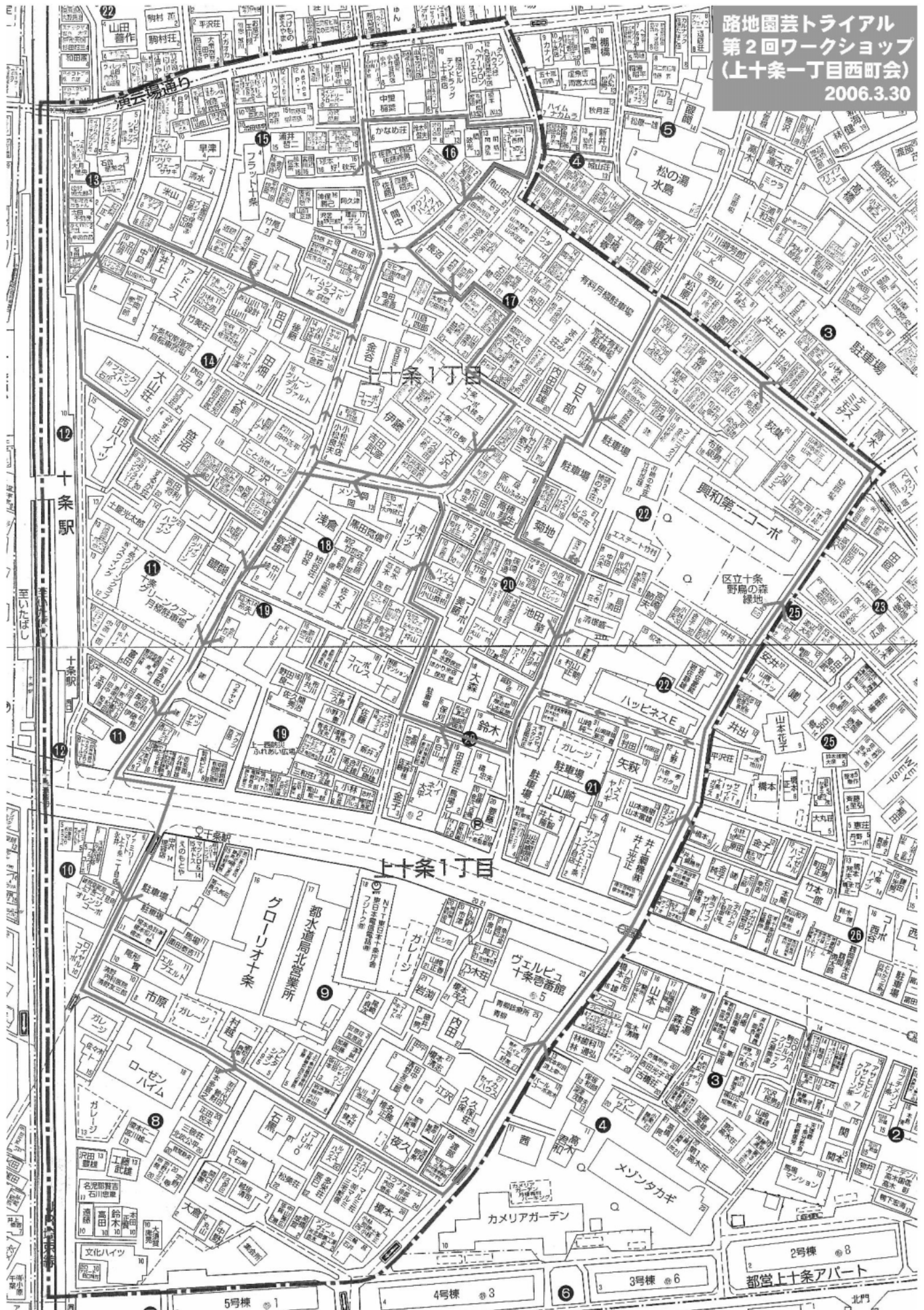
連絡先：上十条一丁目西町会町会長 沖田光泰（TEL：03-3908-2714）

主 催：上十条一丁目西町会、十條あすみの会、全国路地のまち連絡協議会

後 援：北区環境課・(財)北区まちづくり公社

(財)都市化研究公室補助事業

路地図芸トライアル
第2回ワークショップ
(上十条一丁目西町会)
2006.3.30



平成 18 年 5 月

『北区上十条一丁目西地区路地園芸トライアル報告書』

発 行：全国路地のまち連絡協議会

総合調整：株式会社 都市計画同人

〒162-0831 東京都新宿区横寺町 58-1-4F TEL. 03-3267-4147 / FAX.03-3267-6369

技術指導：株式会社 グリーンダイナミクス

〒270-0034 千葉県松戸市新松戸 4-65-1-4F TEL. 047-348-6959 / FAX.047-343-7650

主 催：上十条一丁目西町会・十條あすみの会

後 援：財団法人 北区まちづくり公社

〒114-0001 東京都北区東十条 3-2-3-101 TEL.03-5959-2363 / FAX. 03-5959-2365

北区生活環境部環境課

〒114-8508 東京都北区王子本町 1-15-22 TEL.03-3908-1111 / FAX. 03-3905-3422

補 助：財団法人 都市化研究公室

〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15-534 TEL.03-3402-8041 / FAX.03-3470-0490

